香北町埋蔵文化財発掘調査報告書第４集

仁井田遺跡

－個人営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２００６．２

高知県 香美郡 香北町教育委員会

仁井田遺跡

－個人営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２００６．２

高知県 香美郡 香北町教育委員会

仁井田遺跡遠景（矢印部分）

序

この報告書は、個人がほ場の整備工事を実施するのに伴い、平成16年晩秋から初冬にかけて発掘調査が行われた仁井田遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書であります。

今回の発掘調査により、仁井田遺跡は今から約2500年前の縄文時代と弥生時代の狭間の時期の遺跡であることが判明し、高知県中央部及び東部地域における弥生時代の開始とその文化の定着を明らかにする上で極めて重要な資料を提示することとなりました。

この発掘調査で明らかにされたものは、香北の地における先人が遺してくれた貴重な歴史的文化的遺産であります。また、発掘調査の成果と出土した遺物についての検討を加える過程で導き出された成果を、健全な地域と社会を築いていくための知識及び礎として活かすことが、現代に生き、未来を生きようとする我々に課せられた大きな責務と考えております。

本書が香北の地及び各地に所在する文化財の保存活用に活かされ、また香北の地から発信された学術的・歴史的資料として学校教育、社会教育などに広く活用頂ければ幸いに存じます。

この発掘調査を実施するにあたりまして、地権者のご協力並びに関係者各位より頂いたご指導に対して、衷心より深く御礼申し上げます。

平成18年２月

香北町教育委員会　教育長　岡　村　彰　三

例　　言

1．本書は、香北町教育委員会が平成16年度に実施した個人営ほ場整備事業に伴う仁井田遺跡の発掘調査報告書である。

2．所在地　高知県 香美郡 香北町吉野字横枕380

3．調査面積　500㎡

4．調査体制

平成15年度　教育長　梶原正道
教育次長　岡村博公(調査事務)
社会教育係長　吉本浩二(調査事務)
臨時埋蔵文化財調査員　松本安紀彦(調査担当)

平成16年度　教育長　梶原正道
教育次長　岡村博公(調査事務)
社会教育係長　日和佐干城(調査事務)
臨時埋蔵文化財調査員　松本安紀彦(調査担当)

平成17年度　教育長　梶原正道(～平成17年５月14日)
岡村彰三(平成17年５月15日～)
教育次長　久保和昭
社会教育係長　日和佐干城(調査事務)
社会教育係　小松慶久(調査事務)
非常勤埋蔵文化財調査員　松本安紀彦(調査事務・調査担当)

5．調査期間

(1) 試掘調査　平成16年１月15日

(2) 本調査　平成16年11月４日～12月20日

6．本書の執筆及び編集は松本安紀彦が行った。第Ⅴ章については小林謙一及び学術創成研究グループが行った。

7．発掘調査及び整理作業で下記の方々の協力を得た(敬称略)

(発掘調査)　千頭将彦　宗石富恐　武内秀美　山崎祐子　横田壽子　吉川誠喜　吉川徳子
恒石通子　池田壽夫　近森眞稔

(整理作業)　門脇菜乃花・山中美代子

(重機運用・測量)　原田幸寿(有限会社 原田建設)　上田幸正(上田測量)

8．発掘調査及び報告書作成にあたり、下記の諸氏・諸機関から助言・教示、資料調査のご協力を賜った。ここに記して感謝するものである。(敬称略　五十音順)

遠部慎・小林謙一(国立歴史民俗博物館)　久家隆芳・坂本憲昭・出原恵三・前田光雄・森田尚宏・山本哲也（高知県埋蔵文化財センター）　高知県教育委員会

(財)高知県埋蔵文化財センター

9．方位は磁北である。

10. 出土遺物は「04－KN」と注記し、関連図面・写真と共に香北町教育委員会で保管を行っている。

11. 実測図断面が黒塗りのものについては縄文の系譜のものを意味し、白抜きのものについては弥生時代以降のものを意味する。内外面実測図において、黒塗り部分は欠損を意味する。

12. 石器は2/3で掲載している。土器は基本的に1/2で掲載しているが、報告番号75・112・116・176については1/4で掲載している。1/2の場合、各スケール最大値は５cmであるが、1/4の場合、10cmとなる。

13. 遺構と考えられたものについては検出した順番に番号を与えた。しかし、半截して遺構かどうかの確認を行なった結果、遺構ではないと判断したものがあるため、報告した遺構については番号が飛んでいるものがある。

本文目次

第Ⅰ章　調査に至る経緯 …… 1

第Ⅱ章　遺跡周辺の地理的歴史的環境 …… 3
第１節　地理的環境
第２節　歴史的環境

第Ⅲ章　調査の概要 …… 5
第１節　調査区の設定及び調査の方法
１．調査区の設定
２．調査の方法
第２節　基本層序

第Ⅳ章　調査成果 …… 9
第１節　第３層出土遺物
第２節　第４層直上出土遺物
第３節　第４層上層出土遺物
第４節　第４層中層出土遺物
第５節　第４層下層出土遺物及び表面採集遺物
第６節　試掘調査出土遺物
第７節　第４層上面検出遺構
第８節　第４層中層上面検出遺構
第９節　第７層上面検出遺構

第Ⅴ章　香北町　仁井田遺跡の^{14}C年代測定 …… 42

第Ⅵ章　まとめ …… 46
第１節　南四国の弥生前期初頭について
第２節　仁井田遺跡出土の遺物について
第３節　仁井田遺跡出土の遺構について
第４節　^{14}C年代測定について
第５節　総括

挿図目次

第１図－香北町位置図 …… 1
第２図－香北町内遺跡位置図 …… 2
第３図－仁井田遺跡調査区北壁土層図 …… 6
第４図－仁井田遺跡周辺遺跡分布図 …… 7
第５図－仁井田遺跡調査対象地位置図 …… 7
第６図－仁井田遺跡調査区グリッド割図 …… 8
第７図－仁井田遺跡第３層出土遺物グリッド分布図 …… 10
第８図－仁井田遺跡第３層出土遺物ドット分布図 …… 11
第９図－仁井田遺跡第３層出土遺物① …… 12
第10図－仁井田遺跡第３層出土遺物② …… 13
第11図－仁井田遺跡第３層出土遺物③ …… 14
第12図－仁井田遺跡第３層出土遺物④ …… 15
第13図－仁井田遺跡第４層出土遺物グリッド分布図 …… 17
第14図－仁井田遺跡第４層直上出土遺物ドット分布図 …… 18
第15図－仁井田遺跡第４層直上出土遺物① …… 19
第16図－仁井田遺跡第４層直上出土遺物② …… 20
第17図－仁井田遺跡第４層上層出土遺物ドット分布図 …… 22
第18図－仁井田遺跡第４層上層出土遺物① …… 23
第19図－仁井田遺跡第４層上層出土遺物② …… 24
第20図－仁井田遺跡第４層中層出土遺物ドット分布図 …… 26
第21図－仁井田遺跡第４層中層出土遺物 …… 27
第22図－仁井田遺跡第４層下層出土及び表面採集等遺物 …… 29
第23図－仁井田遺跡試掘調査試掘坑位置図及び土層柱状図 …… 30
第24図－仁井田遺跡試掘調査出土遺物 …… 31
第25図－仁井田遺跡第４層上面検出遺構分布図 …… 33
第26図－仁井田遺跡Pit1・2・7・8、SK3・4遺構図 …… 34
第27図－仁井田遺跡SK11～13遺構図 …… 35
第28図－仁井田遺跡SK15・16遺構図 …… 36
第29図－仁井田遺跡SK20遺構図及び出土遺物 …… 37
第30図－仁井田遺跡SK21遺構図 …… 38
第31図－仁井田遺跡第４層中層上面及び第7層上面検出遺構分布図 …… 39
第32図－仁井田遺跡SK10遺構図及び出土遺物① …… 40
第33図－仁井田遺跡SK10出土遺物② …… 41

表　目　次

第１表－高知県香北町仁井田遺跡・美良布遺跡^{14}C年代測定結果と暦年較正年代　…… 44
第２表－高知県香北町仁井田遺跡・美良布遺跡^{14}C年代測定試料の較正年代確率密度分布　…… 45
第３表－出土遺物観察表①　…… 53
第４表－出土遺物観察表②　…… 54
第５表－出土遺物観察表③　…… 55
第６表－出土遺物観察表④　…… 56
第７表－出土遺物観察表⑤　…… 57
第８表－出土遺物観察表⑥　…… 58
第９表－出土遺物観察表⑦　…… 59
第10表－出土遺物観察表⑧　…… 60

写真図版目次

図版１－１　仁井田遺跡　調査区北壁土層
図版１－２　仁井田遺跡第４層上面検出状況
図版２－１　仁井田遺跡Pit１・２完掘状況
図版２－２　仁井田遺跡SK3完掘状況
図版２－３　仁井田遺跡SK4完掘状況
図版３－１　仁井田遺跡Pit7完掘状況
図版３－２　仁井田遺跡Pit8完掘状況
図版３－３　仁井田遺跡SK11完掘状況
図版３－４　仁井田遺跡SK12完掘状況
図版４－１　仁井田遺跡SK13完掘状況
図版４－２　仁井田遺跡SK15半截状況
図版４－３　仁井田遺跡SK16完掘状況
図版４－４　仁井田遺跡SK20完掘状況
図版５－１　仁井田遺跡SK21完掘状況
図版５－２　仁井田遺跡SK10完掘状況
図版５－３　仁井田遺跡SK21・SK10検出状況
図版６　仁井田遺跡第３層出土遺物（報告№1～15）
図版７　仁井田遺跡第３層出土遺物（報告№16～28）

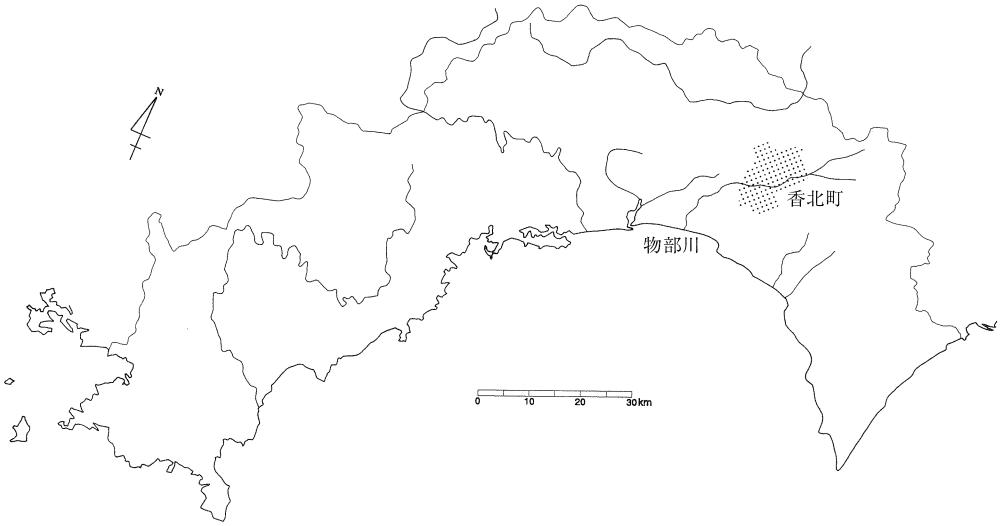
図版８　仁井田遺跡第３層出土遺物（報告№29～39）
図版９　仁井田遺跡第３層出土遺物（報告№41～52）
図版10　仁井田遺跡第３層出土遺物（報告№53～57、60～63）
図版11　仁井田遺跡第３層出土遺物（40・58・59）
図版12　仁井田遺跡第４層直上出土遺物（報告№64～75）
図版13　仁井田遺跡第４層直上出土遺物（報告№76～81）
図版14　仁井田遺跡第４層直上出土遺物（報告№82～89）
図版15　仁井田遺跡第４層上層出土遺物（報告№91～101）
図版16　仁井田遺跡第４層上層出土遺物（報告№102～111）
図版17　仁井田遺跡第４層上層出土遺物（報告№112～116）
図版18　仁井田遺跡第４層上層出土遺物（報告№117～120）
図版19　仁井田遺跡第４層中層出土遺物（報告№121～127）
図版20　仁井田遺跡第４層中層出土遺物（報告№128～137）
図版21　仁井田遺跡第４層中層出土遺物（報告№138・139）
図版22　仁井田遺跡第４層下層出土遺物（報告№140～146）
図版23　仁井田遺跡表面採集遺物（報告№147～157）
図版24　仁井田遺跡試掘調査出土遺物（報告№158～162）
図版25　仁井田遺跡SK20出土遺物（報告№163・164）
図版26　仁井田遺跡SK10出土遺物（報告№165～172、174～178）
図版27　仁井田遺跡SK10出土遺物（173・178～180）
図版28　仁井田遺跡第４層直上出土遺物（報告№90）
図版29　仁井田遺跡^{14}C年代測定試料写真

第Ⅰ章　調査に至る経緯

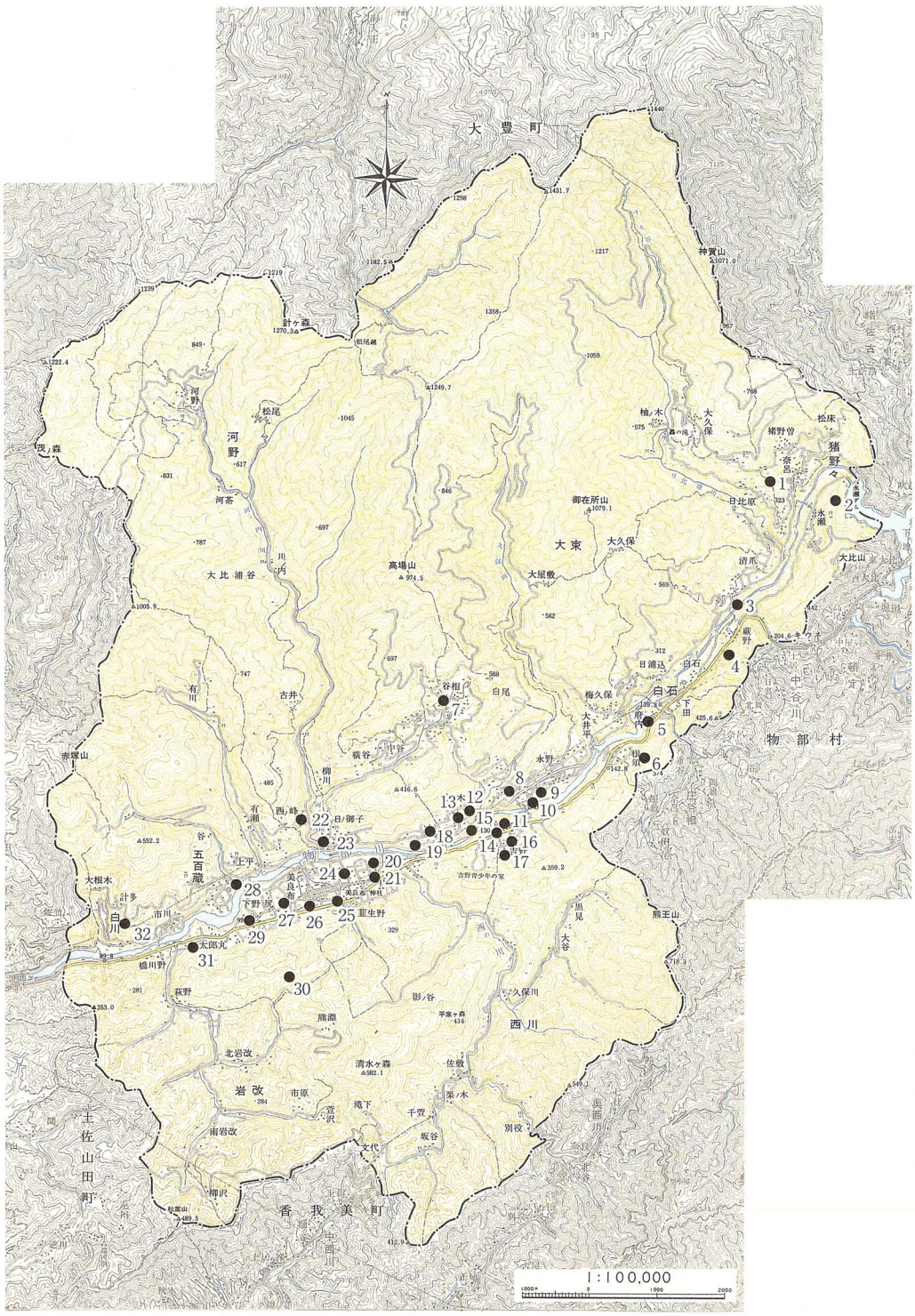
仁井田遺跡は高知県香美郡香北町吉野に所在する。平成元年に町内遺跡の分布確認調査が行われた際、石鏃・弥生土器・土師器が表面採集されたのが発見の契機である。その際に縄文遺跡としての魅力が指摘されていた。

平成15年晩秋に仁井田遺跡内において、個人営のほ場整備が計画され、地権者より町教育委員会に連絡があった。周知の埋蔵文化財包蔵地範囲内であったため、事前に遺跡の所在の有無及びその性格を把握する必要が生じた。そのため平成16年１月に試掘確認調査を行い、縄文土器・弥生土器及び石器等40点余の出土が見られ、その遺存状況が良好であったことから、遺物包含層に影響の及ぶ開発が行われる際には、前もって発掘調査を行う必要があると判断した。

その後、地権者と協議を行い、その開発計画から遺跡が破壊される可能性が考えられた。よって、破壊を受ける区域について、記録保存を行うこととし、平成16年度国宝重要文化財等保存整備費補助金と平成16年度高知県埋蔵文化財発掘調査事業費補助金を受け、発掘調査を行った。本報告書は平成17年度国宝重要文化財等保存整備費補助金と平成17年高知県埋蔵文化財発掘調査事業費補助金を受け、刊行するものである。



第１図ー香北町位置図



1	猪野城跡	2	永瀬(山本)城跡	3	清瓜城跡	4	轡城跡	5	府内遺跡	6	根須城跡		
7	谷相城跡	8	永野城跡	9	柳ノ本遺跡	10	永野城跡	11	仁井田遺跡	12	朴ノ木遺跡		
13	宮の前遺跡	14	吉野城跡	15	前田の土居遺跡	16	五反田遺跡	17	西の町遺跡	18	大小合遺跡		
19	朴ノ木城跡	20	東下タナロ遺跡	21	有光城跡	22	有瀬城跡	23	日ノ御子経塚	24	西オソバ遺跡		
25	美良布遺跡	26	中屋敷遺跡	27	東笹岡遺跡	28	五百蔵遺跡	29	堂の前遺跡	30	萩野城跡		
31	刈谷我野遺跡	32	白川城跡										

第2図ー香北町内遺跡位置図

第Ⅱ章　遺跡周辺の地理的歴史的環境

第１節　地理的環境

仁井田遺跡は香北町吉野字横枕周辺に広がる遺跡であり、町内を貫流する一級河川・物部川によって形成された河岸段丘上に立地している。

物部川は高知県と徳島県の県境近くの三嶺山系(標高1893m)に源を発す。急峻な山間地を小蛇行を繰り返しながら流れ、中流域においては大小幾つもの河岸段丘を発達させながら、物部村・香北町・土佐山田町を経て、太平洋へと注ぎ込む。これらの河岸段丘は右岸よりも左岸によく発達しているが、これは物部川へ注ぎこむ河川が蛇行を繰り返しながら穏やかに流れているために河岸段丘上に小扇状地が発達しているからである。これは地質が右岸は秩父帯に属すのに対し、左岸は四万十帯に属することに由来する。左岸最大の河岸段丘は美良布であり、仁井田遺跡の所在する吉野はそれに次ぐ規模の河岸段丘である。

物部川の流れは、土佐山田町杉田付近でほぼ90度南へ転進すると共に急峻な山間地は終わり、同町神母木付近から川幅を大きく広げて、南国市・野市町に広がる高知平野・香長平野を潤している。この川には江戸時代に野中兼山により山田堰が作られ、用水が開発された。現在の高知平野の穀倉地帯の形成は、この水利工事無くしては成り立っていないのであり、野中兼山と工事に携わった民衆の力は高知県発展の礎となったと言えよう。時代が下り、この川は下流域と中上流域を結ぶ交通路としての役割を果たしていたが、治水と発電目的のためのダムが建設されたため、その役割を国道に譲った。本来の河床は現在の川面より20mほど下にあると考えられる。

仁井田遺跡は上記のような環境で育まれた遺跡であり、高知県中央部及び東部における弥生時代の開始とその文化の定着を考える上で重要な遺跡である。

第２節　歴史的環境

香北町内で埋蔵文化財包蔵地として指定されているのは32箇所であり、旧石器時代は永野に位置する永野長岡遺跡が挙げられる。縄文時代になると遺跡数が増え、永野長岡遺跡・仁井田遺跡・東下タナロ遺跡・美良布遺跡が挙げられる。弥生時代の遺跡は刈谷我野遺跡・五百蔵遺跡・堂の前遺跡・東笹岡遺跡・中屋敷遺跡・美良布遺跡・西オソバ遺跡・朴ノ木遺跡・仁井田遺跡・五反田遺跡が挙げられる。

とりわけ美良布遺跡は縄文時代晩期から弥生時代全般を通じて集落を形成しており、継起的に発展したという指摘があるが、縄文時代早期の「蔦島式」と考えられた無文土器の出土や同じ時期の表面採集品も確認されていることから、縄文時代でも古い時期の遺構・遺物が埋蔵されている可能性を考慮しなければならない。後に後述する美良布神社の社宝で重要文化財である２口の突線紐式銅鐸は、神社の南にあったとされる金洞寺に伝わっていたという伝承や、出土したのは五百蔵地区という伝承もある。しかし、どのような経緯で伝わって、いつ美良布神社に納められたものなのかについては記録がない。ただ『秦山集』(谷秦山　1702)には「拝参大川上美良布神社　口占」に２

口の銅鐸についての記述があることから、1702年時点では既に大川上美良布神社に納められていたと考えられる。この銅鐸が遠隔地より持ち込まれた可能性を否定して考えるならば、香北町域において所有できる能力を有していたと考えられるのは現段階では美良布遺跡だけである。高知県中央部においては南国市田村遺跡群が大集落として有名であるが、美良布遺跡はそれに次ぐ規模の政治的宗教的に発達した弥生集落であった可能性が考えられる。

また、美良布遺跡の発掘調査により、香北の弥生時代の開始は前期中葉とされていたが、今回、仁井田遺跡の発掘調査により、縄文時代の伝統である「突帯文土器」と弥生時代の開始を告げる特徴の一つである「遠賀川式土器」の出土が確認されたため、弥生時代の開始は前期前葉まで遡ることが明らかになった。また、同時期の南国市田村遺跡群の調査では、「遠賀川式土器」に伴う縄文の伝統に基づいた“純粋”な「突帯文土器」は確認されていない。よって、平野部における弥生時代の開始とその文化の定着と、山間部でのそのあり方は異なる可能性が指摘できる。

古墳時代の遺跡は確認されていない。しかし、弥生時代後期末～古墳時代初頭の「ヒビノキ式」に相当する土器が美良布遺跡や刈谷我野遺跡等で確認されている。また、平成17年11月初旬に行われた韮生野572における試掘確認調査では、先述した「ヒビノキ式」の遺物包含層及び遺物集中が確認され、集落遺跡としての可能性が指摘できるため、近日中に新設の埋蔵文化財包蔵地として申請する予定である。また、美良布遺跡では古墳時代の甕が包含層より出土しているため、古墳そのものはないにしても、土佐山田町に多数確認されている古墳の造営を支えた人々の集落の存在まで否定するのは早計である。

古代～平安時代の遺跡は現在のところ確認されていない。しかし「川上様」として知られる大川上美良布神社は、平安時代の宮中の年中儀式や制度及び律令の施行規則を記した「延喜式」の神名帳に記述のある式内社である。周辺に「川上様」を支えた集落及び豪族が必ず存在したはずであり、広域的に栄えていた地域であった可能性も考えられる。

中世～戦国時代にかけての遺跡は豊富であり、大きく分けて集落と平城・山城それぞれの城址に分けられる。前者に関しては府内遺跡・刈谷我野遺跡・五百蔵遺跡・堂の前遺跡・東笹岡遺跡・中屋敷遺跡・美良布遺跡・西オソバ遺跡・宮の前遺跡・朴ノ木遺跡・前田の土居遺跡・仁井田遺跡・五反田遺跡・西の町遺跡・柳ノ本遺跡・大小合遺跡が挙げられ、後者に関しては根須城跡・永野城跡・吉野城跡・朴ノ木城跡・萩野城跡・有光城跡・有瀬城跡・白川城跡・轡城跡・谷相城跡・清瓜城跡・永瀬城跡・猪野城跡が挙げられる。高知は山城の多い県であり、香北町も例外ではない。これらの城は土佐七雄の一人である山田氏の勢力圏であったが、山田氏滅亡後は長宗我部氏の支配下に収まったという。

第Ⅲ章　調査の概要

第１節　調査区の設定及び調査の方法

１．調査区の設定

香北町吉野字横枕380で計画された個人営のほ場整備に伴う事前調査として発掘調査を実施した。任意に４ｍグリッドを設定し、公共座標からそれぞれの杭に座標を与えた。

２．調査の方法

耕作土及び床土を重機で剥ぎ取った。その後、第３層上層まで重機で剥いでから人力掘削に切り替え、土器の大きな破片及び石器が出土した場合には光波測量による取り上げを行い、小破片についてはグリッド毎に各層一括資料として取り上げた。また、出土地点が不明なものについては、第３層と第４層一括として取り上げている。その結果、第３層出土・第４層直上・第４層上層・中層・下層・遺構出土・表面採集及び出土地点不明・各層一括の資料が得られた。第４層は人工的に上中下に分けている。第４層下層については出土点数が少なく、出土地点もまばらであった。よって、下層確認のためのトレンチ調査を行ったが、遺物の埋蔵は認められなかった。第４層下層からまばらに出土した遺物については、上層からの混入の可能性が考えられる。また、第４層上面で遺構が検出され、第４層中層で遺物の包蔵が確認され、第４層下層では遺物の出土がほとんど認められなかったため、生活面は第４層上面と第４層下層上面が考えられる。しかし第４層下層上面における明確な遺構の検出は見られなかった。第３層については、上層・下層に分けて調査を行ったが、水田耕作に伴うと考えられる鉄分吸着や撹乱が認められたため、報告に当たっては上層・下層を一括している。尚、調査時には上層をA層、下層をB層とし、注記もそれに従っている。

第２節　基本層序

第１層　耕作土(黄灰色　2.5Ｙ　5/1)。

第２層　床土(灰褐　7.5ＹＲ　5/2)。

第３層　黒褐色土層(7.5ＹＲ　3/1)。遺物包含層である。しまり強。粘性低。第２層と接する部分は鉄分吸着のため、赤みを帯びている。

第４層　黒褐色土層(10ＹＲ　3/1)。しまり弱。粘性高。２cm大の礫を含む。遺物包含層であり、この面上面及び中層上面で遺構が検出された。生活面と考えられる。

第５層　黒色土層(2.5Y　2/1)。黒ボクの二次堆積土と考えられ、人頭大の礫を含む。無遺物層。

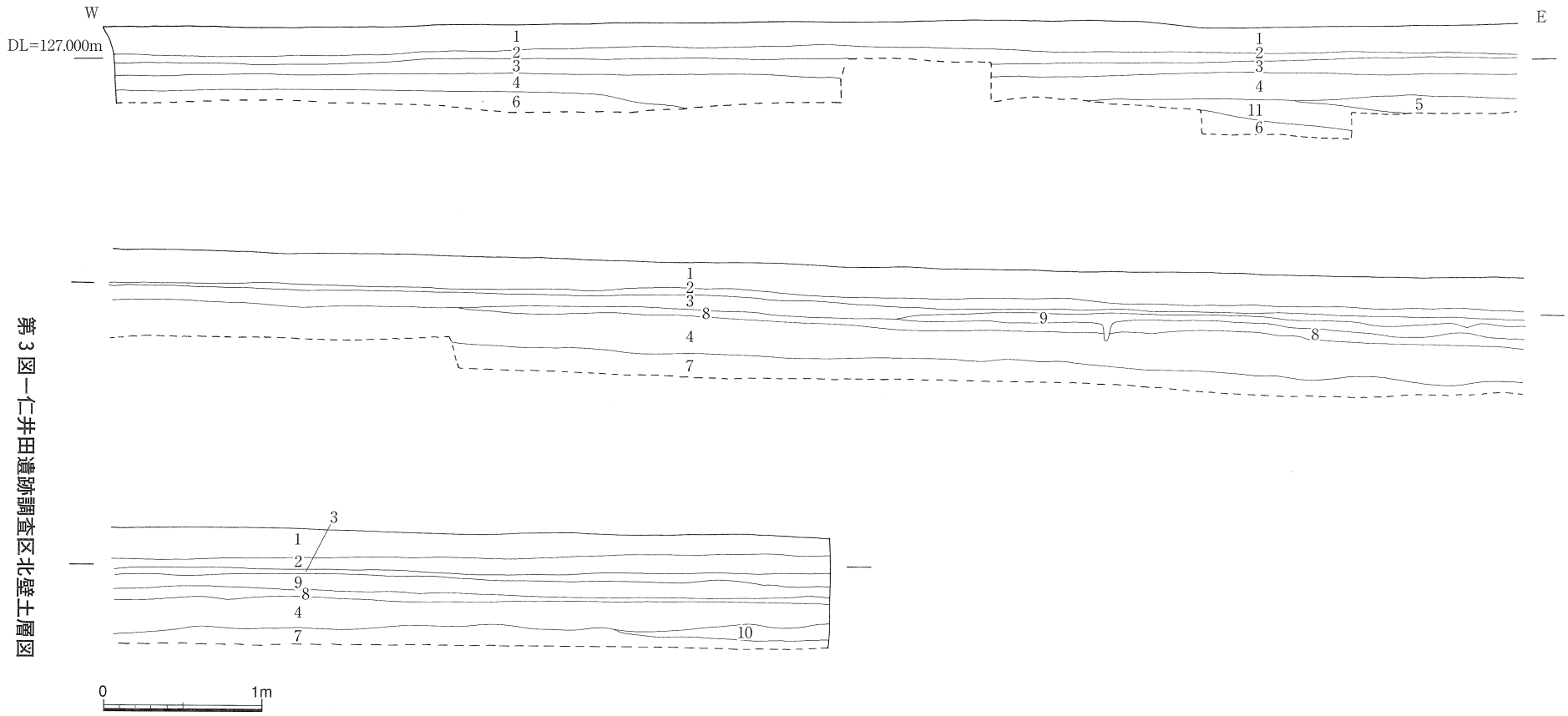
第６層　黄褐土層(2.5Y　5/3)。砂質で、１mm大の砂と１～３cm大の礫及び30～50cm大の礫を含む。無遺物層。

第７層　黒褐色土層(7.5YR　3/1)。黒ボク層である。キメ細かく、粘性高。無遺物層。

第８層　褐灰土層(10YR　4/1)。粘質土であり、調査区北東隅の第３層と第４層間に広がる。よって、第４層は第８層と後述する第９層にパックされたような状況である。無遺物層。

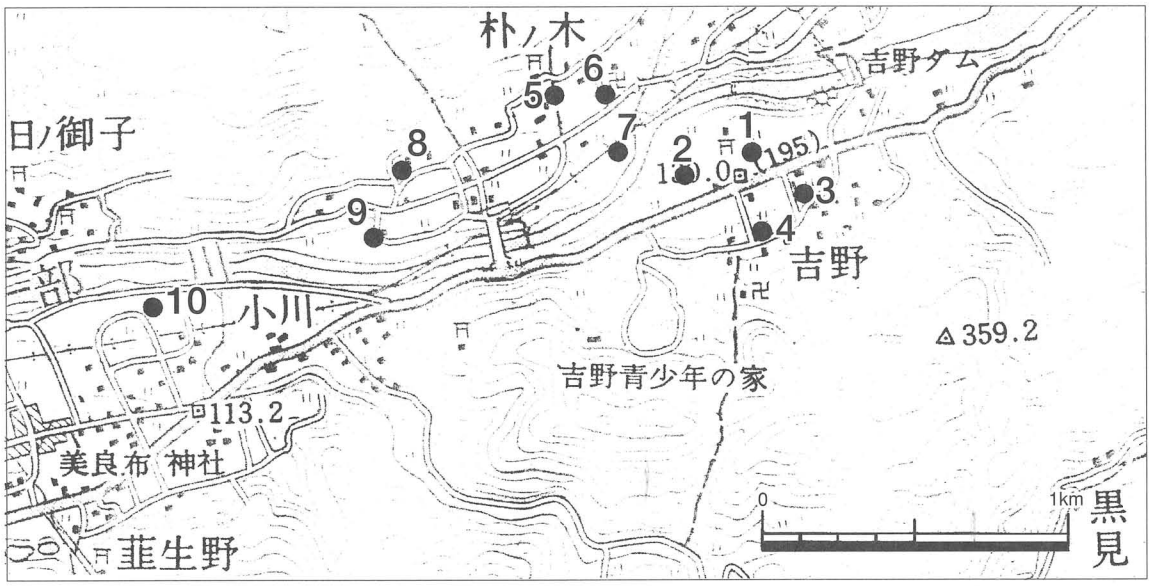
第９層　黒色土層(10YR　2/1)。しまり弱。粘性低。無遺物層。

第10層　７層と４層の混和層。無遺物層。



第3図ー仁井田遺跡調査区北壁土層図

1層　耕作土（黄灰色　2.5Y 5/1）
2層　床土（灰褐　7.5YR 5/2）
3層　黒褐色土層（黒褐　7.5YR 3/1）遺物包含層である。しまり強。粘性低。2層と接する部分には鉄分吸着のため赤みを帯びている。
4層　黒褐色土層（黒褐　10YR 3/1）しまり弱。粘性高。2cm大の礫を含む。遺物包含層であり、この面上面及び中層上面で遺構が検出された。
5層　黒色土層（黒　2.5Y 2/1）黒ボクの二次堆積土と考えられ、人頭大の礫を含む。
6層　黄褐色土層（黄褐　2.5Y 5/3）砂質で1mm大の砂と1～3cm大の礫及び30～50cm大の礫を含む。
7層　黒褐色土層（黒褐　7.5YR 3/1）黒ボク層である。キメ細かく、粘性高。
8層　褐灰土層（褐灰　10YR 4/1）粘質土である。調査区北東隅の第3層と第4層間に広がる。よって、第4層は第8層・第9層にパックされたような状況である。
9層　黒色土層（黒　10YR 2/1）しまり弱。粘性低。
10層　7層と4層の混和層。
11層　5層と6層の混和層。



1 ―仁井田遺跡　　5 ―宮の前遺跡　　9 ―朴ノ木城跡
2 ―吉野城跡　　6 ―ホオノキ遺跡　　10 ―東下タナロ遺跡
3 ―五反田遺跡　　7 ―前田の土居遺跡
4 ―西の町遺跡　　8 ―大小合遺跡

第 4 図―仁井田遺跡周辺遺跡分布図

第 5 図―仁井田遺跡調査対象地位置図（斜線部分）

第６図ー仁井田遺跡調査区グリッド割図

第Ⅳ章　調査成果

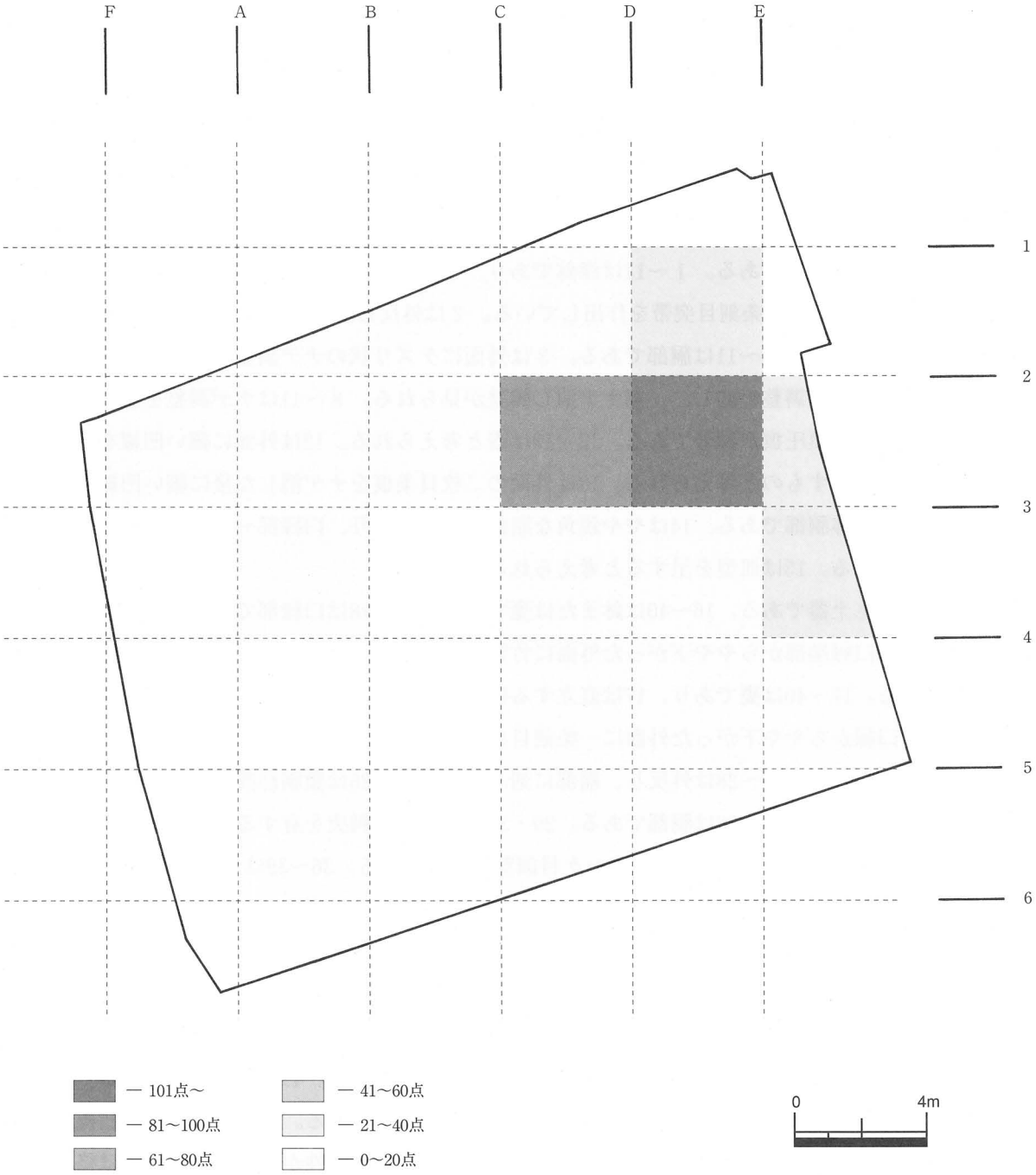
第１節　第３層出土遺物（第７～12図　報告№１～63）

３層全体ではG.C-2・D-2グリッドに遺物が集中する傾向が伺える。平面的には縄文系土器と弥生土器が混在している。

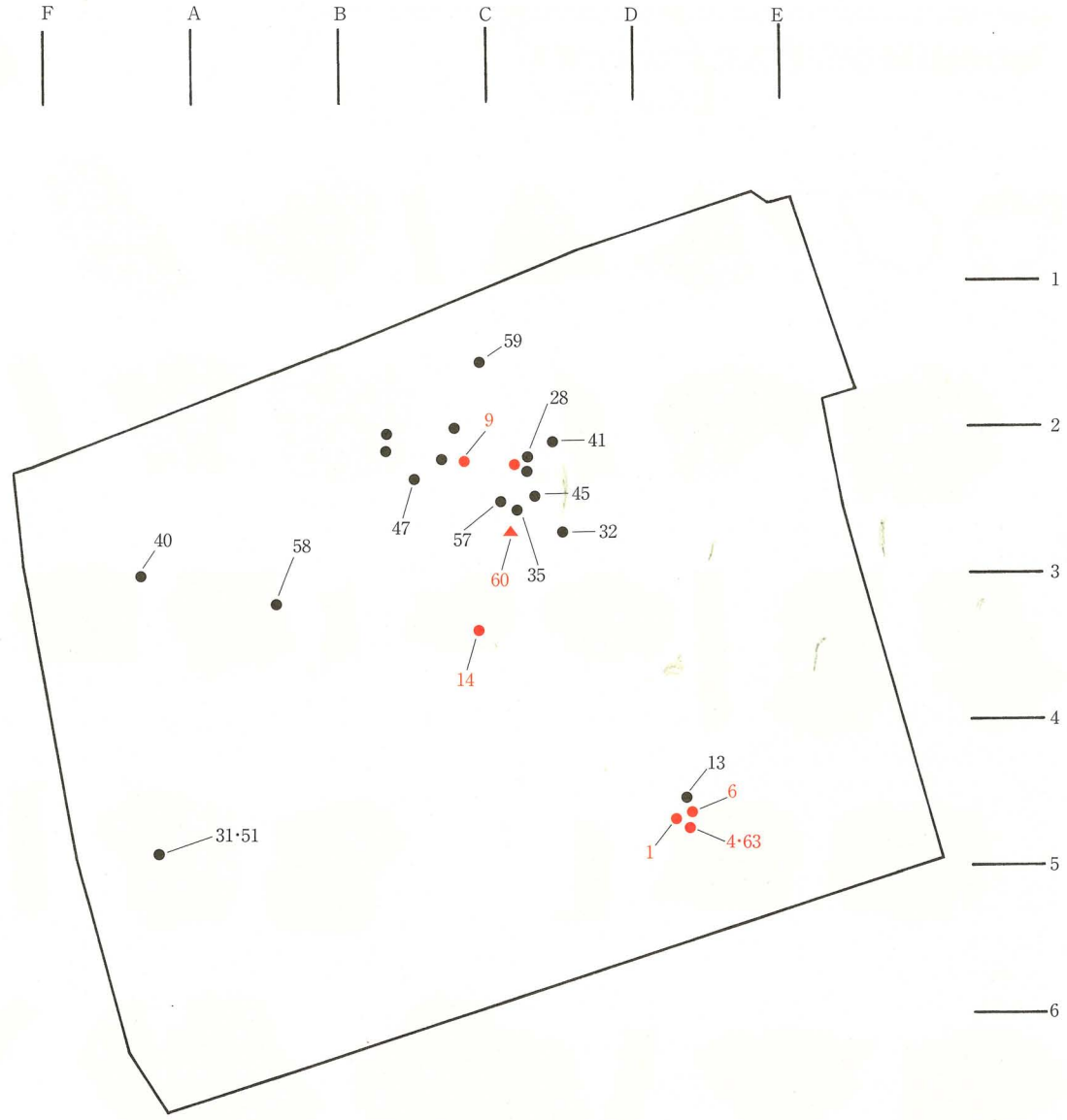
１～15は縄文系土器である。１～11は深鉢であり、１・２は口縁部である。１は外傾し、口縁よりやや下がった部分に一条刻目突帯を作出している。２は外反し、端部外面にキザミを有しており、胎土は１と類似する。３～11は胴部である。３は外面にケズリ状のナデ調整を施している。４～７は内外に二枚貝条痕調整を施し、一部ナデ消し調整が見られる。８～11はナデ調整を施しており、９・10は内面の指頭圧痕が顕著である。12・13は壺と考えられる。12は外面に細い凹線を有し、頸部と胴部の境を示すものと考えられる。13は外面の二枚貝条痕をナデ消した後に細い凹線文を有する。14・15は浅鉢胴部である。14はやや鋭角な屈曲を有しており、口縁部～頸部が短く立ち上がる器形が考えられる。15は皿型を呈すると考えられる。

16～59は弥生土器である。16～40は鉢または甕であり、16～28は口縁部である。16は鉢と考えられ、直立する口縁端部からやや下がった外面に竹管状工具による刺突文を有する。胎土は縄文系土器と類似する。17～40は甕であり、17は直立する口縁部上面に面取りを施し、外端にキザミを有する。また、口縁からやや下がった外面に一条刻目突帯を貼付しているため、突帯文土器が弥生化したものと考えられる。18～28は外反し、端部に刻みを有する。25は頸胴部間に凹線を有し、28は内端にも刻みを有する。29～39は胴部である。29・30は胴上端に刺突を有する。31～34は外面に顕著なハケ目調整を施している。35は内面にハケ目調整を施している。36～39はナデ調整を施している。40は底部であり、外面に顕著なハケ目調整を施している。41～59は壺であって、41～43は口縁である。41は器厚が厚く、大形壺のものと考えられる。42・43は比較的薄手であり、42は口縁部上面が緩く凹み、頸胴部間に乱雑な凹線を有する。44～47は頸部であり、頸胴部間に段を有するが、45は摩滅により、46は段作出後のミガキ調整により不鮮明になっている。48は皿形浅鉢に壺の口頸部を逆さにして接合したような極めて特殊な器形を呈すると考えられる。49～57は胴部である。49・50は外面に赤色顔料が残る。51は外面に顕著なミガキ調整を施している。53～57は外面に凹線文を有する。胎土も比較的洗練されており、非日常的な土器であった可能性が考えられる。56は格子目文を有する。57は胴最大径部に一条の刻み目突帯を作出し、その上に多重凹線文を有する。鋸歯状文ないしは三角形モチーフを描くと考えられる。58・59は底部であり、外面にミガキ調整を施す。

60は石鏃であり、比較的基部が広がる。61・62は二次加工のある剥片で、掻器・削器として考えられる。いずれも金山産サヌカイト製の可能性が高い。63は碁石状を呈し、一部に摩滅痕が認められる。使用目的及び石材は不明であるが、包含層及び地山には含まれないため、意図的に遺跡内に持ち込まれた可能性がある。今後の資料の増加によって判断したい資料である。



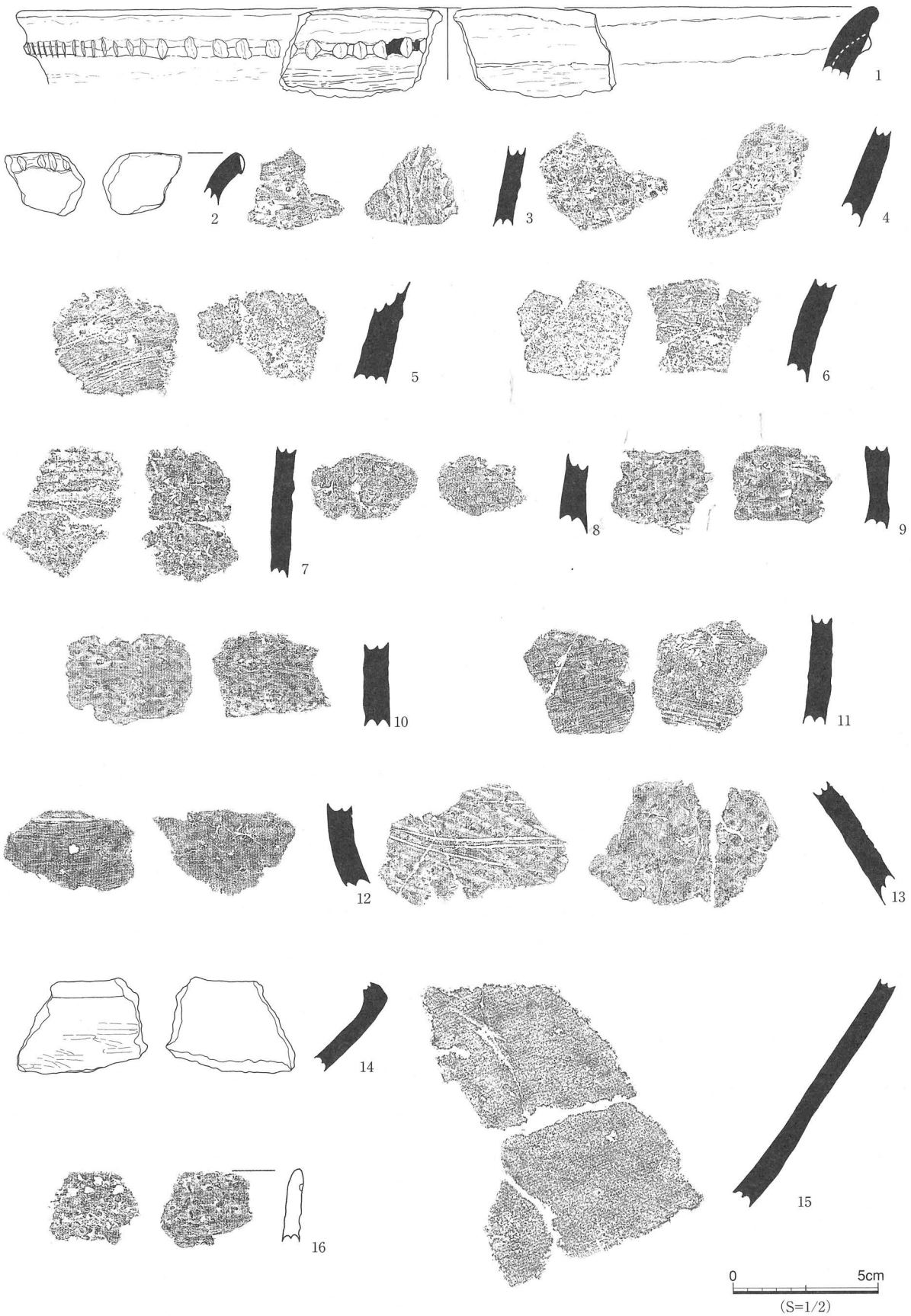
第７図ー仁井田遺跡第３層出土遺物グリッド分布図



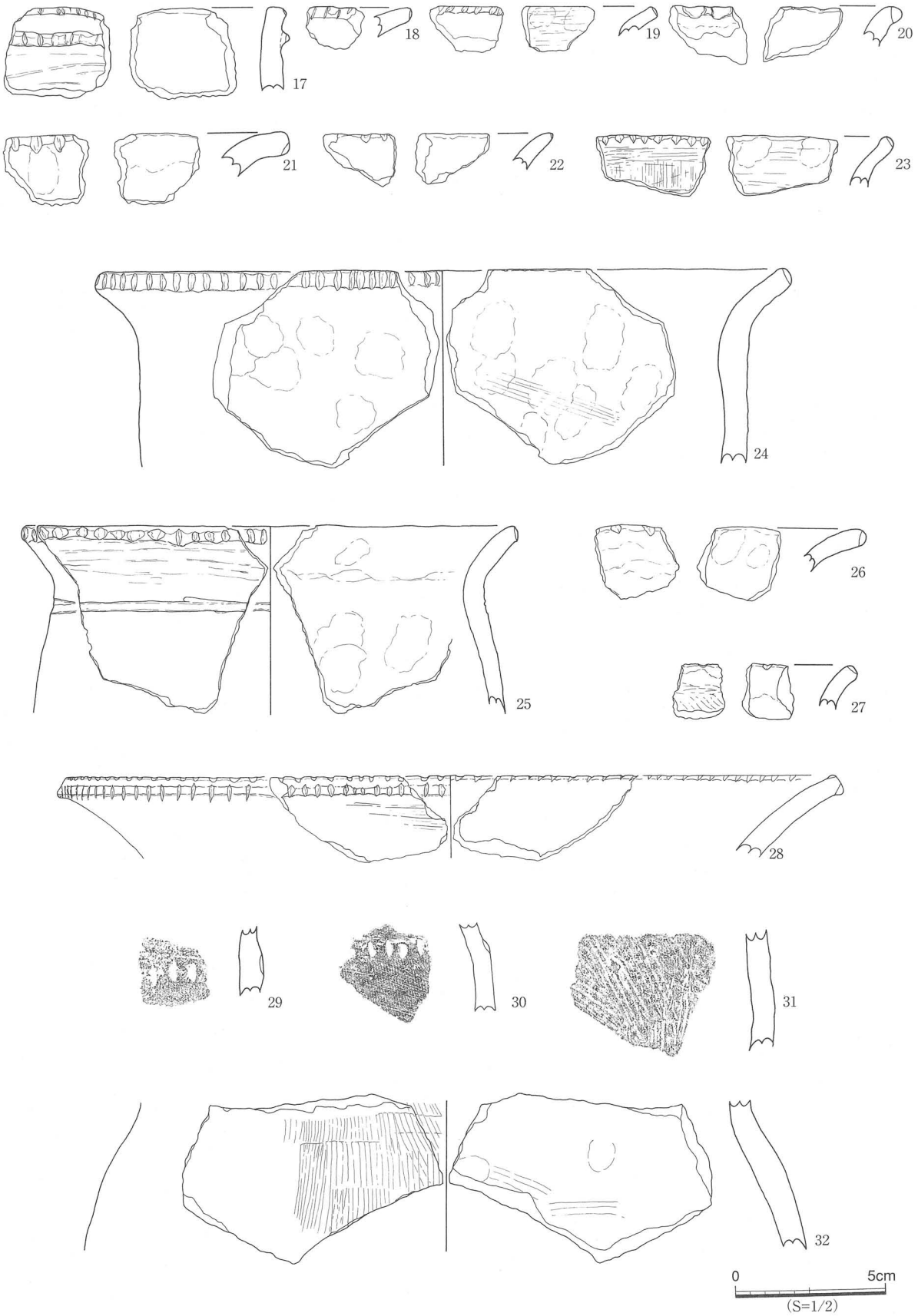
● — 弥生土器
● — 縄文土器
▲ — 石鏃

0 4m

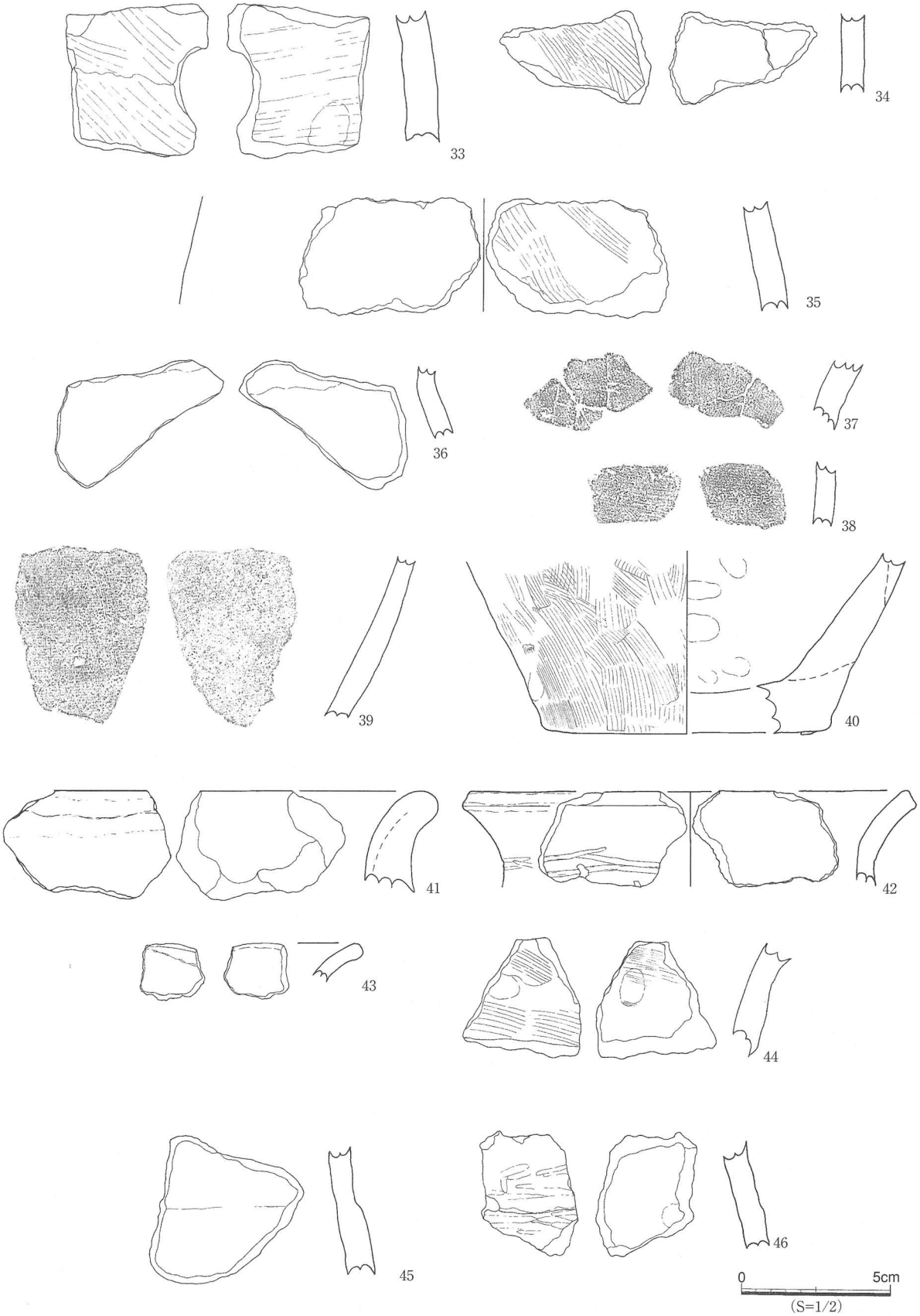
第 8 図ー仁井田遺跡第 3 層出土遺物ドット分布図



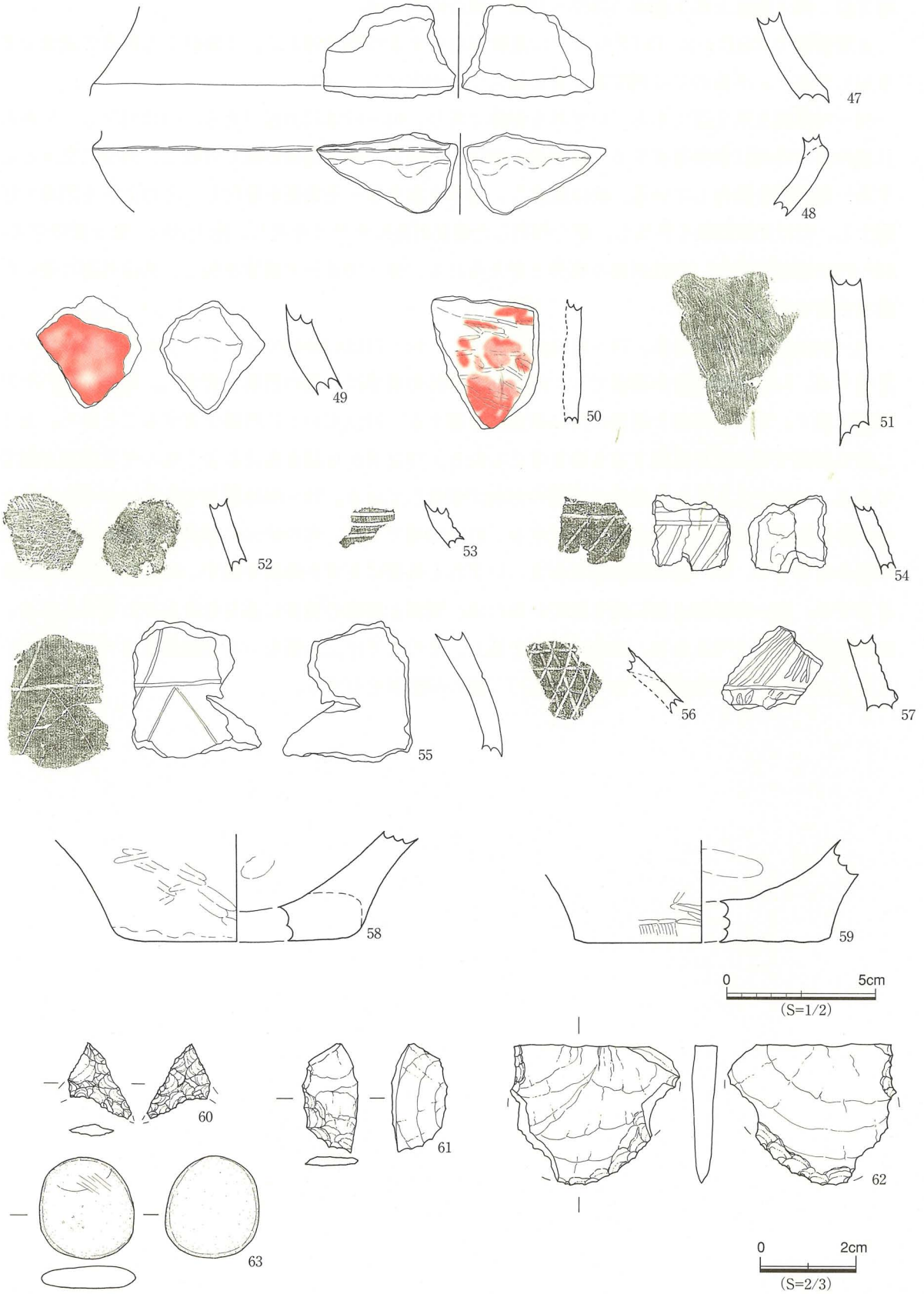
第9図一仁井田遺跡第3層出土遺物①



第10図―仁井田遺跡第３層出土遺物②



第11図ー仁井田遺跡第３層出土遺物③



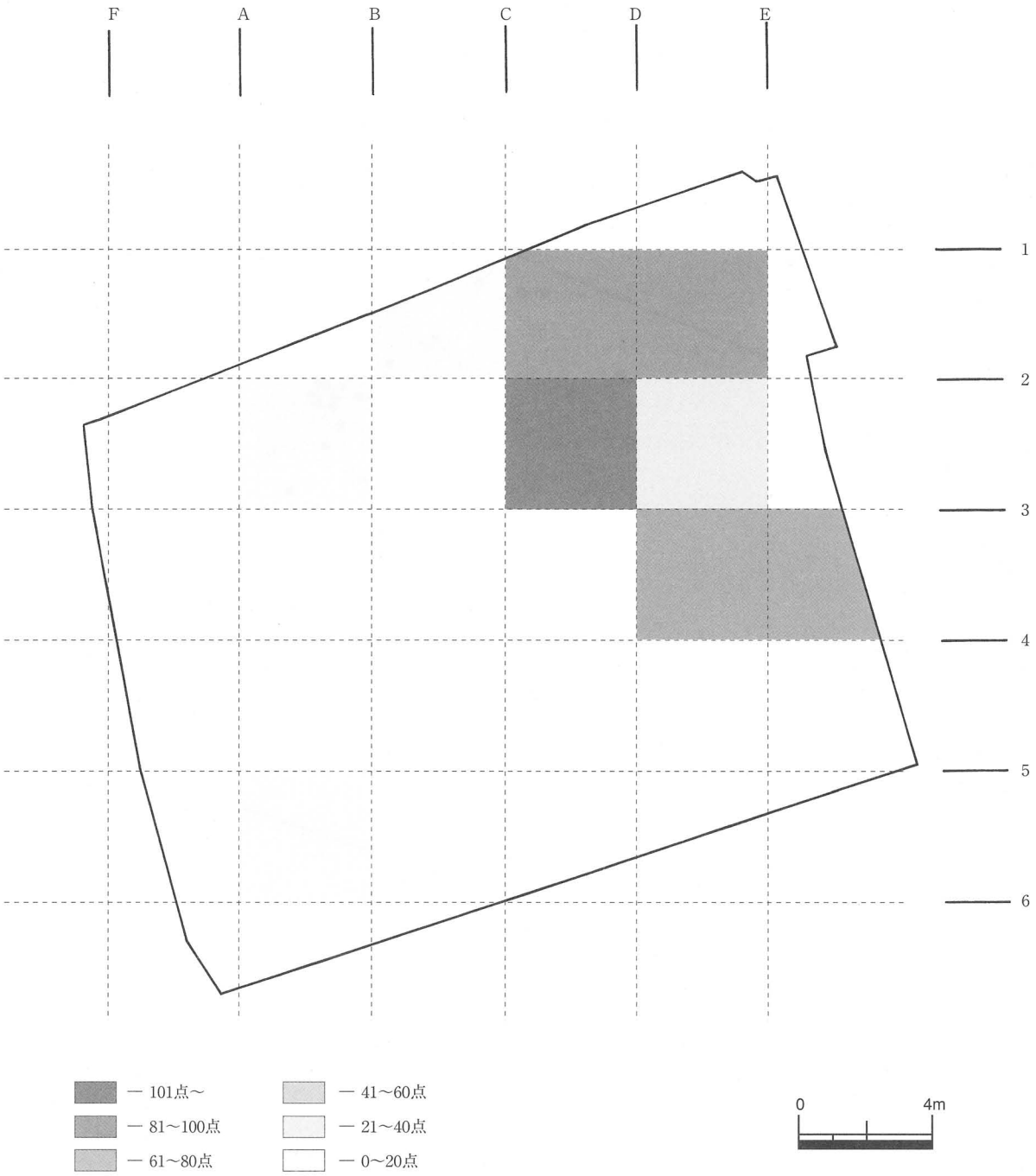
第12図ー仁井田遺跡第３層出土遺物④

第２節　第４層直上出土遺物（第13～16図　報告№64～90）

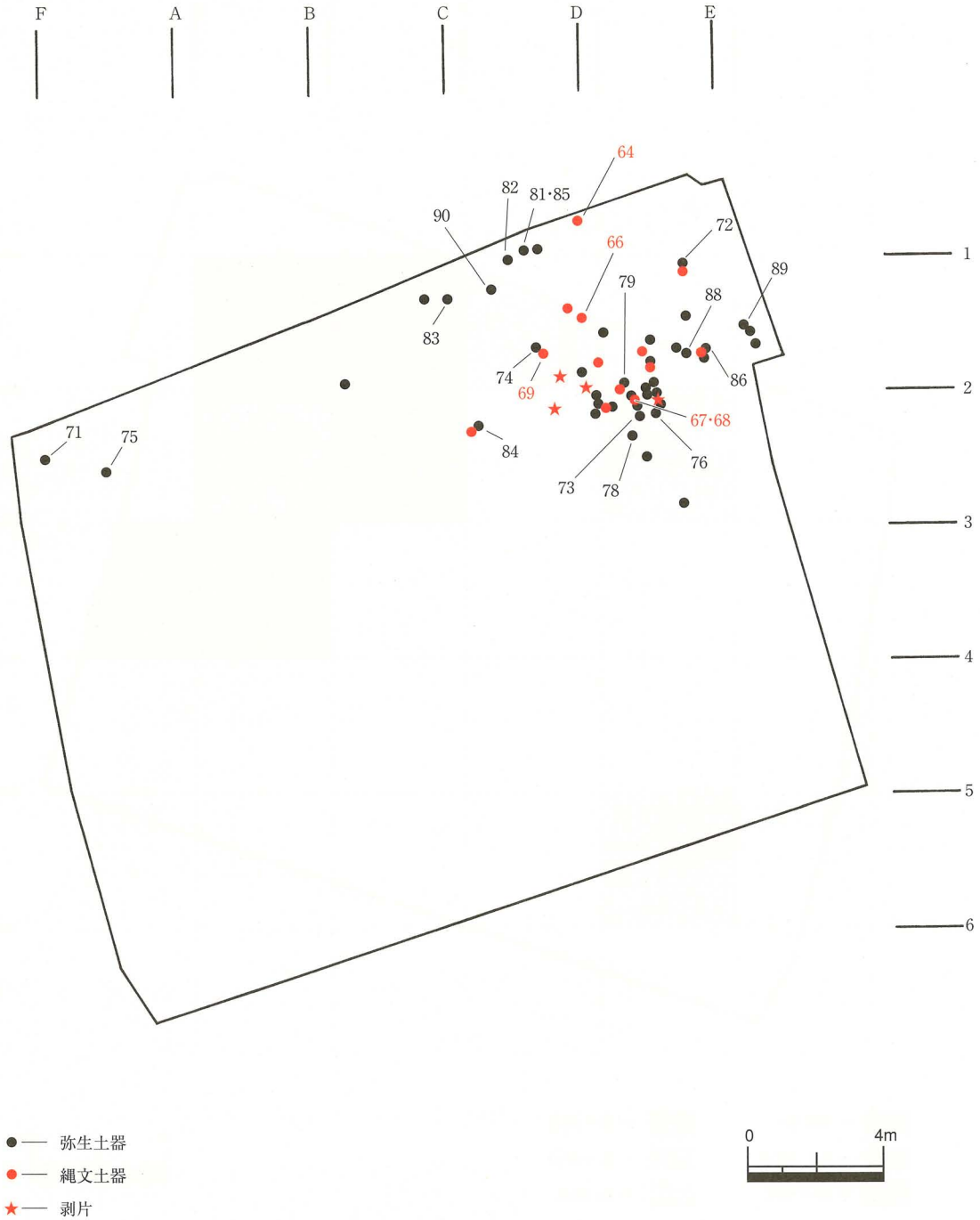
４層全体ではG.C-1･2、D-1グリッドに遺物が集中する傾向が伺える。４層直上も同様の遺物分布を示しており、平面的には縄文系土器と弥生土器が混在している。

64～70は縄文系土器である。いずれも深鉢であり、64～67は口縁部である。64は外反し、外端部に刻み及び外面に刺突を有する一条突帯を貼付している。65は端部が強く外傾し、外面に刻みを有する一条突帯を貼付している。66は直立し、刻みを有する一条突帯を貼付し、その上下を凹線で区画する。67は比較的強く外反し、厚く作出した端部外面にキザミを有し、胎土は64・65と類似する。68～70は胴部であり、68は無刻み突帯と考えられる。69・70はナデ調整を施し、69は外面に細い凹線文を有する。

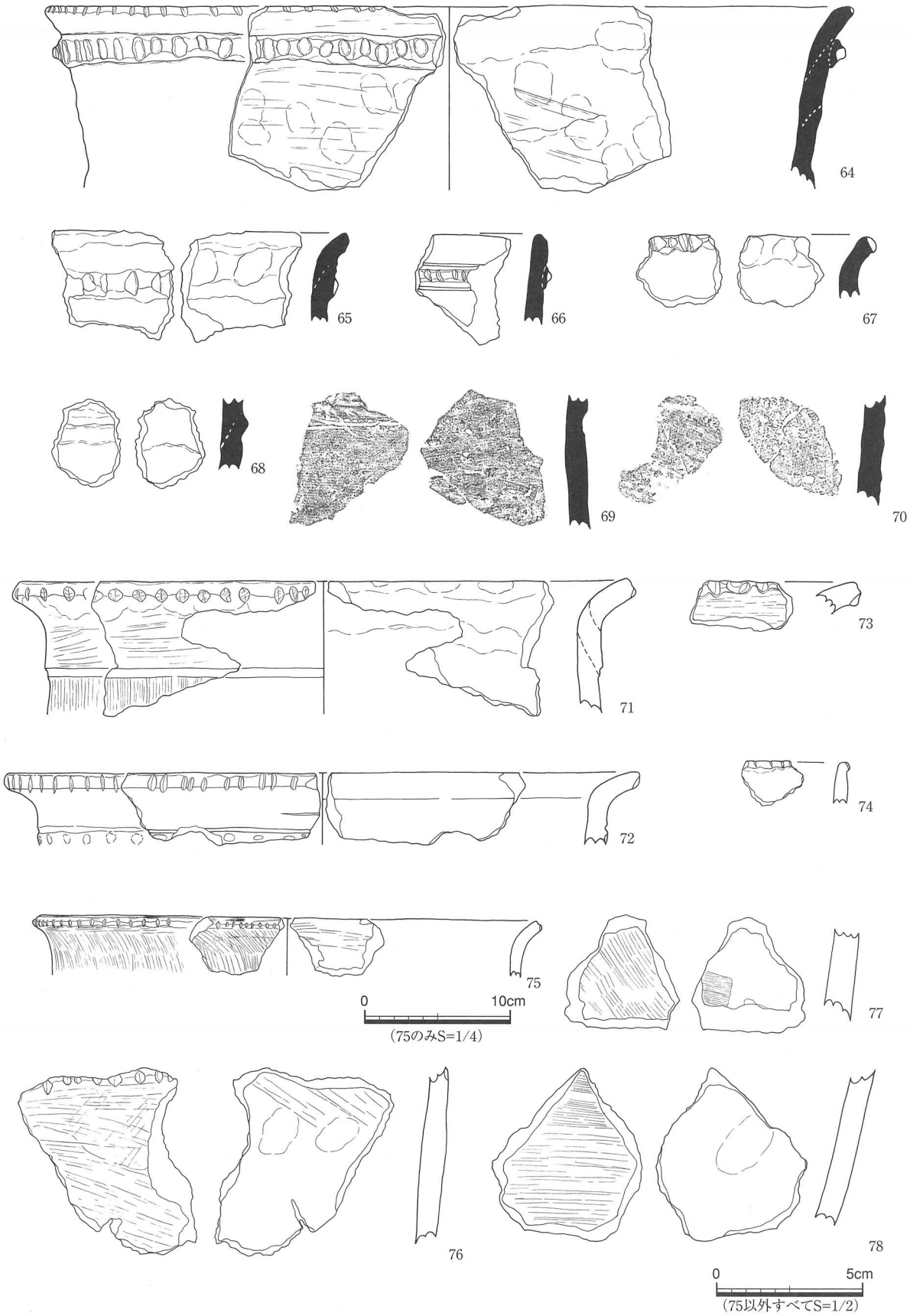
71～90は弥生土器である。71～81は甕であって、71～75は口縁部である。いずれも外端にキザミを有する。71は外傾接合が確認でき、口縁部と胴部の境界に一条の凹線を有する。その下はハケ目調整を施す。72は口縁部と胴部の境に列点文を有する。列点文の上に凹線を有することから、上下二条の凹線で列点文を区画するものと考えられる。75は下から掻きあげるようなハケ目調整が顕著であり、外反が大きくなる部分で調整の方向が変化している。76～80は胴部であり、いずれもハケ目調整を施す。76は胴上部に刺突を有する。81は底部であり、肩の部分に刺突の可能性のあるΣ状の凹みを有する。82～89は壺胴部である。いずれも外面にミガキ調整を施す。82以外は外面に凹線を有する。83～88は胴上部に施されているため、頸部と胴部の境界に施されたものと考えられる。89は胴最大径部と考えられ、四条の凹線を施し、その上下に三角形ないしは鋸歯状モチーフを描くと考えられる。90は壺底部であり、底面に二個の籾圧痕を有する。



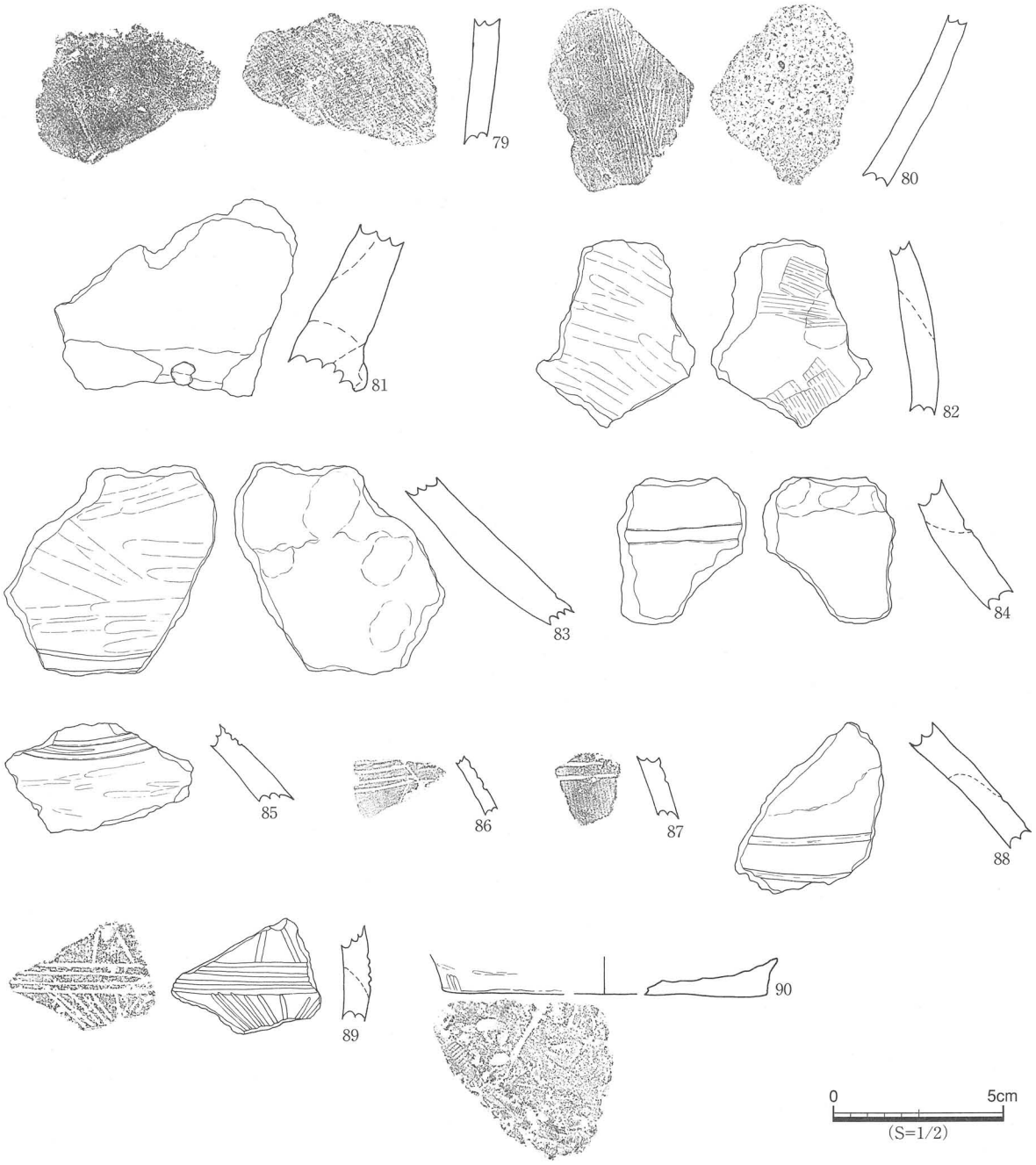
第13図ー仁井田遺跡第４層出土遺物グリッド分布図



第14図ー仁井田遺跡第４層直上出土遺物ドット分布図



第15図ー仁井田遺跡第４層直上出土遺物①



第16図一仁井田遺跡第４層直上出土遺物②

第３節　第４層上層出土遺物（第17～19図　報告№91～120）

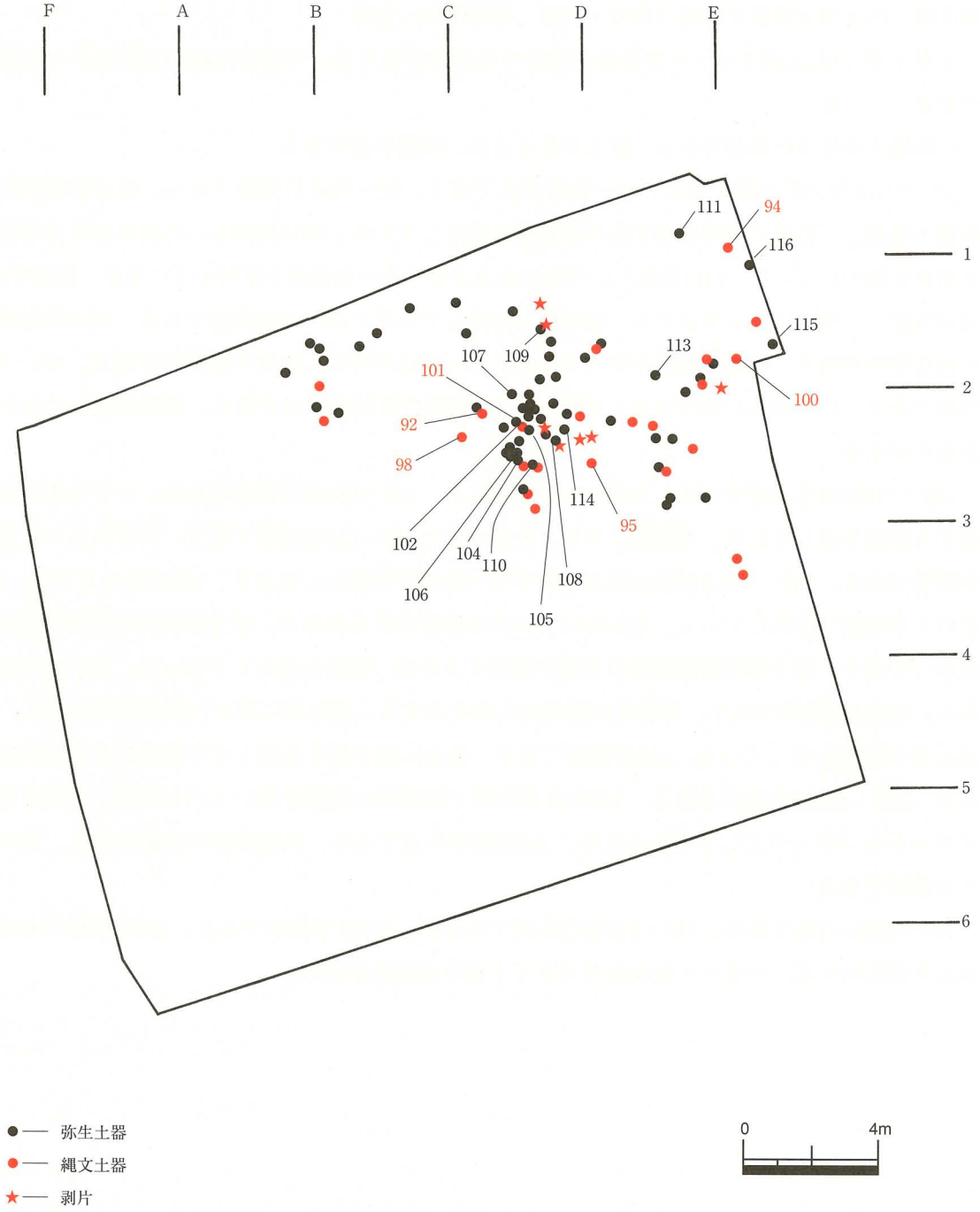
４層上層ではG.C-2グリッドに遺物が集中する傾向が窺える。平面的には縄文系土器と弥生土器が混在している。

91は縄文深鉢の口縁部である。無文であるため、時期不詳である。

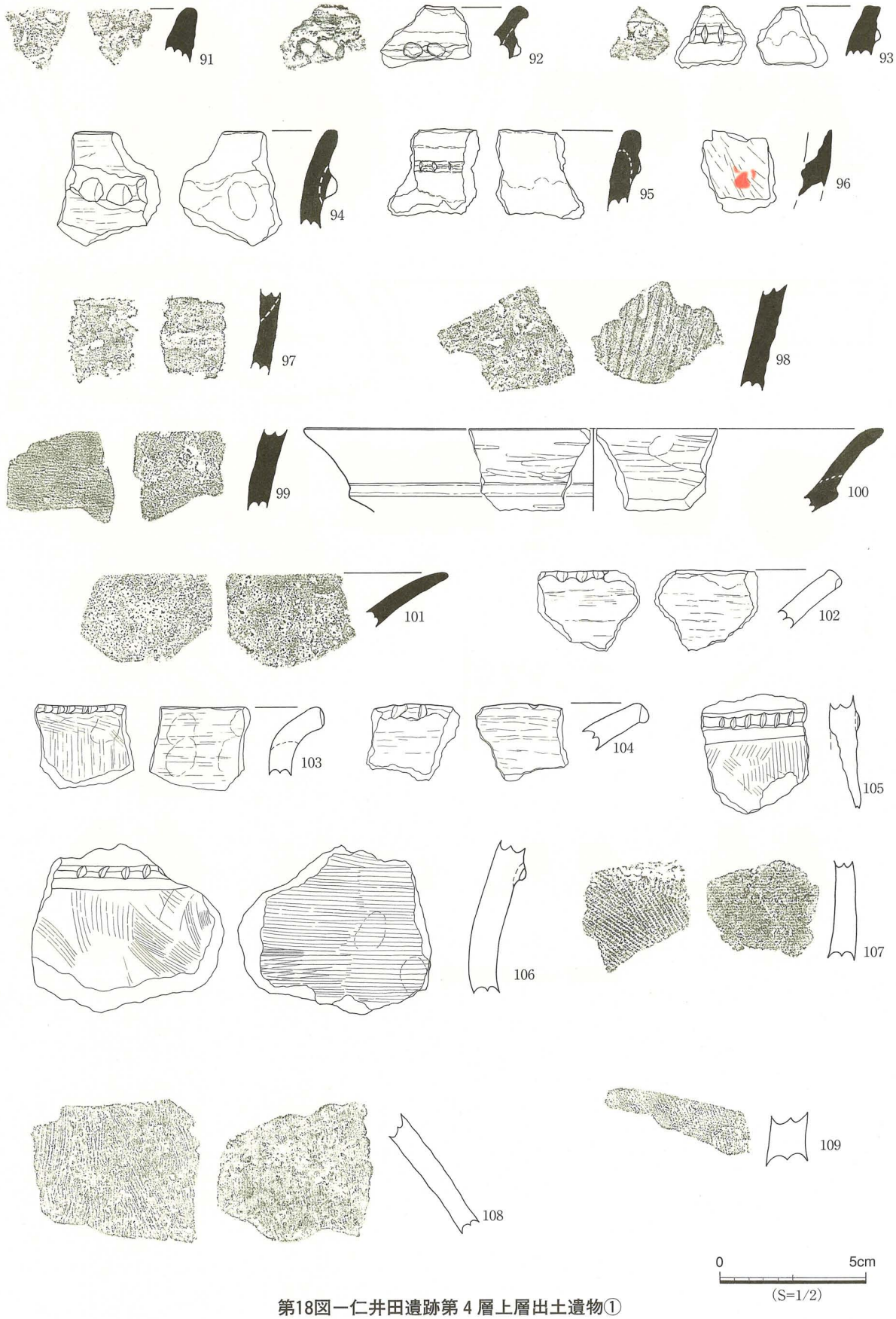
92～101は縄文系土器である。92～99は深鉢であり、92～95は口縁部である。92は端部が大きく外側へ屈曲し、外面に刺突を有する一条突帯を貼付している。93は外傾し、外面に刻みを有する一条突帯を貼付している。94は外反し、外面に刻みを有する一条突帯を貼付しているが、乱雑である。95は外傾し、外面に刻みを有する一条突帯を作出している。96～99は胴部である。96は外面の一部に赤色顔料が残り、比較的精緻な作りである。97～99は内外に二枚貝条痕調整を施す。100・101は浅鉢であり、いずれも口縁が大きく開く。100は胴部の屈曲が極めて鋭く、屈曲部の上に抉り状の凹線を有する。

102～116は弥生土器である。102～111は甕であり、102～104は口縁部である。いずれも外反・外傾する傾向を示しており、外端部にキザミを有する。105～111は胴部であり、いずれもハケ目調整が顕著である。105・106は外面に刻みを有する一条突帯を貼付しており、105はその上下を、106はその下を凹線で区画している。これらについては突帯が見られるが、胎土が縄文晩期末の土器とは異なっており、弥生時代前期初頭の土器と類似するため、弥生土器として扱った。112～116は壺である。112は口縁部であり、外面の口頸部境に段を有する。内外共に粗いハケ目調整を施し、その後ミガキ調整を行っている。113は頸部であり、外面に段を有するがミガキ調整により消滅気味である。114・115は凹線文を有し、115は多重凹線で紡錘状の文様を描いているため、木葉文のヴァリエーションの一つとして考えられる。116は底部付近であり、外傾接合が確認できる。極めて大きな個体である。

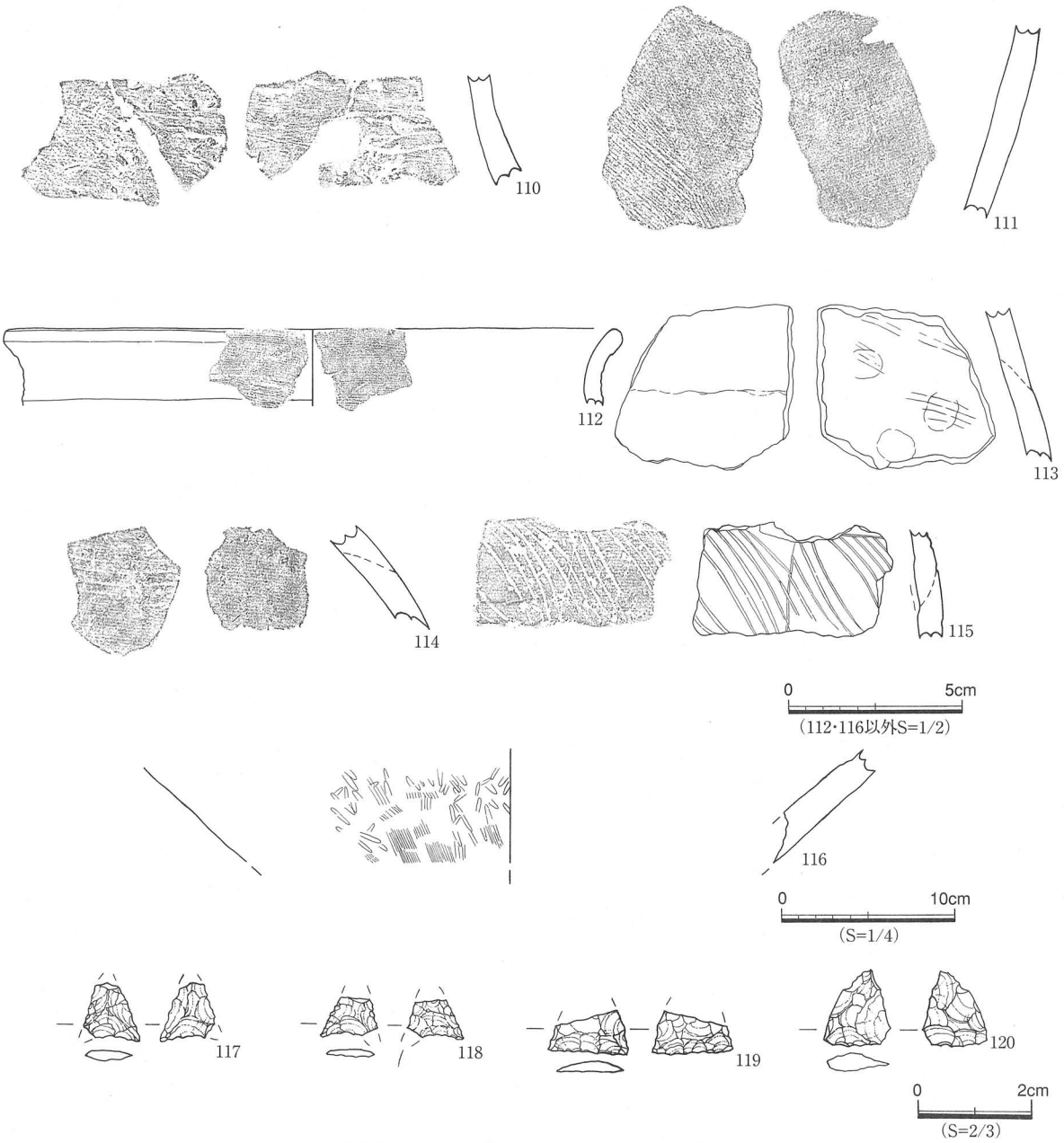
117～120は石鏃である。117・118は凹基式であるが、119は平基式である。120は石鏃の未成品であると考えられる。いずれも金山産サヌカイト製の可能性が高い。



第17図ー仁井田遺跡第４層上層出土遺物ドット分布図



第18図ー仁井田遺跡第４層上層出土遺物①



第19図一仁井田遺跡第４層上層出土遺物②

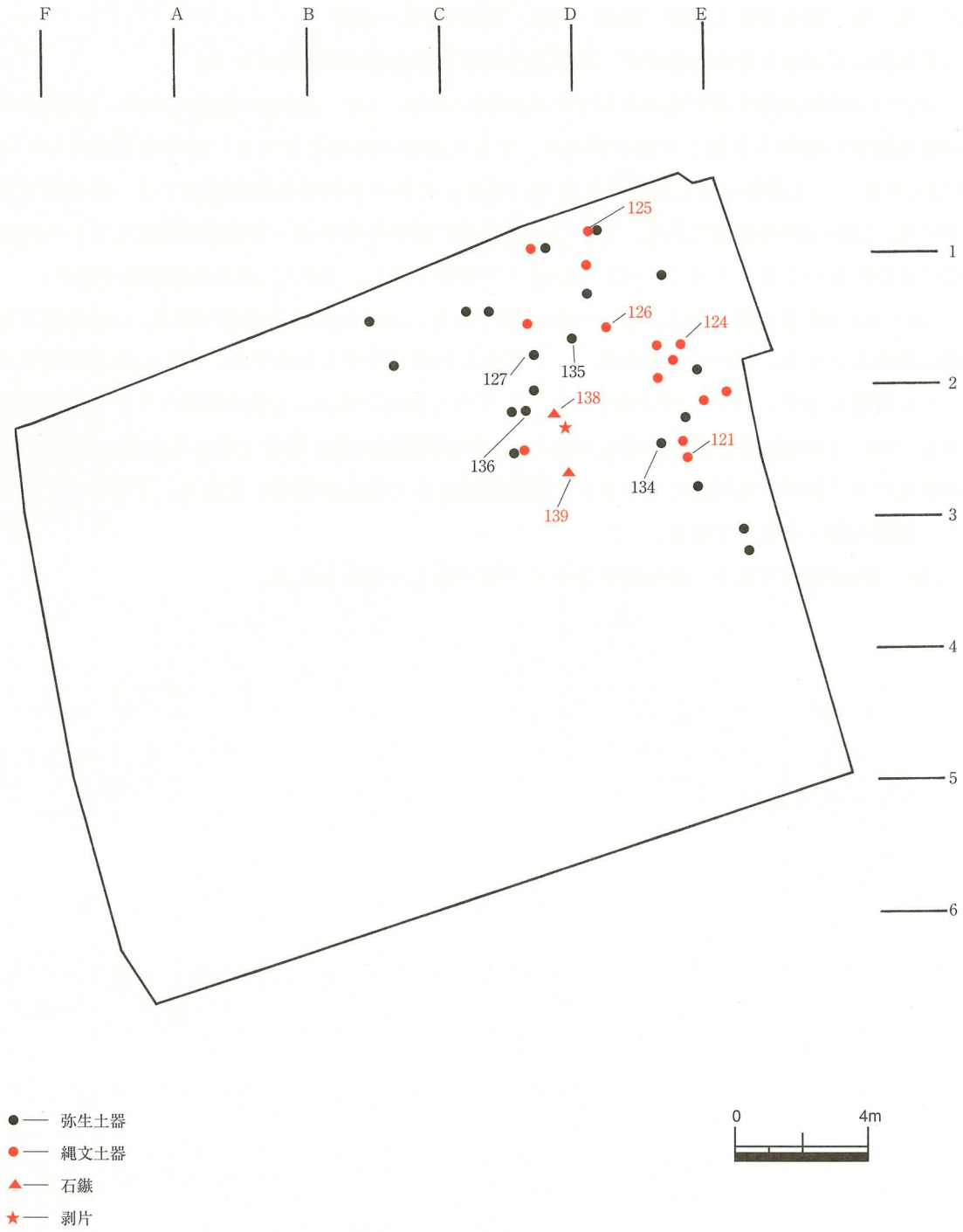
第４節　第４層中層出土遺物（第20・21図　報告№121～139）

平面的にまばらな分布を示すが、縄文系土器と弥生土器が混在している。

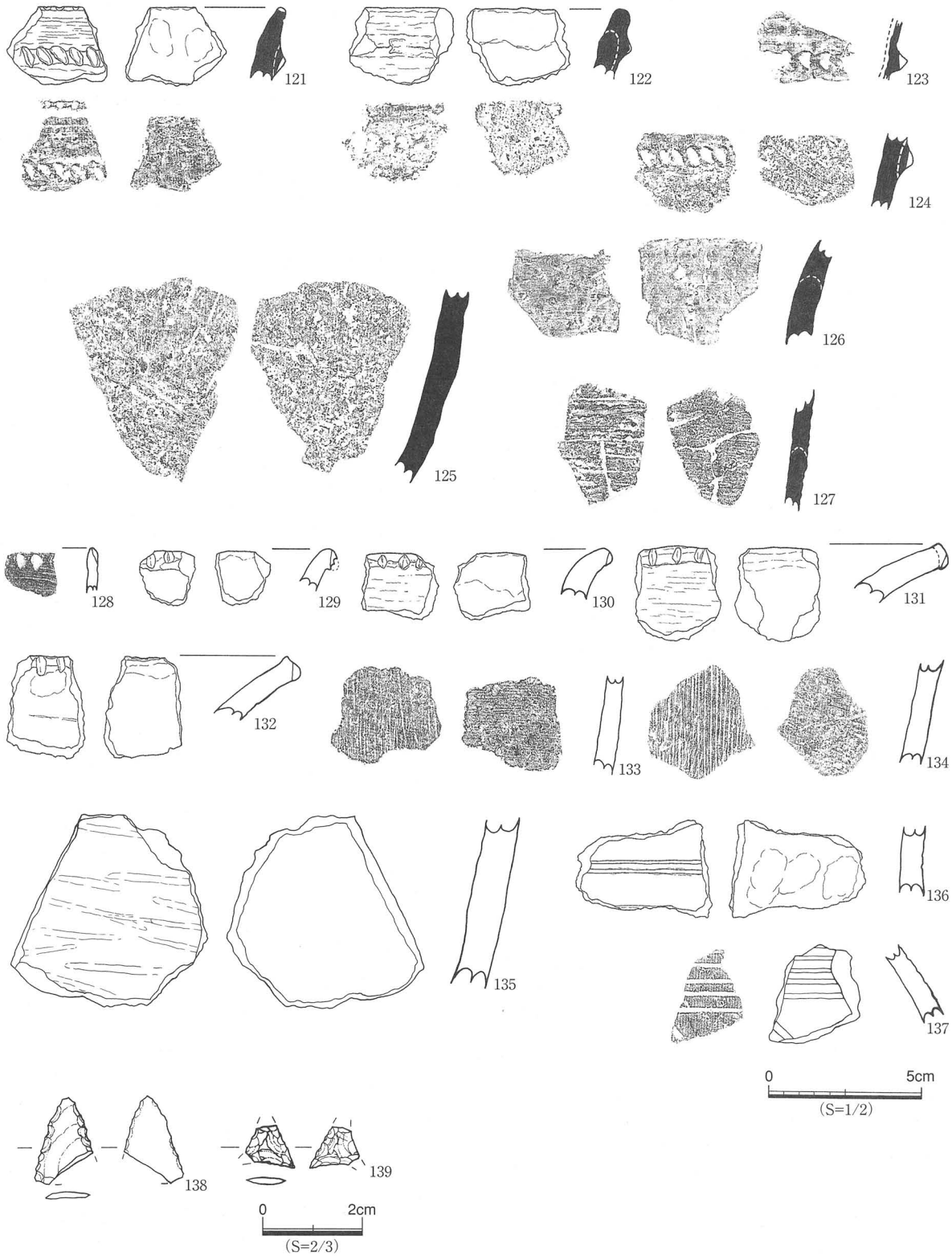
121～127は縄文系土器である。いずれも深鉢であり、121・122は口縁部である。121は外傾し、口縁上端部に面取りを施した後に刻みを、そして外面に刻みを有する一条突帯を貼付している。122は外傾し、上端部に緩い面取りを施す。外面にΣ状の不鮮明な刺突を有する一条突帯を作出している。123～127は胴部である。123・124は外面に刻みを有する一条突帯を貼付しているため、口縁に比較的近いと考えられる。125・126はナデ調整を施し、127は二枚貝条痕調整を施す。

128～137は弥生土器である。128～134は甕であり、128～132は口縁部である。128は直立し、外面に刺突を有する。129～132は外反し、いずれも外端にキザミを有する。133・134は胴部であり、ハケ目調整を施す。135～137は壺であり、いずれも胴部である。135は外面のミガキ調整が顕著である。136・137は外面に凹線を有しており、136は頸胴部の境を示すと考えられる。137は胴上部の凹線文の下に斜行する凹線を有する。比較的精選された粘土を使用しており、丁寧なつくりであって、凹線も整ったものである。

138・139は石鏃であり、金山産サヌカイト製であると考えられる。



第20図ー仁井田遺跡第４層中層出土遺物ドット分布図

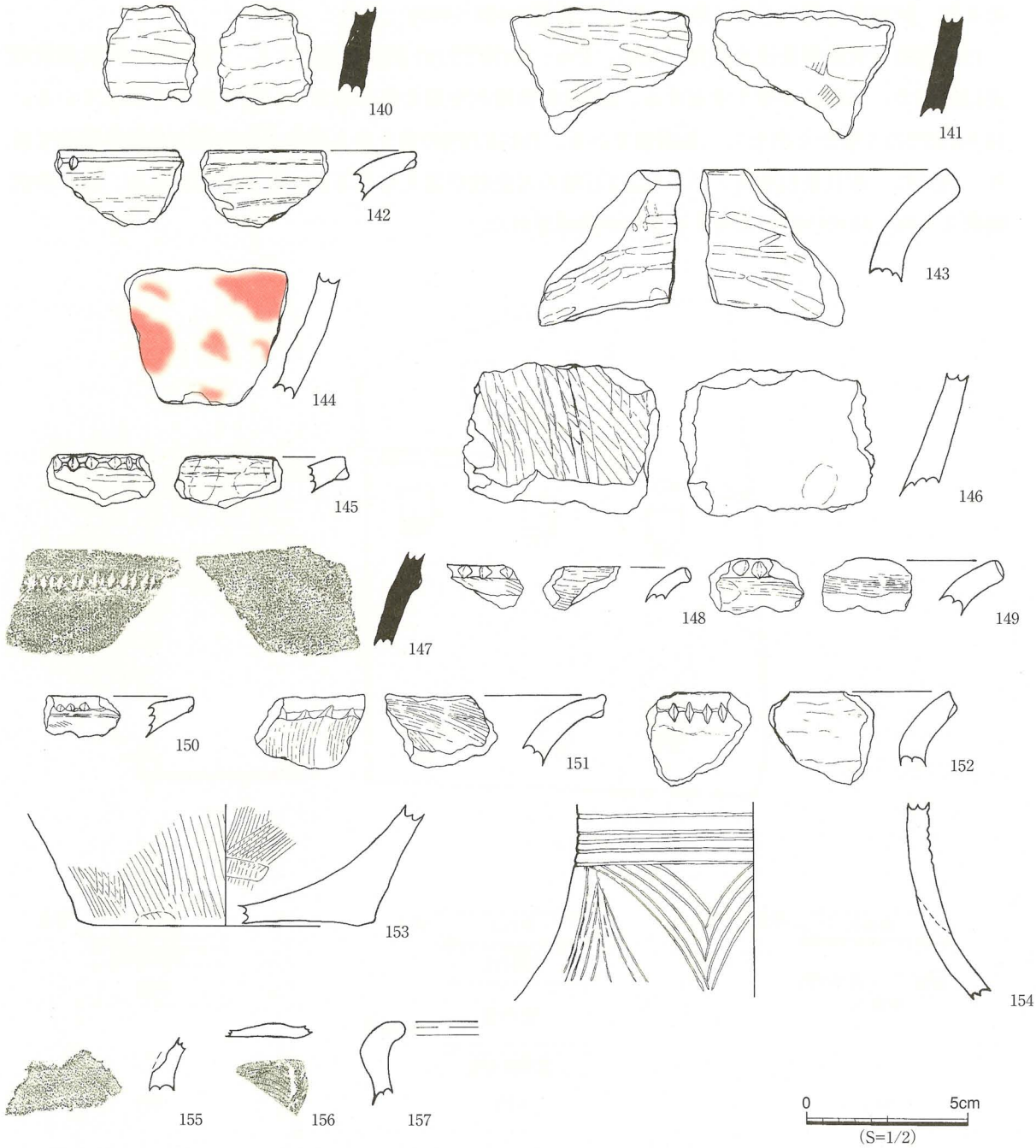


第21図ー仁井田遺跡第４層中層出土遺物

第５節　第４層下層出土遺物（第22図　報告№140～144）及び表面採集等遺物（報告№145～157）

140～144は４層下層からの出土遺物である。いずれも小破片であり、その後に行った下層確認のためのトレンチ調査から出土が見られなかったため、上層からの混入と考えられる。140・141は縄文系土器である。140は深鉢の胴部であり、二枚貝条痕調整を施す。141は浅鉢ないしは碗の可能性が考えられる。142～144は弥生土器である。142は外反する甕の口縁と考えられ、精緻なつくりである。外端にキザミを有するが、全周するものではない。143・144は壺である。143は大きく外反する口縁部であり、ミガキ調整が顕著である。144は外面に赤色顔料が残る。

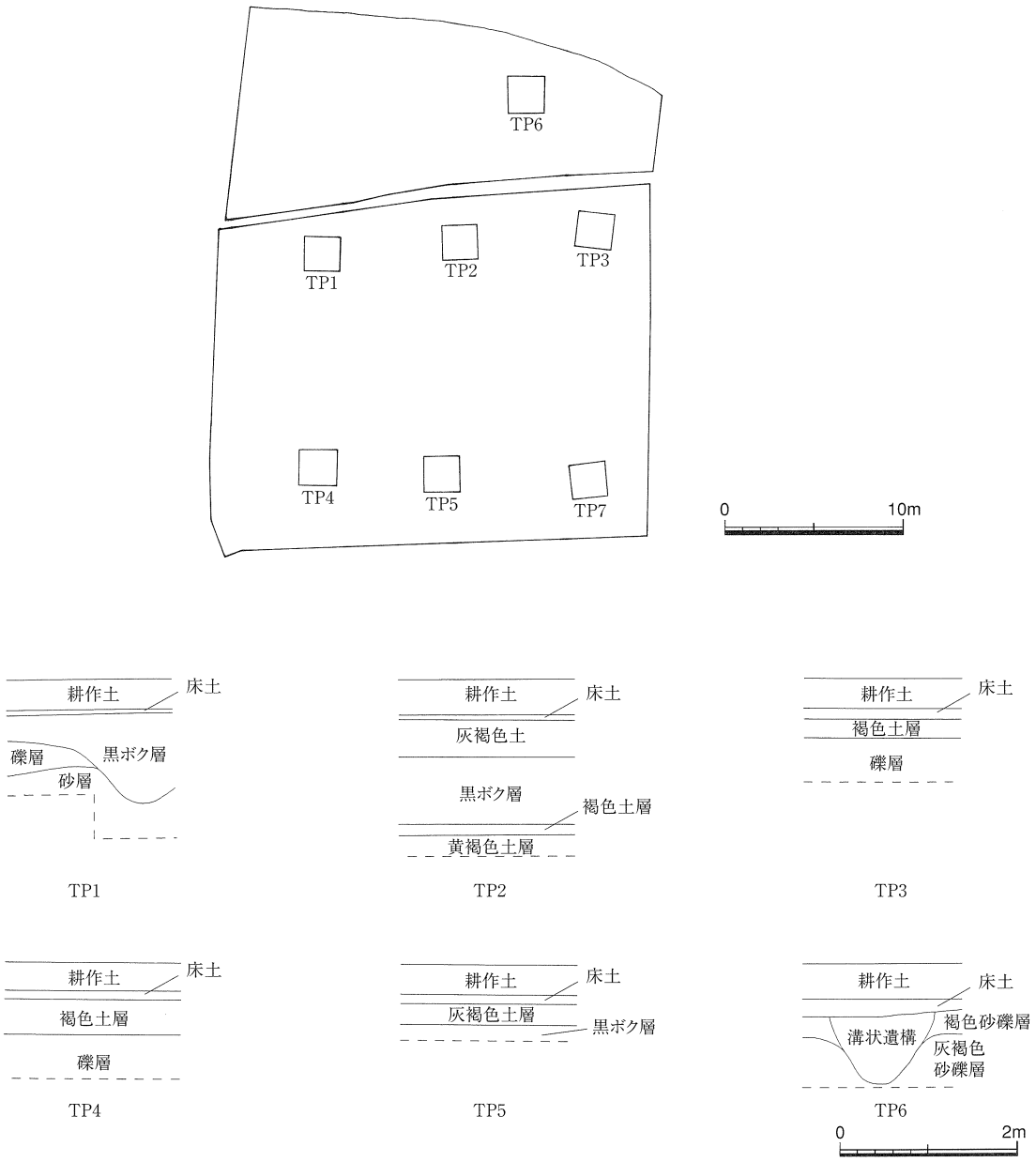
145は４層一括の出土遺物である。甕口縁部であり、外端に刻みを有する。146は調査区北に設置したトレンチからの出土遺物である。４層から出土し、弥生時代前期初頭の壺胴部であって、ミガキ調整が顕著である。147～157は表面採集遺物である。147は縄文系土器であり、深鉢胴部で、外面に刻みを有する一条突帯を有する。148～155は弥生土器である。148～152は甕の口縁部である。148・149は端部全面に、150～152は外端にキザミを有する。153は甕の底部である。154・155は壺の頸部であり、154は外面に５条の凹線及び肩部に５条凹線から垂下する木葉文状の多重凹線文を有する。156は中世の土師皿底部であり、回転糸切痕が残る。157は近世の甕口縁である。



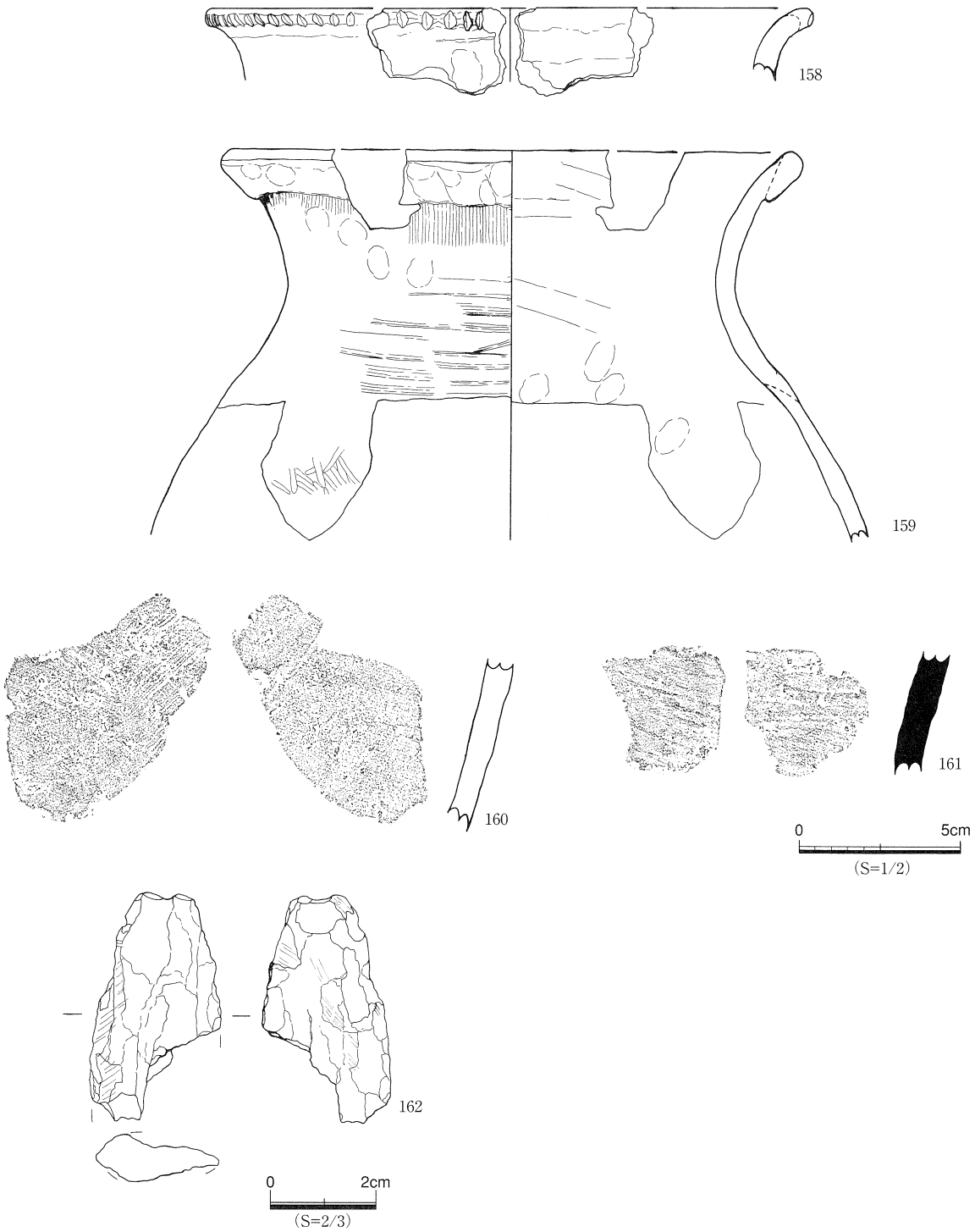
第22図ー仁井田遺跡第４層下層出土及び表面採集等遺物

第６節　試掘調査質土遺物（第23・24図　報告№158～162）

158～162は試掘調査出土遺物である。158・159はTP1の３層から出土し、158は弥生時代前期の甕口縁部で、外端にキザミを有する。159は弥生時代中期の甕であり、口縁を厚く作出している。160はTP2の３層から出土し、甕胴部である。161はTP6の表土から採集された縄文系深鉢胴部であり、内外に二枚貝条痕を有する。162は石錘の可能性が考えられるが、時期不詳である。縄文時代晩期末～弥生時代中期に相当する遺物が確認された。



第23図ー仁井田遺跡試掘調査試掘坑位置図及び土層柱状図



第24図ー仁井田遺跡試掘調査出土遺物

第７節　第４層上面検出遺構（第25～29図）

Pit1・2・7・8、SK3・4・11～13・15・16・20を検出した。SKに関しては規模に差が見られるが、形状が似通っているものが見られる。

Pit1（埋土：黄灰　2.5Y 4/1　粘性強　3～10cm大の礫を含む。）

長軸51cm、短軸50cm、深さ20cmを測り、楕円形を呈する。遺物の出土は見られなかった。

Pit2（埋土：黄灰　2.5Y 4/1　粘性強　3～10cm大の礫を含む。）

長軸48cm、短軸46cm、深さ17cmを測り、楕円形を呈する。遺物の出土は見られなかった。

SK3（埋土：①灰　5Y 4/1、②オリーブ黒　7.5Y 3/1、③黒褐　7.5YR 3/1）

長軸65cm、短軸64cm、深さ37cmを測り、円形を呈する。断面はフラスコ状を呈し、上場より下場が広くなる傾向が見られる。小土器片が埋土に混じっていた。

SK4（埋土：①灰　5Y 4/1、②オリーブ黒　7.5Y 3/1、③黒褐　7.5YR 3/1）

長軸68cm、短軸63cm、深さ35cmを測り、楕円形を呈する。断面はフラスコ状を呈し、上場より下場が広くなる傾向が見られる。小土器片が埋土に混じっていた。

Pit7（埋土：黒褐　10YR 3/1　砂質で、粘性無し。）

長軸40cm、短軸34cm、深さ15cmを測り、楕円形を呈する。

Pit8（埋土：黒褐　5YR 3/1　粘性強）

長軸39cm、短軸35cm、深さ23cmを測り、楕円形を呈する。一部テラスを有する。

SK11（埋土：黒褐　7.5YR 3/2　粘性強）

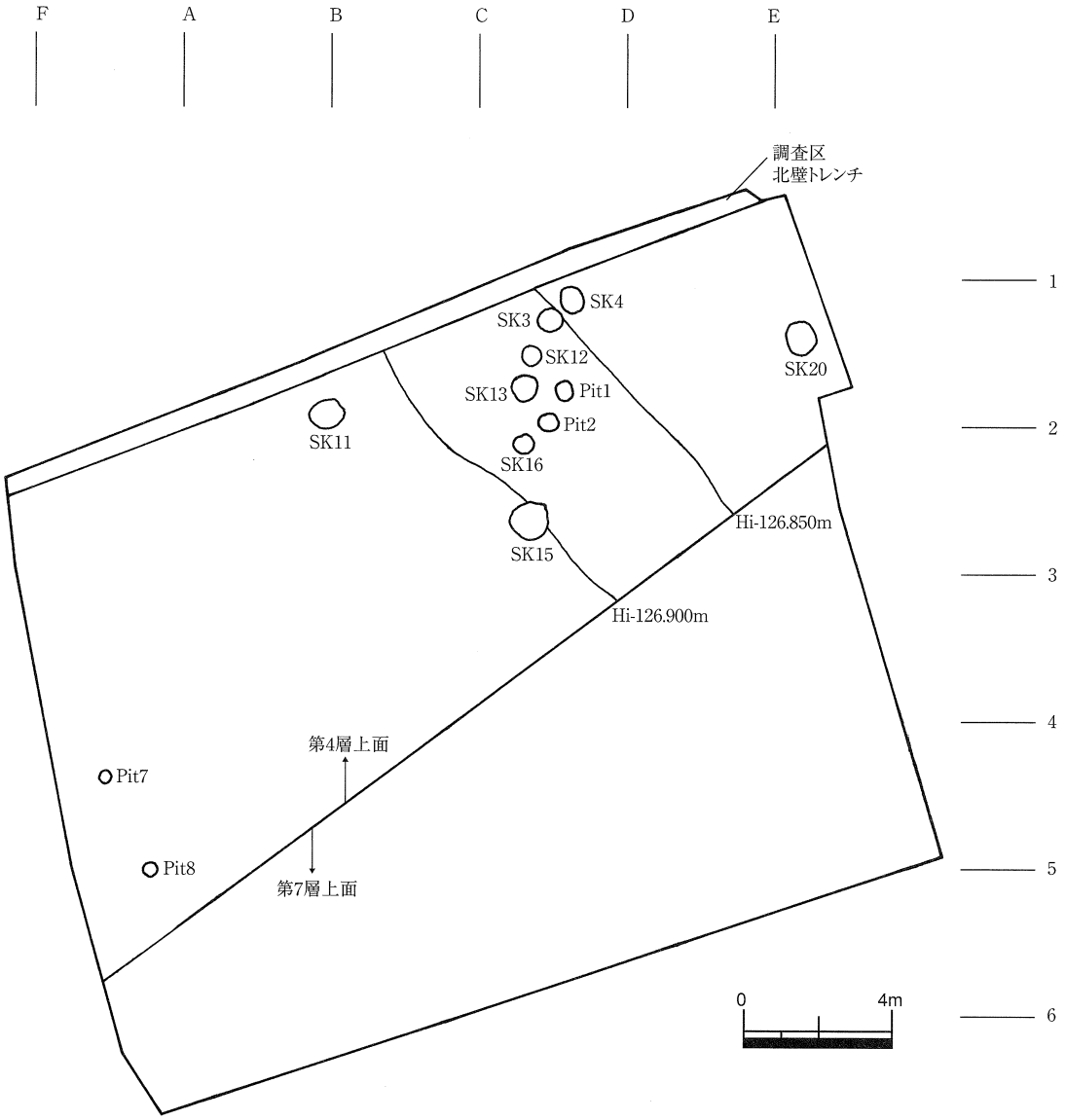
長軸90cm、短軸72cm、深さ29～59cmを測り、楕円形を呈する。柱状の掘り込みが確認できるため、柱を抜きとった跡の可能性が考えられる。

SK12（埋土：①灰　5Y 4/1、②オリーブ黒　7.5Y 3/1、③黒褐　7.5YR 3/1）

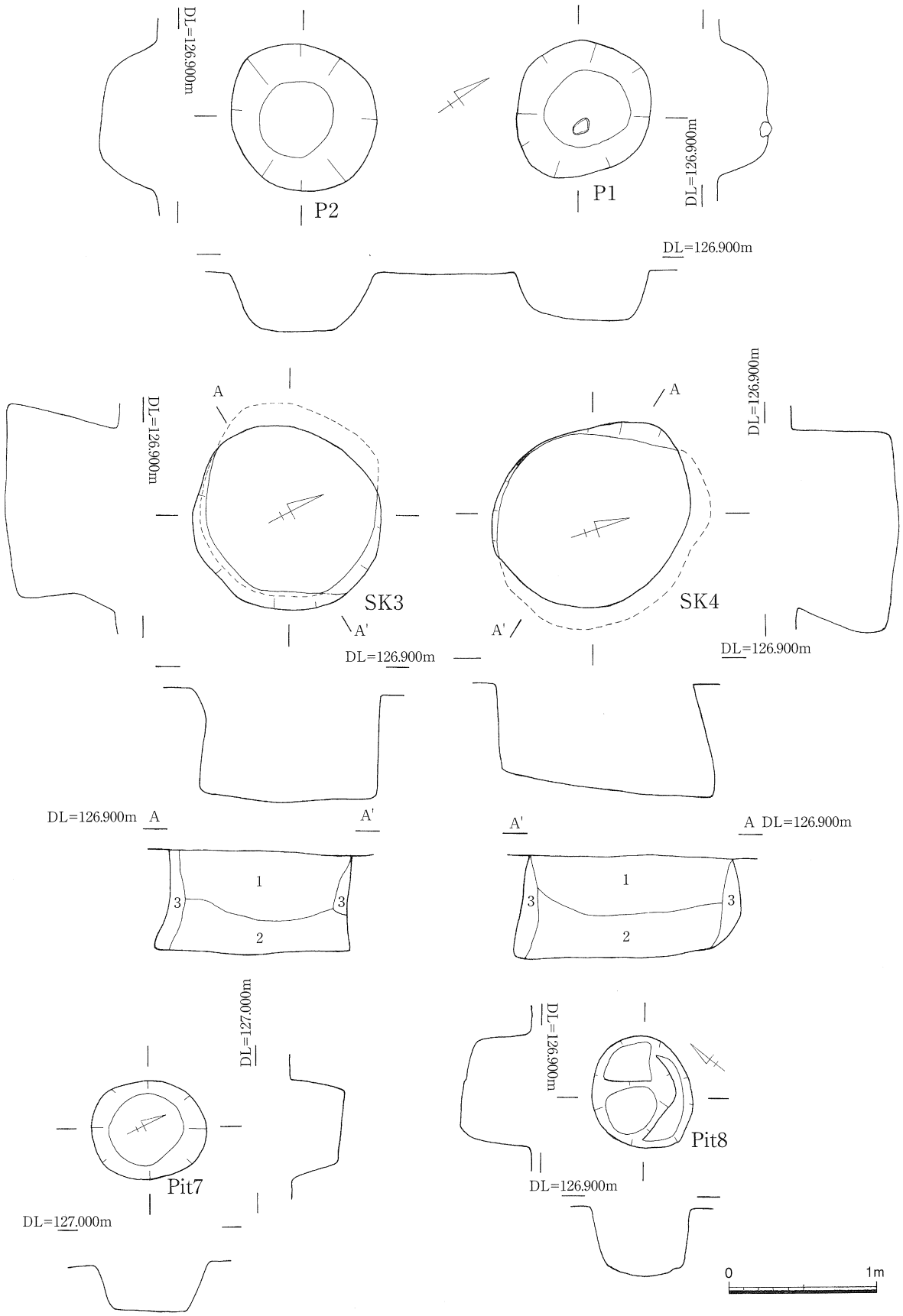
長軸53cm、短軸51cm、深さ39cmを測り、歪んだ円形を呈する。断面はフラスコ状を呈し、上場より下場が広くなる傾向が見られる。

SK13（埋土：①灰　5Y 4/1、②オリーブ黒　7.5Y 3/1、③黒褐　7.5YR 3/1）

長軸76cm、短軸69cm、深さ37cmを測り、歪んだ楕円形を呈する。断面はフラスコ状を呈し、上場より下場が広くなる傾向が見られる。

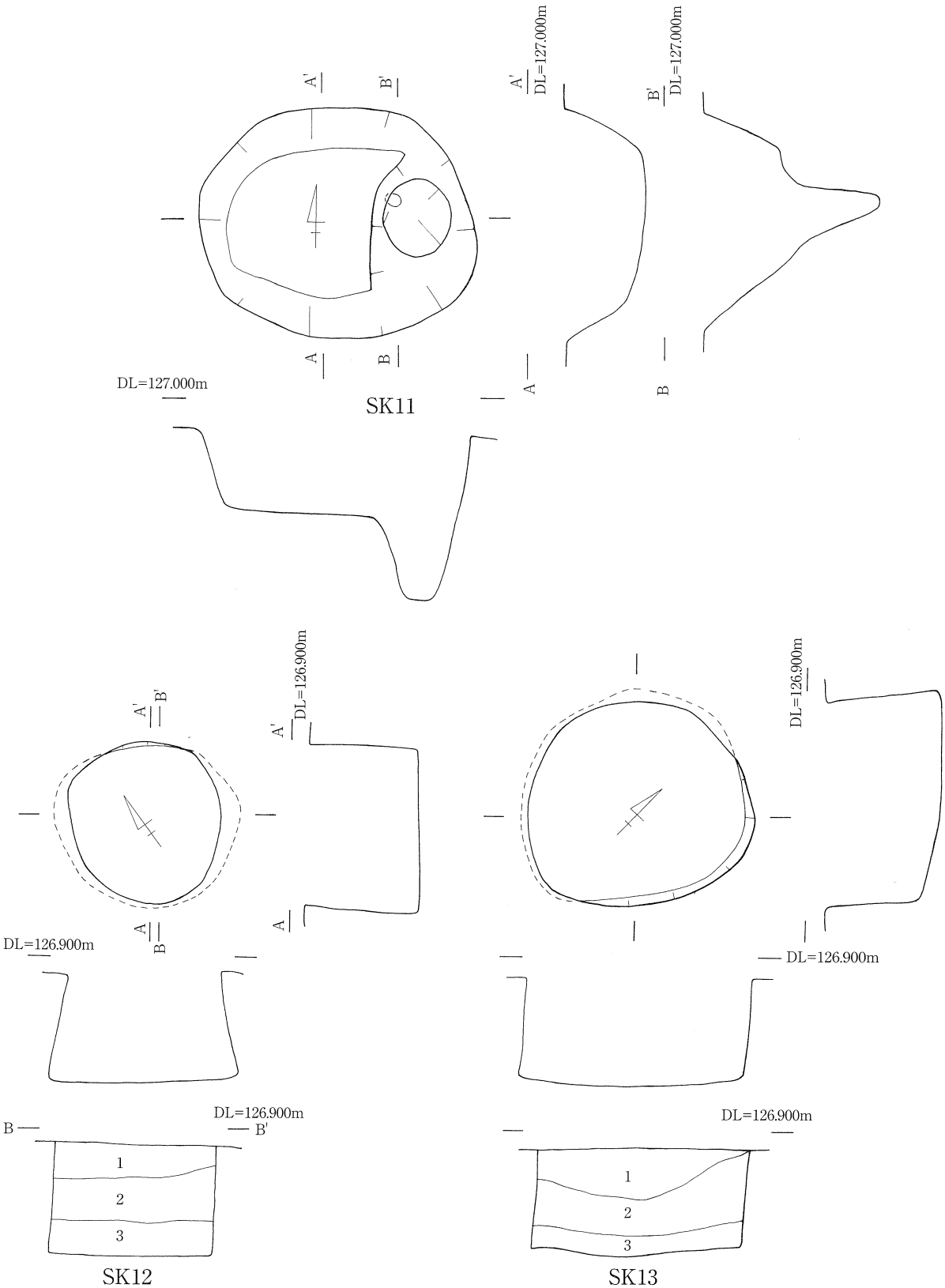


第25図ー仁井田遺跡第４層上面検出遺構分布図



SK3･4土層注記
1―灰色土(5Y 4/1)2～3cm大の砂礫を有する。粘性は低く、しまりも弱い。黒ブロック(5Y 2/1)を含む。
2―オリーブ黒土(7.5Y 3/1)1～3cm大の砂礫を有する。やや粘性は高く、しまりも強い。
3―黒褐色土(7.5YR 3/1)第4層の崩落土。粘性は高く、しまりも弱い。灰ブロック(5Y 5/1)を含む。

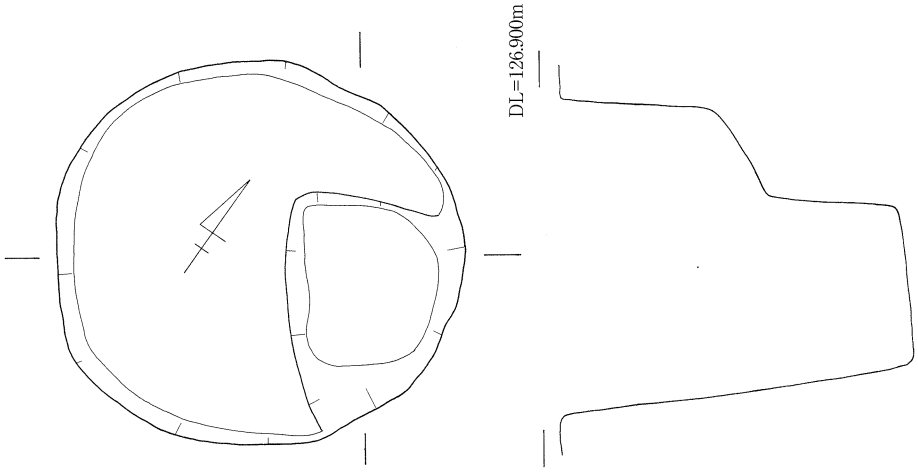
第26図―仁井田遺跡Pit 1 ・ 2 ・ 7 ・ 8 、SK 3 ・ 4 遺構図

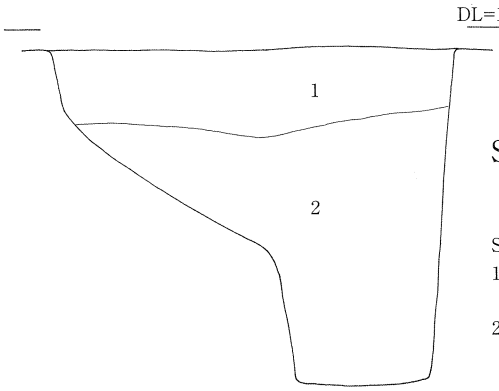


SK12･13土層注記
1―灰色土(5Y 4/1)2～3cm大の砂礫を有する。粘性は低く、しまりも弱い。黒ブロック(5Y 2/1)を含む。
2―オリーブ黒土(7.5Y 3/1)1～3cm大の砂礫を有する。やや粘性は高く、しまりも強い。
3―黒褐色土(7.5YR 3/1)第4層の崩落及び2層との混土。粘性は高く、しまりも弱い。灰ブロック(5Y 5/1)を含む。

0　1m

第27図―仁井田遺跡SK11～13遺構図



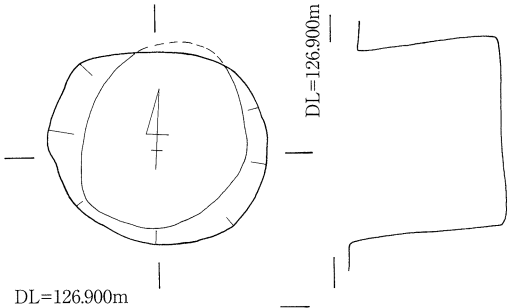


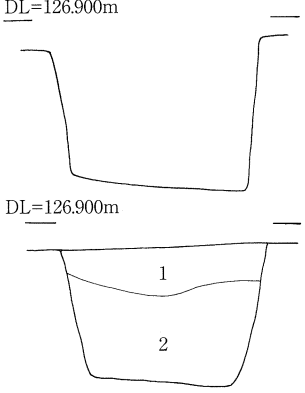
SK15

SK15土層注記

1ー灰色土(5Y 4/1)2～3cm大の砂礫を有する。粘性は低く、しまりも弱い。
黒ブロック(5Y 2/1)を含む。

2ーオリーブ黒土(7.5Y 3/1)1～3cm大の砂礫を有する。
やや粘性は高く、しまりも強い。





SK16

SK16土層注記

1ー灰色土(5Y 4/1)2～3cm大の砂礫を有する。粘性は低く、しまりも弱い。
黒ブロック(5Y 2/1)を含む。

2ーオリーブ黒土(7.5Y 3/1)1～3cm大の砂礫を有する。
やや粘性は高く、しまりも強い。

第28図ー仁井田遺跡SK15・16遺構図

SK15(埋土：①灰　5Y 4/1、②オリーブ黒　7.5Y 3/1)

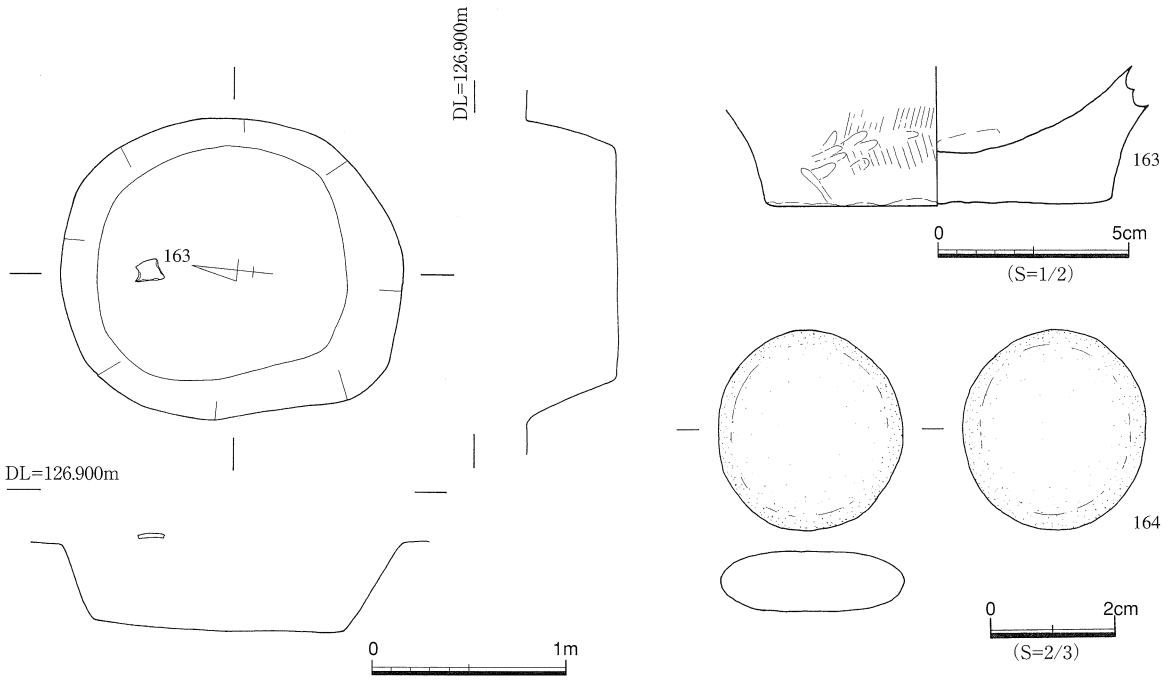
長軸107cm、短軸102cm、深さ90cmを測り、楕円形を呈する。柱状の掘り込みが確認できるため、柱を抜き取った跡の可能性が考えられる。

SK16(埋土：①灰　5Y 4/1、②オリーブ黒　7.5Y 3/1)

長軸56cm、短軸51cm、深さ41cmを測り、不定形である。断面は一部上場より内への掘り込みが確認できた。埋土もSK13・14と類似しているため、同じ時代のものと考えられる。

SK20(埋土：黒褐　10YR 3/1)

長軸91cm、短軸79cm、深さ24cmを測り、長楕円形を呈する。163は弥生時代甕底部であり、外面には顕著なハケ調整が見られる。164は碁石状石器製品である。遺物包含層及び地山には含まれないため、意図的に遺跡内に持ち込まれ、埋納された可能性が考えられる。



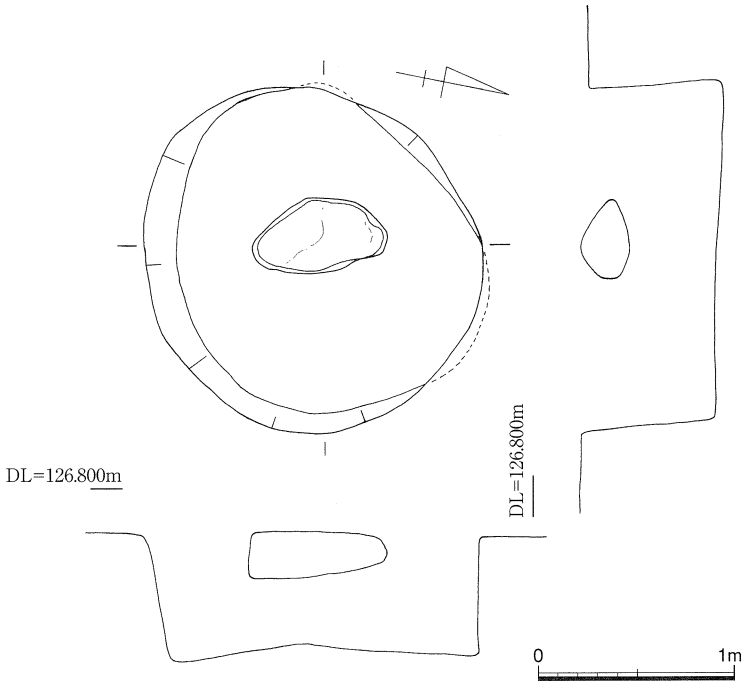
第29図ー仁井田遺跡SK20遺構図及び出土遺物

第７節　第４層下層上面検出遺構（第30・31図）

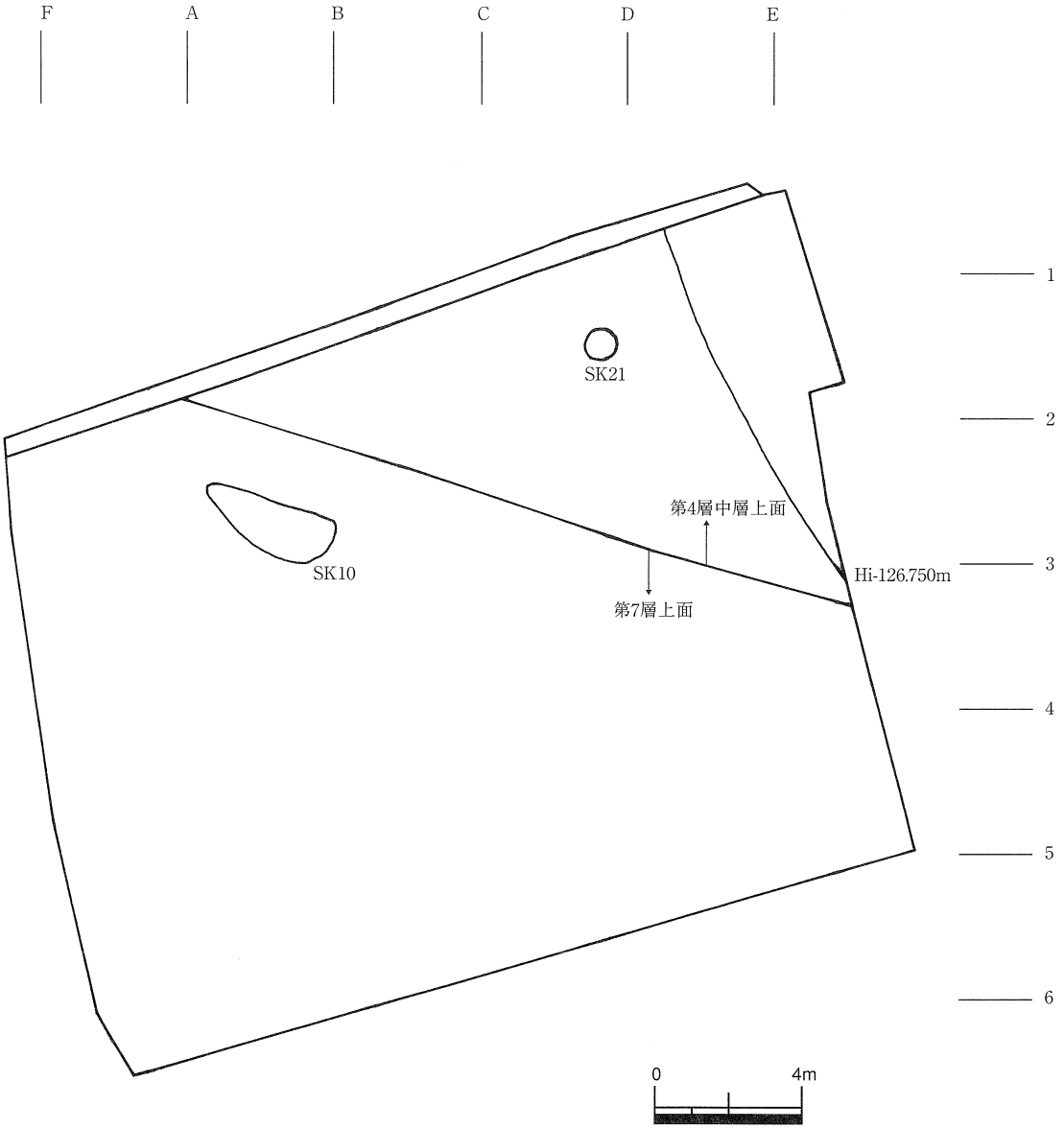
４層下層上面でSK21を検出した。

SK21（埋土：オリーブ黒　7.5Y 3/1）

長軸92cm、短軸88cm、深さ29cmを測り、楕円形を呈する。中央部に板状の石を配していたが、使用痕は認められなかった。埋土がSK13等の２層と類似するため、本来の掘り込みは４層上面であったと考えられる。



第30図―仁井田遺跡SK21遺構図



第31図ー仁井田遺跡第４層中層上面及び第７層上面検出遺構分布図

第８節　第７層上面検出遺構（第31～33図　報告№165～181）

７層上面でSK10を検出した。本来の掘り込み面は不明であり、掘り込まれた時点で７層が露出していたのか、それとも本来の掘り込み面が削平されたのか、については判断できない。

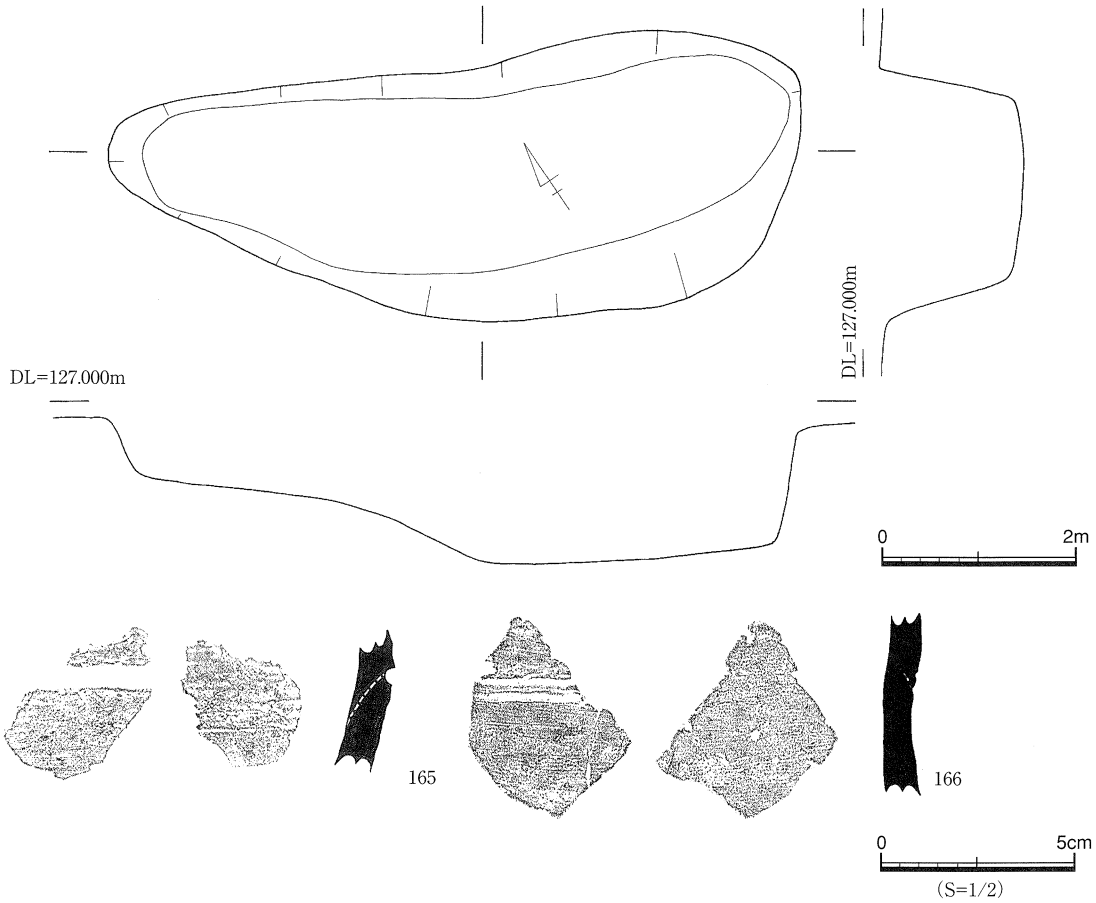
SK10（埋土：黒褐　10YR 3/1）

長軸360cm、短軸67cm、深さ39cmを測り、長楕円形を呈する。

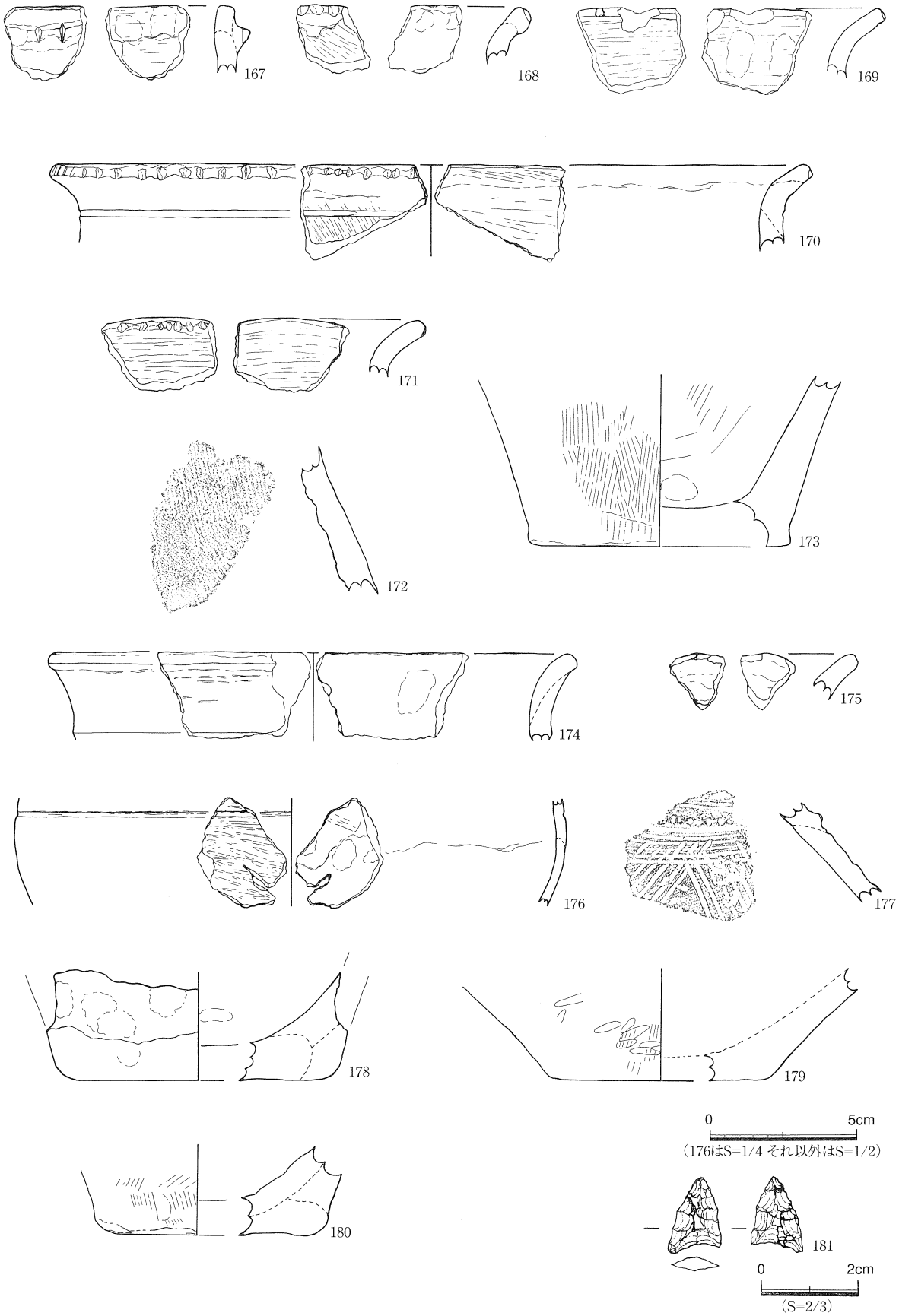
165・166は縄文系土器であり、いずれも深鉢の胴部であると考えられる。いずれも外面に凹線を有する。

167～180は弥生土器である。167～173は甕であり、167～171は口縁部である。167は直立し、口縁部上面に強い面取りを施し、外面に一条刻目突帯を有する。突帯文が弥生化したものと考えられる。168～171は外反し、外端にキザミを有する。170は外面口縁下に凹線を有する。172は胴部、173は底部であり、いずれも外面のハケ目調整が顕著である。174～180は壺であり、174・175はその口縁部である。いずれも外反する。174の頸胴部間外面には段が見られる。176・177は胴部であり、176は外面に凹線を有し、177は外面に一条刻目突帯とその上下に多重凹線文を有する。178～180は底部である。178は粘土の接合部が剥離しており、成形時の指頭圧痕が顕著である。

181は石鏃であるが、風化により白く変色しているため、石材はサヌカイトと考えられる。古い時代の混入と考えられる。



第32図ー仁井田遺跡SK10遺構図及び出土遺物①



第33図ー仁井田遺跡SK10出土遺物②

第Ⅴ章　高知県香北町仁井田遺跡・美良布遺跡出土資料の^{14}C年代測定

学術創成研究グループ
香北町教育委員会

1 測定資料

高知県香北町内遺跡から出土した縄文土器付着物の^{14}C年代測定を試みた。2005年度に高知県埋蔵文化財センターにおいて仁井田遺跡出土土器付着物15点、美良布遺跡土器付着物15点及び刈谷我野遺跡出土試料７点についての試料採取を遠部慎が行った。今回は仁井田遺跡及び美良布遺跡の試料を扱う。このうち、仁井田遺跡１点と美良布遺跡２点の試料について年代測定結果を得ることが出来た。他は炭素量不足のために測定できなかった。

測定できた試料は以下のものである。

KCKH－1(報告№5)

縄文時代晩期刻目突帯文土器の胴部片と考えられ、内面に付着しているお焦げ状の炭化物である。仁井田遺跡第３層直上から出土した。

KCKH－27

縄文時代晩期土器の胴部片であって、内面に付着しているお焦げ状の炭化物である。美良布遺跡Pit1から出土した。

KCKH－28

縄文時代晩期土器の胴部片であって、内面に付着している炭化物である。美良布遺跡Pit1から出土し、KCKH－27と同一個体の可能性が考えられる。

2 炭化物の処理

補注1に示す手順で試料処理を国立歴史民俗博物館の年代測定試料実験室において行った。(1)前処理の作業は遠部が、(2)燃焼と(3)グラファイト化の作業は宮田が行った。

KCKH－1は56.52mg採取した。全量をAAA処理し、12.09mgを回収した。一度燃焼において失敗したため、前処理後保存されていた試料(rt)の3.00mgについて精製作業を行い、1.78mg相当の二酸化炭素を回収した。

KCKH－27は24.71mg採取した。全量をAAA処理し、1.57mgを回収した。1.11mgについて精製作業を行い、0.58mg相当の二酸化炭素を回収した。

KCKH－28は68.72mg採取した。46.58mgをAAA処理し、1.70mgを回収した。1.36mgについて精製作業を行い、0.83mg相当の二酸化炭素を回収した。

3 測定結果と暦年較正

AMSによる^{14}C年代測定は、KCKH－1(rt)は同時に調製した標準試料と共に、東京大学原子力研究総合センターのタンデム加速器施設(機関番号Beta)に委託した。測定結果は、補注２に示す方法で、同位体効果を補正し、暦年較正年代を算出した。

4 測定結果について

付着物の由来を反映している可能性があるδ^{13}C値を見ると、通常の値に比べ、重たいものが多いことが興味深い。特にKCKH－27は－18‰と通常の陸生植物に比べて重く、アワ・ヒエなどが含まれるC_4植物の可能性や、海産物が混じっている可能性など、さらに窒素同位体比の測定などを含めて検討していきたい。

暦年較正年代についてみると、仁井田遺跡KCKH－1が紀元前770－500年に含まれる可能性が90%である。縄文時代晩期末または弥生時代前期に併行する可能性が指摘できる。

美良布遺跡KCKH－27・28は、1標準偏差の誤差で重なるため、ほぼ同一の測定結果を得たと言える。較正年代では、それぞれ紀元前1135－970年に78%、1270－1015年に95%の確立で含まれ、これまでの測定結果と対比すると縄文時代晩期前葉として考えられる。

今回の分析は、平成17年度科学研究費補助金(学術創成研究)「弥生農耕の起源と東アジア－炭素年代測定による高精度編年体系の構築－」(研究代表　西本豊弘)の成果を用いている。

本稿を草するにあたり、暦年較正については今村峯雄氏のご教示を得た。感謝いたします。

本稿は、補注については遠部と宮田、その他については小林が執筆した。

＜補注1＞

(1)前処理：酸・アルカリ・酸による化学洗浄(通称　AAA処理)

AAA処理に先立ち、土器付着物についてはアセトンに浸けて揺すり、油分など汚染の可能性のある不純物を2度にわたって溶解させて、除去した。AAA処理として、80℃の希塩酸溶液(1N－HCl)で岩石などに含まれる炭酸カルシウム等を2度にわたって、各1時間をかけて除去し、さらにアルカリ溶液(NaOH)でフミン酸等を除去した。アルカリ溶液による処理は4回行い(1回目0.01N、2回目以降0.1N)、ほとんど着色がなくなったことを確認した。さらに酸処理(1N－HCl)を12時間かけて行い、アルカリ分を除去した後に超純水による洗浄を4回行った。

(2)二酸化炭素化と精製：酸化銅により試料を燃焼(通称　二酸化炭素化)した後、真空ラインを用いて不純物を除去。

AAA処理の済んだ乾燥試料を、500mgの酸化銅と共に石英ガラス管に投じ、真空にした上で、ガスバーナーで封じ切った。このガラス管を電気炉で3時間をかけて、850℃で加熱し、試料を完全に燃焼させた。得られた二酸化炭素には水等の不純物が混在しているので、ガラス製真空ラインを用いて分離・精製した。

(3)グラファイト化：鉄触媒のもとで水素還元し、二酸化炭素をグラファイト炭素に転換。アルミ製カソードに充填。

1.5mgの炭素量を目標にグラファイトに相当する二酸化炭素を分取し、水素ガスと共に石英ガラス管に封じた。これを電気炉でおよそ12時間かけて、600℃で加熱し、グラファイトを得た。ガラス管にはあらかじめ触媒となる鉄粉が投じてあり、グラファイトはこの鉄粉の周囲に析出する。グラファイトは鉄粉とよく混合した後、穴径1㎜のアルミニウム製カソードに600Nの圧力で充填した。

＜補注2＞

年代データの^{14}CBPという表示は、西暦1950年を基点にして計算した^{14}C年代(モデル年代)であることを示す(BPまたはyrBPと記すことも多いが、本稿では^{14}CBPとする)。^{14}C年代を算出する際の半減期は5,568年を用いて計算する。誤差は測定における統計誤差(1標準偏差、68%信頼限界)である。

AMSでは、グラファイト炭素試料の^{14}C/^{12}C比を加速器により測定する。正確な年代を得るには、試料の同位体効果を

測定し、補正する必要がある。同時に加速器で測定した$^{13}C/^{12}C$比により、$^{14}C/^{12}C$比に対する同位体効果を調べ補正する。$^{13}C/^{12}C$比は、標準体(古生物belemnite化石の炭酸カルシウムの$^{13}C/^{12}C$比)に対する千分率$\delta^{13}C$(パーミル、‰)で示され、この値を－25‰に規格化して得られる$^{14}C/^{12}C$比によって補正する。補正した$^{14}C/^{13}C$比から、^{14}C年代値(モデル年代)が得られる。

$\delta^{13}C$値については、加速器による測定は同位体効果補正のためであり、必ずしも$^{13}C/^{12}C$比を正確に反映しないこともあるため、東京大学で測定した加速器による$\delta^{13}C$値は、本稿では()で、参考値として記す。

測定値を較正曲線IntCal04(^{14}C年代を暦年代に修正するためのデータベース、2004年版。Reimerb et al.2004)と比較することによって、暦年代(実年代)を推定できる。両者に統計誤差があるため、統計数理的に扱う方がより正確に年代を表現できる。すなわち、測定値と較正曲線データベースとの一致の度合いを確率で示すことにより、暦年代の推定値確率分布として表す。暦年較正プログラムは、国立歴史民俗博物館で作成したプログラムＲＨcal(OxCal Programに準じた方法)を用いている。統計誤差は２標準偏差に相当し、95%信頼限界で計算した。年代は、較正された西暦calＢＣで示す。()内は推定確率である。

＜参考文献＞

Reimer,Paula J.et al.2004 IntCal04 Terrestrial Radiocarbon Age Calibration,0－26 Cal Kyr BP Radiocarbon 46(3),1029－1058(30)

M.Sakamoto et al.2002 An Automated AAA preparation system for AMS radiocarbon daging. Nuclear Instruments and Methods in Physics Research B 223－224:298－301

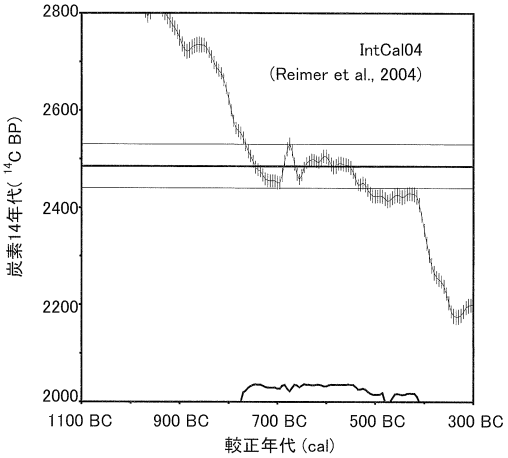
執筆　学術創成研究グループ(小林謙一・遠部慎・宮田佳樹・松崎浩之　　文責：小林謙一)

試料提供　香北町教育委員会(松本安紀彦)

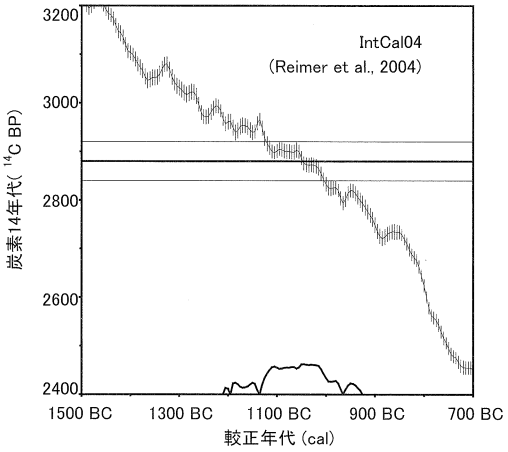
試料番号	測定機関番号	炭素年代 δ13C‰	^{14}C BP (補正値)	暦年較正cal BC (%)は確率密度	
KCKH-1	MTC-06581	(-23.6)	2485±45	775-480	87.2
				465-415	8.2
KCKH-27	Beta-210495	-18.2	2880±40	1210-1195	1.3
				1195-1140	10.2
				1135-970	78.3
				960-930	5.7
KCKH-28	Beta-210496	-23.6	2940±40	1290-1280	1.0
				1270-1015	94.5

第１表　高知県香北町仁井田遺跡・美良布遺跡^{14}C年代測定結果と暦年較正年代

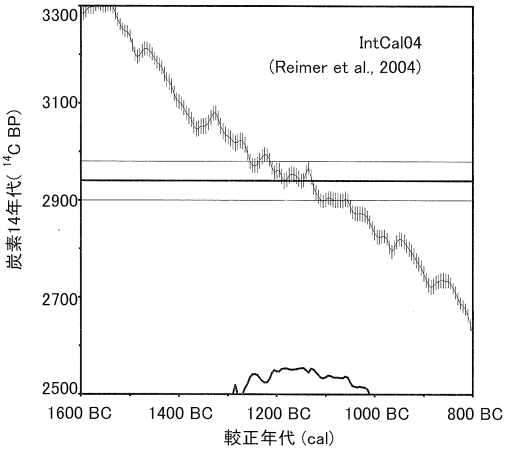
試料番号　KCKH-1-(rt)
機関番号　MTC-06581
炭素14年代　2485 ± 45 ^{14}C BP



試料番号　KCKH-27
機関番号　Beta-210495
炭素14年代　2880 ± 40 ^{14}C BP



試料番号　KCKH-28
機関番号　Beta-210496
炭素14年代　2940 ± 40 ^{14}C BP



第２表　高知県香北町仁井田遺跡・美良布遺跡^{14}C年代測定試料の較正年代確率密度分布

第Ⅵ章　まとめ

第１節　南四国の弥生前期初頭について

南四国における弥生時代研究は中村市(現 四万十市)入田遺跡の発掘調査から始まる。そこで型式設定された入田Ⅰ式は高知県内における最古の遠賀川式土器とされ、二条突帯が特徴の突帯文土器“入田B式”という南四国最後の縄文土器に伴うとされた(岡本1961)。つまり縄文の伝統の元に製作された土器と大陸からの影響の元に製作された土器が共存することが指摘されたのである。その後、甕を中心に南四国中央部に所在する南国市田村遺跡群の東松木地区・西見当地区の発掘調査を踏まえて入田Ⅰ式→西見当Ⅰ式→西見当Ⅱ式→大篠式という編年を組んだ後、高知空港拡張に伴う発掘調査成果から入田B式の二条突帯を継承した弥生土器として東松木式を設定した。その後、入田Ⅰ・B式→東松木式→西見当Ⅰ式→西見当Ⅱ式→大篠式という編年を組んでいる(岡本1979・1983・1984・1989)。しかし入田Ⅰ・B式は南四国西南部で設定された土器型式であって、この共伴関係を中央部の編年にどう対応させるかについては、一条突帯及び二条突帯の問題の時期差・分布差という課題もあり、南四国全域における弥生時代の開始とその文化の定着に関係する大きな課題となっている。

近年、これまでの研究成果及び発掘調査によって蓄積されてきた資料から、弥生土器編年における南四国の第Ⅰ様式を５段階に分け、Ⅰ—1様式を遠賀川式土器の生成期、Ⅰ—2・3様式を遠賀川式土器の確立・展開期、Ⅰ—4・5様式を遠賀川式土器の変質とそこからは系譜の追えない土器が出現する段階とする編年がある(出原2000a)。とりわけⅠ様式初頭に関しては、南四国中央部では南国市田村遺跡群で見られるように純粋な遠賀川式土器のみ出土するのに対して、南四国西南部では入田遺跡や土佐市居徳遺跡群で見られるように純粋に縄文の伝統で製作された突帯文土器と遠賀川式土器の共伴関係、つまり縄文の伝統と弥生の伝統の“二重構造”であることが、指摘されている(出原2000ｂ)。

これらの状況を鑑み、南四国西部と中央部における弥生文化の導入には大きな違いがあることが考慮されたのは(久家2000)、南四国における弥生時代の開始とその文化の定着は一元的では無く、いち早く弥生文化の定着が進んだ地域と縄文の伝統を継承しながらも徐々に弥生文化を取り入れていった地域があることを再認識する上で重要である。この点に関し、居徳遺跡群の報告で縄文土器及び弥生土器それぞれに見られる器種の組成比がまったく変化していないことを指摘し、弥生化はそれまでの生業形態に大きな変更を迫ることなく、ゆるやかに進んでいった可能性が指摘されたのは興味深い(曽我2001)。

第２節　仁井田遺跡出土の遺物について

第３層及び第４層で多数の出土が見られた。いずれの層においても縄文時代の系譜を引く土器と大陸からの影響の元に成立した土器が出土している。

大まかな傾向であるが、縄文時代の系譜を引く土器については深鉢と浅鉢の組成で成り立ってお

り、壺等の様相は不鮮明である。深鉢は二枚貝条痕調整を施す類例が目立ち、口縁部直下の外面に突帯を有する所謂“突帯文土器”(報告№1・64～66・68・92～95・121～124)が見られ、一条で刻目を施すものが目立つ。南四国西部には二条刻目突帯が分布するのに対し、中央部では一条刻目突帯が主体となることは既に推定されており(出原2000b)、この傾向に沿うものとして考えられる。浅鉢は皿形を呈し、口縁が大きく外傾しながら開くタイプが主となると考えられる。胴部の屈曲が鋭角となるものが見られ、中には外面屈曲部の上に抉るような沈線を施す類例(報告№100)も確認できる。また、弥生時代の土器については甕と壺の組成で成り立っており、高坏等と見られる土器の様相は不鮮明である。甕は口縁が外反し、端部にキザミを施すものが多数を占めており、器面調整はハケを特徴とする。器形は比較的寸胴なもの(報告№24・71・72)と頸部が締まる砲弾型のもの(報告№25)が見られる。両者の割合は、破片での出土が多数であるために不明である。壺は口頸部間に段及び頸胴部間に凹線を有するもの(報告№83～88)、不鮮明ながらも段を有するものも見られる(報告№45・46・113)。器面調整はミガキを特徴とする。外面に朱が遺存しているもの(報告№49・50・144)が見られるため、赤彩が施されていたものと考えられる。以下、各包含層の様相を見ていく。

第3層から出土した縄文系深鉢(報告№1～11)の胎土はいずれも類似しており、共に出土した弥生土器とは全く異なっている。1に見られるように口縁部外面直下に一条刻目突帯を有するものが認められる。断面で内傾接合が観察できるため、この土器の突帯は二番目に新しいビルディングの際に端部を強く外傾させて作出したものである。そして、その上に口縁となる粘土接合を行っており、器面調整も丁寧なナデであって一見ミガキのように見え、他の突帯文土器に比べて古相を示す可能性が高い。その他の深鉢においては二枚貝条痕調整を特徴とするものが認められるため、縄文時代の土器製作技術の伝統を継承したものと考えられる。なお、壺・浅鉢(報告№12～15)の胎土は深鉢のものと異なっており比較的精選されている傾向が見られる。弥生土器(報告№16～59)の胎土はおおよそ類似している。しかし16の胎土は先述した縄文系深鉢と類似しており、ほぼ直立する口縁とその外面に円形刺突を有するといった同時期の甕や壺には見られない特徴を有する。この特徴を持つ土器は居徳遺跡群でも出土しており、突帯文土器と弥生前期土器に伴うようである。甕に関しては外反する口縁部にキザミを施すものがほとんどであり、キザミが全面に施されるものと外端のみに施されるものが見受けられる。両者の境が不明瞭なものも見受けられるが、比較的全面に施されるものが多い。出原編年のⅠ-1様式においては“口唇部外端”にキザミを施すものが主体であるが、Ⅰ-2様式になると“口唇部全面”にキザミを施すものが増加するとされるため、口縁部に関しては出原編年のⅠ-2様式の特徴を示していると言える。しかし、17のように突帯文土器が弥生化したものが見られ、28のように口縁部内外端部を刻むものや29・30のように胴上部に刺突を施すといった特徴から前期後葉の大篠式の特徴を持つものが認められる。壺においては41のように極めて大きな個体になると考えられるものや、45･46のように頸胴部間の境界が不鮮明になったもの、47･48のように特殊なつくりを示すものなどが見られる。前期壺のメルクマールの一つとして頸胴部間の明瞭な段が挙げられるが、時期が新しくなると同時に不明瞭になることが指摘されているため、前期中葉以降の所産として考えたい。これらのことから第3層は概ね前期中葉～後葉の時期幅のあ

る包含層であるため一括資料と考えるには難がある。石器に関してはサヌカイト製の石鏃並びに掻器・削器としての使用が考えられる二次加工のある剥片が見られる。また擦痕を有する碁石状石製品が出土しており、地山や近辺で見られる形状ではないため搬入の可能性が考えられる。

第4層直上から出土した縄文系深鉢(報告№64～70)の胎土はいずれも類似しており、共に出土した弥生土器と異なる。64～66は外面に粘土帯を貼付して一条の突帯を作出し、そこに刻目ないしは刺突を施しており、内傾接合が確認できる。弥生土器(報告№71～90)の胎土はいずれも類似している。甕(報告№71～75)は口縁部外端にキザミを施すものが主体であって、71は胴上部に凹線を伴う段が、72は頸胴部間に沈線で上下を凹線で区画すると考えられる列点文が、76は頸胴部の境に刺突文を施すものが見られる。壺に関しては83～88のように頸胴部間に凹線を施すものが目立つ。

第4層上層から出土した縄文系深鉢(報告№92～99)の胎土はいずれも類似しており、共に出土した弥生土器とは異なる。92～95では外面に粘土帯を貼付して一条の突帯を作出し、そこに刻目を施している。浅鉢は皿形であり、100には胴部に鋭角な屈曲と抉るような凹線が見られる。弥生土器(報告№102～116)の胎土はいずれも類似している。甕は口縁部外端にキザミを施すものが見られる。また、胴部の外面に粘土帯を貼付して突帯を作出し、キザミを施すものも見られる(報告№105・106)。壺に関しては112のように口頸部間に段を有するもの、115のように木葉文状の凹線文を描くものが見られる。石鏃はサヌカイト製であって、119のように平基式のものが見られる。

第4層中層から出土した縄文系深鉢(報告№121～127)の胎土はおおよそ類似しており、共に出土した弥生土器とは異なる。122以外は外面に粘土帯を貼付して一条の突帯を作出し、そこに刻目を施している。122は口縁作成時に粘土を摘み出して突帯を作出している可能性が考えられる。弥生土器(報告№128～137)の胎土はいずれも類似している。甕は口縁部外端にキザミを施すものしか見られない。壺は比較的大型になると考えられるものや(報告№135)、凹線文を胴部に有するものが出土している(報告№137)。

よって第4層は単一な時期の包含層として考えられるため、一括資料として取り扱いたい。突帯文土器と遠賀川式土器の共伴を示しており、縄文と弥生の混在つまり二重構造を示すと言える。甕については外反する口縁部外端にキザミを施すものが圧倒的多数であるが、甕の胴上部に見られる段や凹線で区画された円形刺突文が見られ、壺の頸胴部間の段が不鮮明で凹線が主体になっていることから、Ⅰ-2様式よりもやや新しい要素が出現していると言える。よってⅠ-3様式として考え、この段階まで突帯文土器が継承される集落があったと言えよう。また、石器に関しては、石鏃及び削器と見られる二次加工のある剥片が出土し、全て打製である。石鏃については小柄なものばかりであって、縄文的であるのもこの遺跡の特徴を示していると考えられる。

第3節　仁井田遺跡の遺構について

4層上面・中層及び6層上面で遺構が検出された。4層上面ではピット4基、土坑9基が検出されている。ピットと土坑については平面上場径の規模が近似するものが見られるが、平面下場径が上場径より大きくなるものと小さくなるものに分けられる。前者を土坑、後者をピットとして考えた。

4層上面で検出された土坑については、上場よりも下場の径が大きくなる、ないしは上場の下へ

掘り込む、所謂“オーバーハング”する傾向が見られるため。台形状を呈すると言える。一般的に台形状ないしはフラスコ状を呈する土坑は“貯蔵穴“として考えられるが、今回の調査では底面での貯蔵物ないしは埋土中の籾・堅果等は確認できなかった。

高知県内における貯蔵穴は南国市西見当遺跡(南国市教委1976、岡本1979)、南国市田村遺跡群(高知県教委1986)、南国市奥谷南遺跡(松村・山本2001)、香我美町十万遺跡(香我美町教委1988)、香北町美良布遺跡(香北町教委1991)で報告がある。奥谷南遺跡では堅果類が、西見当遺跡では鳥獣骨・魚骨等が確認されたが、十万遺跡・美良布遺跡では当遺跡同様に貯蔵物は確認されていない。

また、仁井田遺跡の貯蔵穴は西見当遺跡で検出されたものと規模・形状とその出土傾向に大きな違いがあり、田村遺跡群で検出された土坑でも明確に袋状を呈する形状のものは極少数である。よって、時期は同じ遺跡ではあっても、異なる文化の元に構築された遺構の可能性が指摘できる。

SK20から弥生前期甕の底部と共に碁石状石製品(報告№164)が出土しており、意図的に埋納させた可能性が考えられる。しかし、人工的に研磨が行われた痕跡は認められず、自然に河川に洗われて角が取れ、碁石状を呈している可能性が高い。問題はこの種の形状の石が物部川上流域で見つかるか否かである。遺跡近辺における礫層の露頭及びそこから10kmほど下った地点において散見される河川堆積物は拳大以上の大きさの礫及び砂が目立っており、河口近くにならないと同様の形状を持つ石は見つからない。つまり、河口部から搬入された可能性が指摘でき、田村遺跡群の弥生土器と同じ胎土と特徴を持つ土器と共に仁井田遺跡に持ち込まれたと考えられる。下流との繋がりを示唆する資料となろう。

6層上面で検出されたSK10であるが、極めて明瞭な掘り方が確認でき、極めて大きな溝状を呈する。出土遺物を見る限り、第4層出土遺物と同じ傾向を示しているため、4層上面で検出された土坑とほぼ同時期に構築されたものと考えられる。

第4節　^{14}C年代測定について

仁井田遺跡第3層直上から出土した縄文時代晩期突帯文土器のものと考えられる胴部片と美良布遺跡Pit1から出土した縄文時代晩期の二枚貝条痕調整を特徴とする深鉢胴部片より採取された炭化物について測定結果が得られた。

仁井田遺跡では、報告№5・分析番号KCKH-1について2485±45^{14}CBPという測定結果が得られ、紀元前770-500年つまり縄文時代晩期末～弥生時代前期に該当し、土器の特徴からして大きな齟齬はないと考えられる。美良布遺跡ではKCKH-27について2880±40^{14}CBP、KCKH-28について2940±40^{14}CBPという測定結果が得られ、縄文時代晩期前葉に位置付けられる。いずれも高知県内における基準資料となろう。

高知県内の縄文時代～弥生時代にかけての年代測定は土佐市居徳遺跡群で行われており、人骨と土器塗付ウルシ及び4D区ⅣB層出土縄文土器(中村2004)、木製鍬(今村2004)、ⅠC区ⅣB・D層出土土器についての測定がある(藤尾他2004)。ⅠC区ⅣD層は突帯文土器主体で遠賀川系土器がわずかに伴い田村Ⅰ-2期に、ⅣB層は突帯文土器と遠賀川系土器が共存し田村Ⅰ-2・3期に相当するという調査者の見解を引用し、総合的には紀元前800～500年の範囲内に収まると報告されている。これは

仁井田遺跡KCKH-1と大差ない年代である。

試料数が少なく、第3層出土という不安定な出土状況であり、遠賀川式土器そのものの^{14}C年代測定が行われたわけではないので、この年代をそのままⅠ-3様式の年代とするには課題があるが、南四国中央部の弥生時代前期年代の一つの測定値として提示したい。

第5節　総括

南四国では前期中葉以降に地域的な土器が出現することが指摘されている。その地方型式として「土佐型甕」が設定され（出原1990）、その後、その地域的な土器が南四国広域に分布することから「南四国型甕」として設定されている（出原2003）。また、南予にも地域的な土器が出現することから「西南四国型甕」という型式設定もされている（柴田1995・1998）。これらの土器の発生については縄文時代の土器製作技術が深く関わっているという指摘がある（柴田2000）。よって当遺跡において確認された弥生時代前期中葉まで縄文の伝統が残る現象が、次の段階まで引き継がれた可能性が考えられる。詳細な土器の型式変遷については今後の研究と調査に委ねたい。

この縄文文化と弥生文化の共存という現象について、南四国西南部の四万十川流域の遺跡を例に挙げて在来者と移住者の集団差とする指摘や（藤尾1991）、北部九州から遠隔地で見られる傾向という指摘がある（下條1993）。それに対して遠賀川式土器という大陸の影響下に発生したとされる土器様式の主要分布圏が環瀬戸内地域にあることを想定し、その分布圏周辺部において見られる現象とする見解もある（高橋1986・1991）。南四国においては第1節で述べたとおり、純粋な弥生文化を持つ田村遺跡群とその周辺部での遺跡のあり方が異なっており、周辺部においては西部を中心に“二重構造”を示すことが指摘されてきた。そして四国内においては南四国中央部と瀬戸内沿岸諸平野が、純粋に弥生化が進んだ地域とされ、その外帯においては二重構造が見られることが指摘されている（出原2000b）。

今回、仁井田遺跡の発掘調査成果から“二重構造”の集落が南四国中央部にも存在することが明らかとなった。そして、同じ物部川の流域でありながら、田村遺跡群と仁井田遺跡では全く異なった文化構成の元に製作された土器をそれぞれ製作していたことは非常に興味深く、このような文化構成は、必ずしも南四国西部・中央部といった地域的・地勢的差異だけに起因するのではなく、小地域それぞれの集落に縄文の伝統や個性が継承されていた可能性が指摘できる。よって、これからは各河川の様相を見極めることが重要となろう。

これらの地域的差異を明らかにすることによって、現代日本まで脈々と受け継がれ、それぞれの地域の原動力となってきた水稲耕作の起源に迫ることが出来るのであり、高知県や愛媛県南部に見られるように南四国広域に見られる谷水田や棚田の起源に迫ることが可能になるのである。

引用・参考文献

泉　拓良　1986　「縄文と弥生の間に－稲作の起源と時代の画期－」　『歴史手帖』14巻４号

今村峯雄・坂本稔・永嶋正春　2004　「付編５　高知県土佐市居徳遺跡出土鍬柄の実年代について」　『(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター調査報告第91集　居徳遺跡群Ⅳ』　(財)高知県埋蔵文化財センター

岡本健児　1952　「土佐入田遺跡調査概報」　『考古学雑誌』第38巻５・６号

1961　「入田遺跡」　『日本農耕文化の生成』　日本考古学協会編　東京堂出版

1968　「弥生土器」　『高知県史考古編』　高知県

1973～1974　「弥生土器－四国一～五」　『考古学ジャーナル』88～90、92、93　ニューサイエンス社

1979　「第二章 弥生前期時代」　『南国市史』　南国市

1979　「西見当Ⅰ式土器とその縄文的要素」　『考古学ジャーナル』170　ニューサイエンス社

1983　「土佐考古学の諸問題　三 弥生時代」　『高知の研究1　地質・考古篇』　清文堂

1984　「四国の弥生土器の編年と年代」　『高地性集落と倭国大乱』　小野忠熙博士退官記念論集

1989　「四国の弥生土器の編年と年代」　『高地性集落と倭国大乱』　雄山閣

久家隆芳　2000　「南四国における弥生文化の成立」　『第47回　埋蔵文化財研究集会　弥生文化の成立―各地域における弥生文化成立期の具体像―』　埋蔵文化財研究会

柴田昌児　1995　「中期弥生土器の地域色」　全国埋蔵文化財法人連絡協議会調査研究部会

1998　「南予地域における弥生土器の地域色」　『保内町の遺跡―遺跡詳細分布調査報告書』　保内町教育委員会

2000　「第Ⅱ部 突帯文土器と遠賀川式土器の諸相　四国西南部における弥生文化の成立過程―西南四国型甕の成立と背景―」　『突帯文と遠賀川』　土器持寄会論文集刊行会

下條信行　1993　「西部瀬戸内における出現期の弥生土器の様相」　『論苑　考古学』　坪井清足さんの古希を祝う会編

天山舎　曽我貴行　2001　「第Ⅴ章　考察　1C区第Ⅳ層群出土土器について」　『居徳遺跡群Ⅰ　四国横断自動車道(伊野～須崎間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』　(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高橋　護　1986　「遠賀川式土器の伝播」　『弥生文化の研究』９　雄山閣

1991　「遠賀川式土器」　『弥生文化の研究』４　雄山閣

出原恵三　1986　「初期農耕集落の構造」　『考古学研究』第34号第３号

1988　「美良布遺跡の再検討」　『土佐史談』177号　土佐史談会

1990　「土佐型甕の提唱とその意義」　『遺跡』第32号　遺跡発行会

1994　「四国西南部における弥生文化の成立」　『文化財学論集』　文化財学論集刊行会

1996　「南四国における弥生文化の成立」　『土佐史談』200号　土佐史談会

2000a　「5 土佐地域」　『弥生土器の様式と編年　四国編』　木耳社

2000b　「第Ⅱ部 突帯文土器と遠賀川式土器の諸相　四国における遠賀川式土器の成立」　『突帯文と遠賀川』　土器持寄会論文集刊行会

2003　「「南四国型」甕の成立と背景-二重構造の視点から」　續文化財學論集　文化財学論集刊行会

中村俊夫　2004　「付編３　高知県土佐市居徳遺跡群出土人骨、赤漆塗土器片のウルシ、土器片付着炭化物の^{14}C年代測定」　『(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター調査報告第91集　居徳遺跡群Ⅳ』(財)高知県埋蔵文化財センター

平井　勝　1989　「縄文時代晩期における中・四国の地域性」　『考古学研究』36巻２号

藤尾慎一郎・小林謙一　2004「付編６　高知県土佐市居徳遺跡出土土器の^{14}C年代測定」
今村峯雄・坂本稔
松崎浩之
『(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター調査報告第91集　居徳遺跡群Ⅳ』
(財)高知県埋蔵文化財センター

藤尾慎一郎　1991a「水稲農耕と突帯文土器」　『日本における初期弥生文化の成立』　横山浩一先生退官記念論文集Ⅱ

1991b「水稲農耕開始期の地域性」　『考古学研究』第38巻第２号　考古学研究

松村信博・山本純代　2001『奥谷南遺跡Ⅱ』　(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

矢根祥多　1987「弥生土器の誕生と変貌」　『季刊考古学』第19号　雄山閣

1993「遠賀川式土器の成立をめぐってー西日本における農耕社会の成立」　『論苑考古学』　坪井清足さんの古希を祝う会編　天山舎

吉田広　2000「第Ⅰ部　土器持寄会の記録　第８回　土佐の遠賀川式土器をめぐって」　『突帯文と遠賀川』　土器持寄会論文集刊行会

高知県教育委員会　1986「Loc.44」　『田村遺跡群』第３分冊　高知県教育委員会

香我美町教育委員会　1988『十万遺跡発掘調査報告書』

香北町教育委員会　1991『美良布遺跡』　※香北町は2006年３月１日付で市町村合併により「香美市」となる。

南国市教育委員会　1976『高知県田村西見当遺跡(B・C区)の発掘』

中村市教育委員会　1994『国見遺跡』　※中村市は市町村合併により「四万十市」となっている。

第３表ー出土遺物観察表①

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	部位	法量（cm/Max） 径	法量（cm/Max） 器厚	焼成	色調	備考
9	1	3層	縄文系深鉢	口縁部	29.6	0.9	良	内：灰オリーブ(5Y 4/2) 外：灰褐(5YR 4/2) 断：褐灰(5Y 3/1)	緻密な胎土。0.5～１㎜大の砂粒をわずかに含む。
9	2	3層	縄文系深鉢	口縁部	—	0.6	良	内：にぶい黄橙(10YR 6/4) 外：褐灰(10YR 5/1) 断：にぶい黄橙(10YR 7/2)	緻密な胎土。0.5～１㎜大の砂粒を含む。突帯文土器と胎土が類似する。
9	3	3層	縄文系深鉢	胴部	—	0.7	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/2) 外：灰黄褐(10YR 5/2) 断：灰黄褐(10YR 5/2)	緻密な胎土。1㎜大の砂粒を多く含む。内外にケズリ状のナデ調整を施す。
9	4	3層	縄文系深鉢	胴部	—	0.9	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/3) 外：にぶい黄橙(10YR 7/4) 断：褐灰(10YR 5/1)	緻密な胎土。0.5～３㎜大の砂粒を含む。内外面に二枚貝条痕調整を施した後ナデ消す。
9	5	3層	縄文系深鉢	胴部	—	1.1	良	内：不明(煤付着に起因) 外：灰黄褐(10Ｙ R 5/2) 断：褐灰(10Ｙ R 4/1)	内面全面に炭化物付着。外面に二枚貝条痕調整を施した後、ナデ消す。年代測定試料No.KCKT 1
9	6	3層	縄文系深鉢	胴部	—	0.8	良	内：灰黄褐(10Ｙ R 6/2) 外：黒褐(10Ｙ R 3/2) 断：黄灰(2.5Ｙ 5/1)	内外面共に二枚貝条痕調整を施した後ナデ消す。
9	7	3層	縄文系深鉢	胴部	—	0.7	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/3) 外：灰黄褐(10YR 5/2) 断：灰黄褐(10YR 5/2)	やや粗な胎土。0.5～１㎜大の砂粒を多く含む。内外に二枚貝条痕調整を施した後ナデ消す。
9	8	3層	縄文系深鉢	胴部	—	0.8	良	内：灰黄褐(10YR 6/2) 外：にぶい黄橙(10YR 7/3) 断：褐灰(10YR 4/1)	緻密な胎土。1～2㎜大の砂粒を多く含む。
9	9	3層	縄文系深鉢	胴部	—	0.9	良	内：にぶい橙(5YR 7/3) 外：黒褐(5YR 3/1) 断：黒褐(5YR 3/1)	やや粗な胎土。0.5～2㎜大の砂粒を多く含む。
9	10	3層	縄文系深鉢	胴部	—	0.9	良	内：にぶい黄橙(10YR 6/3) 外：にぶい黄橙(10YR 6/3) 断：黒(10YR 2/1)	緻密な胎土。0.5～2㎜大の砂粒を含むが少ない。
9	11	3層	縄文系深鉢	胴部	—	0.8	良	内：明黄褐(10YR 7/6) 外：にぶい黄橙(10YR 7/2) 断：褐灰(10YR 5/1)	緻密な胎土。2㎜大の砂粒を多く含む。
9	12	3層	縄文系壺？	胴部	—	0.9	良	内：浅黄(2.5Y 7/3) 外：浅黄(2.5Y 7/3) 断：黒褐(2.5Y 3/1)	緻密で、1～5㎜大の砂粒を若干含む精選された粘土を使用。突帯文土器と胎土が類似。胴上部に凹線を有する。
9	13	3層	縄文系壺？	胴部	—	0.8	良	内：にぶい黄橙(10YR 6/4) 外：にぶい黄橙(10YR 6/4) 断：にぶい黄橙(10YR 6/4)	緻密で、1～2㎜大の砂粒をわずかに含む比較的精選された胎土。外面に、二枚貝条痕をナデ消し、細い凹線文を有する。
9	14	3層	縄文系浅鉢	胴部	—	0.6	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/4) 外：黒(10YR 2/1) 断：黒(10YR 2/1)	緻密な胎土。0.5～1㎜大の砂粒を多く含む。
9	15	3層	縄文系浅鉢	胴部	—	0.8	良	内：灰褐(7.5Ｙ R 4/2) 外：褐(7.5Ｙ R 4/6) 断：黒(10Ｙ R 2/1)	黒色磨研土器であり、内外共にミガキ調整を施す。
9	16	3層	弥生　鉢	口縁部	—	0.6	良	内：橙(7.5YR 7/6) 外：にぶい黄橙(10YR 7/4) 断：にぶい黄橙(10YR 7/4)	緻密な胎土。0.5～3㎜大の砂粒を多く含む。口縁は直立し、外面に竹管状工具で刺突を施す。
10	17	3層	弥生　甕	口縁部	—	0.8	良	内：橙(5YR 7/6) 外：橙(5YR 7/6) 断：橙(5YR 7/6)	緻密な胎土。0.5～1㎜大の砂粒を多く含む。口縁部は直立し、外端をキザミを有する。そこから下がった部分に一条刻目突帯を有する。
10	18	3層	弥生　甕	口縁部	—	0.7	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/3) 外：にぶい黄橙(10YR 7/3) 断：にぶい黄橙(10YR 7/3)	緻密な胎土。0.5～1㎜大の砂粒を含む。
10	19	3層	弥生　甕	口縁部	—	0.5	良	内：明褐灰(7.5YR 7/2) 外：明褐灰(7.5YR 7/2) 断：明褐灰(7.5YR 7/2)	緻密な胎土。比較的精選されている。外反し、端部を刻む。
10	20	3層	弥生　甕	口縁部	—	0.6	良	内：にぶい黄橙(10Ｙ R 7/4) 外：灰黄褐(10Ｙ R 4/2) 断：浅黄褐(10Ｙ R 8/3)	外反し、端部を刻む。
10	21	3層	弥生　甕	口縁部	—	0.9	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/4) 外：にぶい黄橙(10YR 7/4) 断：にぶい黄橙(10YR 7/4)	緻密な胎土。0.5～1㎜大の砂粒を多く含む。外反し、外端を刻む。
10	22	3層	弥生　甕	口縁部	—	0.6	良	内：にぶい橙(7.5YR 7/4) 外：にぶい橙(7.5YR 7/4) 断：黒褐(7.5YR 3/1)	緻密な胎土。0.5～1㎜大の砂粒をわずかに含む。外反し、端部を刻む。
10	23	3層	弥生　甕	口縁部	—	0.6	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/3) 外：にぶい黄橙(10YR 7/3) 断：にぶい黄橙(10YR 7/3)	緻密な胎土。0.5～1㎜大の砂粒をわずかに含む。外反し、外端を刻む。
10	24	3層	弥生　甕	口縁部	23.2	1.1	良	内：浅黄(7.5YR 8/4) 外：にぶい黄橙(10YR 7/3) 断：褐灰(10YR 6/1)	やや粗な胎土。0.5～1㎜大の砂粒を比較的多く含む。外反し、端部を刻む。
10	25	3層	弥生　甕	口縁部	17.0	0.7	良	内：にぶい橙(7.5YR 7/4) 外：にぶい橙(7.5YR 7/4) 断：褐灰(7.5YR 4/1)	緻密な胎土。0.5～2㎜大の砂粒を多く含む。外反し、端部を刻む。頸胴部間に凹線を有する。
10	26	3層	弥生　甕	口縁部	—	0.7	良	内：浅黄橙(10YR 8/4) 外：浅黄橙(10YR 8/4) 断：浅黄橙(10YR 8/4)	緻密な胎土。0.5～1㎜大の砂粒を多く含む。外反し、外端を刻む。端部を刻む。
10	27	3層	弥生　甕	口縁部	—	0.6	良	内：橙(7.5YR 6/6) 外：橙(7.5YR 6/6) 断：橙(7.5YR 6/6)	緻密な胎土。外反し、端部を刻む。

第４表ー出土遺物観察表②

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	部位	法量（cm/Max）		焼成	色調	備考
					径	器厚			
10	28	3層	弥生　甕	口縁部	26.4	0.8	良	内：灰白(10YR 8/2) 外：にぶい黄橙(10YR 7/2) 断：褐灰(10YR 5/1)	緻密な胎土。1～2mm大の砂粒をわずかに含む。外反し、内外端を刻む。
10	29	3層	弥生　甕	胴部	—	0.8	良	内：にぶい橙(7.5YR 6/4) 外：にぶい橙(7.5YR 6/4) 断：にぶい橙(7.5YR 6/4)	緻密な胎土。0.5mm大の砂粒を多く含む。
10	30	3層	弥生　甕	胴部	—	0.7	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/4) 外：にぶい黄橙(10YR 7/4) 断：にぶい黄橙(10YR 7/4)	胴上部に刺突を有する。
10	31	3層	弥生　甕	胴部	—	0.8	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/4) 外：にぶい黄橙(10YR 7/4) 断：にぶい黄橙(10YR 7/4)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。
10	32	3層	弥生　甕	胴部	24.6	1.0	良	内：浅黄橙(7.5YR 8/4) 外：浅黄橙(7.5YR 8/4) 断：浅黄橙(7.5YR 8/4)	緻密な胎土。1～2mm大の砂粒を多く含む。
11	33	3層	弥生　甕	胴部	—	1.1	良	内：浅黄橙(10YR 8/4) 外：浅黄(2.5Y 7/3) 断：浅黄(2.5Y 7/3)	やや粗。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。内外にハケ目調整を施す。
11	34	3層	弥生　甕	胴部	—	0.9	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/3) 外：橙(5YR 6/6) 断：にぶい黄橙(10YR 7/3)	緻密な胎土。4mm大の砂粒をわずかに含む。
11	35	3層	弥生　甕	胴部	20.6	1.0	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/3) 外：にぶい黄橙(10YR 7/3) 断：にぶい黄橙(10YR 7/3)	緻密な胎土。1～2mm大の砂粒を多く含む。
11	36	3層	弥生　甕	胴部	—	0.7	良	内：淡黄(2.5Y 8/3) 外：淡黄(2.5Y 8/3) 断：淡黄(2.5Y 8/3)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。
11	37	3層	弥生　壺?	頸部？	—	0.9	良	内：灰黄褐(10YR 5/2) 外：褐灰(10YR 5/1) 断：黄灰(2.5Y 5/1)	比較的緻密な胎土である。
11	38	3層	弥生　甕	胴部	—	0.6	良	内：灰黄(2.5Y 6/2) 外：灰黄褐(10YR 6/2) 断：灰黄褐(10YR 6/2)	比較的緻密な胎土である。
11	39	3層	弥生　甕	胴部	—	0.8	良	内：橙(7.5YR 7/6) 外：にぶい黄橙(10YR 7/4) 断：褐灰(10YR 5/1)	
11	40	3層	弥生　甕	底部	9.6	1.5	良	内：橙(5YR 6/6) 外：にぶい橙(7.5YR 6/4) 断：褐灰(7.5YR 5/1)	緻密な胎土。1mm大の砂粒を多く含む。チャートが目立つ。外面にハケ目を施す。
11	41	3層	弥生　壺	口縁部	—	1.6	良	内：にぶい橙(10YR 7/4) 外：にぶい橙(10YR 7/4) 断：にぶい橙(10YR 7/4)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。口頸部に大きな段を有すると考えられる。大形の遠賀川壺。
11	42	3層	弥生　壺	口縁部	15.0	0.8	良	内：灰白(2.5Y 8/2) 外：灰白(5Y 8/2) 断：灰白(5Y 8/2)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。頸胴部間に雑な凹線を有し、口縁端部が緩く凹む。
11	43	3層	弥生　壺	口縁部	—	0.5	良	内：明褐灰(7.5YR 7/2) 外：明褐灰(7.5YR 7/2) 断：明褐灰(7.5YR 7/2)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒をわずかに含む。
11	44	3層	弥生　壺	頸部	—	1.0	良	内：灰白(2.5Y 8/2) 外：灰白(2.5Y 8/2) 断：灰白(2.5Y 8/2)	やや粗。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。
11	45	3層	弥生　壺	頸部	—	1.0	良	内：にぶい橙(7.5YR 7/4) 外：にぶい橙(7.5YR 7/4) 断：黄灰(2.5Y 6/1)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。
11	46	3層	弥生　壺	頸部	—	0.9	良	内：淡橙(5YR 8/4) 外：橙(5YR 7/6) 断：淡橙(5YR 8/4)	緻密な胎土。0.5～2mm大の砂粒を含む。遠賀川壺であるが、頸胴部間の段はミガキにより不明。
12	47	3層	弥生　壺	頸部	25.4	0.9	良	内：浅黄(2.5Y 7/3) 外：浅黄(2.5Y 7/3) 断：浅黄(2.5Y 7/3)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を含む。
12	48	3層	弥生　壺	胴部	25.4	0.7	良	内：淡黄(2.5Y 8/3) 外：にぶい黄橙(10YR 7/3) 断：淡黄(2.5Y 8/3)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を含む。ボウル状を呈すると考えられ、壺の頸部がつくタイプと考えられる。
12	49	3層	弥生　壺	胴部	—	1.0	良	内：淡黄(2.5Y 8/2) 外：橙(2.5YR 6/6) 断：淡黄(2.5Y 8/2)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。外面に赤色顔料が遺存。
12	50	3層	弥生　壺	胴部	—	内面剥落により不明	良	内：不明(剥落に起因) 外：灰黄(2.5Y 7/2) 断：灰黄(2.5Y 7/2)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。外面に赤色顔料が遺存。
12	51	3層	弥生　壺	胴部	—	1.0	良	内：にぶい黄橙(10YR 6/3) 外：明赤褐(5YR 6/5) 断：にぶい黄橙(10YR 6/3)	緻密な胎土。1～2mm大の砂粒を多く含む。
12	52	3層	弥生　壺	胴部	—	0.7	良	内：にぶい橙(7.5YR 7/3) 外：にぶい橙(7.5YR 7/3) 断：にぶい橙(7.5YR 7/3)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。肩部に斜格子状の文様を有する。
12	53	3層	弥生　壺	胴部	—	0.7	良	内：灰白(2.5Y 8/1) 外：灰白(2.5Y 8/1) 断：灰白(2.5Y 8/1)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒をわずかに含む。外面に複数の凹線を有する。
12	54	3層	弥生　壺	胴部	—	0.6	良	内：褐灰(7.5YR 4/1) 外：橙(7.5YR 7/6) 断：褐灰(7.5YR 5/1)	緻密な胎土。1～2mm大の砂粒を含む。がいめんに凹線文を有する。

第５表ー出土遺物観察表③

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	部位	法量（cm/Max） 径	法量（cm/Max） 器厚	焼成	色調	備考
12	55	3層	弥生 壺	胴部	—	0.9	良	内：浅黄橙(10YR 8/3) 外：浅黄橙(10YR 8/3) 断：浅黄橙(10YR 8/3)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。外面に凹線文を有する。
12	56	3層	弥生 壺	胴部	—	内面剥落により不明	良	内：不明(剥落に起因) 外：にぶい黄橙(10YR 7/4) 断：褐灰(10YR 5/1)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。外面に格子目様の凹線文を有する。
12	57	3層	弥生 壺	胴部	—	0.9	良	内：橙(5YR 6/6) 外：にぶい褐(7.5YR 6/3) 断：褐灰(5YR 5/1)	やや粗。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。搬入品と考えられる。
12	58	3層	弥生 壺	底部	8.2	2.0	良	内：浅黄橙(7.5YR 8/4) 外：浅黄橙(7.5YR 8/4) 断：褐灰(10YR 4/1)	緻密な胎土。１～2mm大の砂粒を多く含む。
12	59	3層	弥生 壺	底部	6.8	2.4	良	内：褐(10YR 5/1) 外：にぶい黄橙(10YR 6/4) 断：にぶい黄橙(10YR 6/1)	緻密な胎土。１～2mm大の砂粒を多く含む。

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	法量（Max） 全長(cm)	法量（Max） 全幅(cm)	法量（Max） 全厚(cm)	法量（Max） 重量(g)	石材	備考
12	60	3層	石 鏃	1.9	1.3	0.3	0.5	サヌカイト	金山産サヌカイトと考えられる。
12	61	3層	剥 片	2.7	1.4	0.2	1.38	サヌカイト	二次加工が認められる。金山産サヌカイトと考えられる。
12	62	3層	剥 片	3.6	4.2	0.6	9.32	サヌカイト	二次加工が認められる。金山産サヌカイトと考えられる。
12	63	3層	碁石状石器	2.6	2.4	2.6	5.95	頁岩？	一部に研磨痕が認められる。

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	部位	法量（cm/Max） 径	法量（cm/Max） 器厚	焼成	色調	備考
15	64	4層直上	縄文系深鉢	口縁部	27.8	0.8	良	内：浅黄橙(10YR 8/4) 外：灰黄褐(10YR 6/2) 断：黄灰(2.5Y 5/1)	やや粗な胎土。1～3mm大の砂粒を多く含む。口縁端部にキザミ及び一条突帯に刺突を有する。
15	65	4層直上	縄文系深鉢	口縁部	—	0.7	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/2) 外：浅黄橙(10YR 8/3) 断：黒褐(10YR 3/1)	粗な胎土。2～5mm大の砂粒を多く含む。端部が外反し、一条刻み目突帯を有する。
15	66	4層直上	縄文系深鉢	口縁部	—	0.6	良	内：浅黄橙(7.5YR 8/4) 外：浅黄橙(7.5YR 8/4) 断：褐灰(7.5YR 4/1)	緻密な胎土。1mm大の砂粒を多く含む。一条刻み目突帯を有する。突帯の上下に沈線区画を行う。
15	67	4層直上	縄文系深鉢	口縁部	—	0.6	良	内：灰黄褐(10YR 6/2) 外：灰黄褐(10YR 6/2) 断：黒(10YR 2/1)	緻密な胎土。1mm大の砂粒をわずかに含む。外面にキザミを有する。
15	68	4層直上	縄文系?深鉢	口縁部	—	0.9	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/3) 外：明黄褐(10YR 7/6) 断：灰白(2.5Y 7/1)	やや粗。2mm大mの砂粒を含む。チャート目だつ。無キザミ突帯の可能性あり。
15	69	4層直上	縄文系深鉢	胴部	—	0.7	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/3) 外：にぶい黄橙(10YR 7/3) 断：黒褐(10YR 3/1)	緻密な胎土・1～2mm大の砂粒をわずかに含む。
15	70	4層直上	縄文系深鉢	胴部	—	0.8	良	内：橙(5YR 6/6) 外：にぶい赤褐(5YR 5/2) 断：橙(5YR 6/6)	やや粗な胎土。1～2mm大の砂粒を多く含む。
15	71	4層直上	弥生 甕	口縁部	21.0	0.9	良	内：橙(7.5YR 6/6) 外：にぶい橙(7.5YR 6/4) 断：橙(7.5YR 6/6)	緻密な胎土。1～2mm大の砂粒をまばらに含む。外反し、外端にキザミを有する。頸胴部間に段ないしは凹線を有する。
15	72	4層直上	弥生 甕	口縁部	22.0	0.7	良	内：浅黄橙(10YR 8/3) 外：浅黄橙(10YR 8/4) 断：浅黄橙(10YR 8/4)	緻密な胎土。1mm大の砂粒をまばらに含む。外反し、外端にキザミを有する。頸胴部間に二条凹線有し、その間に円形刺突を有する。
15	73	4層直上	弥生 甕	口縁部	—	0.8	良	内：浅黄橙(7.5YR 8/4) 外：浅黄橙(7.5YR 8/4) 断：浅黄橙(7.5YR 8/4)	緻密な胎土。1mm大の砂粒をわずかに含み、チャートが目立つ。外端にキザミを有する。
15	74	4層直上	弥生 甕	口縁部	—	0.7	良	内：浅黄橙(10YR 8/3) 外：灰白(10YR 7/1) 断：灰白(10YR 7/1)	緻密な胎土。
15	75	4層直上	弥生 甕	口縁部	34.4	0.8	良	内：橙(7.5YR 6/6) 外：橙(7.5YR 6/6) 断：橙(7.5YR 6/6)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。外反し、外端にキザミを有する。端部が緩く凹む。
15	76	4層直上	弥生 甕	胴部	—	0.9	良	内：にぶい橙(7.5YR 7/3) 外：にぶい黄橙(10YR 7/2) 断：にぶい黄橙(10YR 7/2)	緻密な胎土。1mm大の砂粒を多く含む。頸胴部間に刺突を有する。
15	77	4層直上	弥生 甕	頸部	—	1.0	良	内：にぶい黄橙(10YR 6/3) 外：橙(5YR 6/6) 断：にぶい黄橙(10YR 6/3)	緻密な胎土。～0.5mm大の砂粒を含むが、1cm大の礫を意図的に混入させている可能性が考えられる。
15	78	4層直上	弥生 甕	胴部	—	0.8	良	内：にぶい橙(7.5YR 7/4) 外：にぶい橙(7.5YR 7/4) 断：灰白(7.5YR 8/2)	緻密な胎土。0.5mm大の砂粒を多く含む。チャート目立つ。
16	79	4層直上	弥生 甕	胴部	—	0.8	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/4) 外：にぶい黄橙(10YR 7/4) 断：にぶい黄橙(10YR 7/4)	緻密な胎土。1mm大の砂粒を若干含む。チャート目立つ。

第6表ー出土遺物観察表④

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	部位	法量（cm/Max）		焼成	色調	備考
					径	器厚			
16	80	4層直上	弥生 甕	胴部	—	0.8	良	内：灰白(2.5Y 8/2) 外：にぶい黄橙(10YR 6/3) 断：にぶい黄橙(10YR 6/3)	緻密な胎土。1～2mm大の砂粒を比較的多く含む。
16	81	4層直上	弥生 甕	底部	—	2.4	良	内：灰黄褐(10YR 6/2) 外：にぶい黄橙(10YR 6/3) 断：褐灰(10YR 4/1)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。
16	82	4層直上	弥生 甕	胴部		0.9	良	内：橙(7.5YR 7/6) 外：橙(7.5YR 6/6) 断：褐灰(7.5YR 5/1)	緻密な胎土。1mm大の砂粒を多く含む。
16	83	4層直上	弥生 壺	胴部	—	1.2	良	内：橙(7.5YR 7/6) 外：明褐(7.5YR 5/6) 断：褐灰(7.5YR 4/1)	やや粗な胎土。1mm大の砂粒を多く含む。頸胴部間に二条の凹線を有する。
16	84	4層直上	弥生 壺	胴部	—	1.1	良	内：橙(5YR 6/6) 外：にぶい橙(5YR 6/4) 断：橙(5YR 6/6)	粗な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。石英・長石目立つ。
16	85	4層直上	弥生 壺	胴部	—	0.8	良	内：橙(7.5YR 7/6) 外：橙(5YR 6/6) 断：褐灰(10YR 5/1)	緻密な胎土。1mm大の砂粒をまばらに含む。精選された粘土を使用。胴上部に二条の凹線を有する。
16	86	4層直上	弥生 壺	胴部	—	内面剥落により不明	良	内：不明(剥落に起因) 外：黒(N 2/) 断：にぶい黄橙(10YR 7/4)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。チャート多い。
16	87	4層直上	弥生 壺	胴部	—	0.6	良	内：浅黄橙(10YR 8/4) 外：浅黄橙(10YR 8/4) 断：浅黄橙(10YR 8/4)	緻密な胎土。精選された粘土を使用している。外面に二条の凹線を有する。
16	88	4層直上	弥生 壺	胴部	—	0.8	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/4) 外：浅黄橙(10YR 8/3) 断：灰白(2.5Y 7/1)	緻密な胎土。1mm大の砂粒をわずかに含む。胴上部に二条の凹線を有する。
16	89	4層直上	弥生 壺	胴部	—	0.8	良	内：浅黄橙(10YR 8/4) 外：橙(7.5YR 7/6) 断：灰白(2.5Y 7/1)	やや粗な胎土。1mm大の砂粒を多く含む。チャート目立つ。胴部中央に多条の凹線文を有する。
16	90	4層直上	弥生 壺	底部	9.8	内面剥落により不明	良	内：不明(剥落に起因) 外：橙(5YR 6/6) 断：灰白(2.5Y 7/2)	やや粗な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。底面に、2粒の籾圧痕を有する。
18	91	4層上層	縄文系深 鉢	口縁部	—	0.9	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/3) 外：にぶい黄橙(10YR 7/3) 断：褐灰(10YR 5/1)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。
18	92	4層上層	縄文系深 鉢	口縁部	—	0.5	良	内：橙(5YR 7/6) 外：にぶい橙(5YR 7/4) 断：黒褐(5YR 2/1)	緻密な胎土。1～3mm大の砂粒を多く含む。端部を外反させ、外面に一条刻み目突帯を有する。
18	93	4層上層	縄文系深 鉢	口縁部	—	0.9	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/4) 外：灰黄褐(10YR 6/2) 断：褐灰(10YR 5/1)	やや粗な胎土。1mm大の砂粒を含む。外面に一条刻み目突帯を有する。
18	94	4層上層	縄文系深 鉢	口縁部	—	0.8	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/3) 外：にぶい橙(7.5YR 7/4) 断：褐灰(10YR 4/1)	緻密な胎土。1mm大の砂粒を多く含む。
18	95	4層上層	縄文系深 鉢	口縁部	—	0.7	良	内：灰白(5Y 7/1) 外：灰白(2.5Y 8/2) 断：黄灰(2.5Y 6/1)	外傾接合が見られる。最後のビルディングの単位で口縁及び突帯を作出。突帯に刻みを有する。
18	96	4層上層	縄文系鉢	胴部	—	0.9	良	内：浅黄(2.5Y 7/3) 外：浅黄(2.5Y 7/3) 断：黄灰(2.5Y 4/1)	粗な胎土。2～4mm大の砂粒を含む。外面に赤色顔料が付着している。
18	97	4層上層	縄文系鉢	胴部	—	0.7	良	内：にぶい赤褐(10YR 5/3) 外：黄灰(2.5Y 5/1) 断：暗灰黄(2.5Y 4/2)	内面に二枚貝条痕調整を施す。
18	98	4層上層	縄文系深 鉢	胴部	—	0.7	良	内：にぶい褐(7.5YR 5/4) 外：にぶい黄橙(10YR 6/3) 断：にぶい褐(7.5YR 5/4)	緻密な胎土。1mm大の砂粒を多く含む。内面に二枚貝条痕を有する。
18	99	4層上層	縄文系深 鉢	胴部	—	0.8	良	内：黄灰(2.5Y 5/1) 外：灰黄褐(10YR 5/2) 断：黄灰(2.5Y 4/1)	外面に二枚貝条痕調整を施す。
18	100	4層上層	縄文系浅 鉢	口縁部	20.4	0.7	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/3) 外：にぶい黄橙(10YR 7/3) 断：にぶい黄橙(10YR 7/3)	緻密な胎土。～0.5mm大の砂粒を多く含む。皿型を呈し、胴部に比較的鋭角な屈曲を有し、その上に抉り状の沈線を有する。
18	101	4層上層	縄文系浅 鉢	口縁部	—	0.6	良	内：浅黄(2.5Y 7/3) 外：浅黄(2.5Y 7/3) 断：浅黄(2.5Y 7/3)	緻密な胎土。0.5～1mm大のn砂粒を多く含む。
18	102	4層上層	弥生 甕	口縁部	—	0.7	良	内：灰黄褐(10YR 6/2) 外：黒(10YR 2/1) 断：灰白(10YR 5/2)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒をわずかに含む。外端にキザミを有する。
18	103	4層上層	弥生 甕	口縁部	—	0.9	良	内：橙(7.5YR 7/6) 外：橙(7.5YR 7/6) 断：橙(7.5YR 7/6)	緻密な胎土。0.5mm大の砂粒を含む。外反し、端部にD字状キザミを有する。
18	104	4層上層	弥生 甕	口縁部	—	0.8	良	内：黄灰(2.5Y 5/1) 外：にぶい黄橙(10YR 7/4) 断：黄灰(2.5Y 5/1)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒をわずかに含む。外端にキザミを有する。
18	105	4層上層	弥生 甕	胴部	—	1.0	良	内：灰黄褐(10YR 6/2) 外：にぶい黄橙(10YR 7/2) 断：黄灰(2.5Y 6/1)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。外面に一条刻み目突帯を有する。
18	106	4層上層	弥生 甕	胴部	—	1.0	良	内：灰黄(2.5Y 7/2) 外：灰黄(2.5Y 7/2) 断：灰黄(2.5Y 7/2)	やや粗な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。外面に一条刻み目突帯を有する。

第７表ー出土遺物観察表⑤

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	部位	法量（cm/Max） 径	器厚	焼成	色調	備考
18	107	4層上層	弥生 甕	胴部	—	0.9	良	内：灰黄褐(10Y R 6/2) 外：黒褐(10Y R 3/1) 断：灰黄褐(10Y R 6/2)	やや粗な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。縄文系土器と胎土が類似する。
18	108	4層上層	弥生 甕	胴部	—	0.9	良	内：褐灰(10YR 4/1) 外：にぶい黄橙(10YR 7/3) 断：褐灰(10YR 5/1)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。
18	109	4層上層	弥生 甕	胴部	—	1.5	良	内：灰黄(2.5Y 7/2) 外：にぶい橙(7.5YR 7/4) 断：灰黄(2.5Y 7/2)	緻密な胎土。1～3mm大の砂粒を多く含む。
19	110	4層上層	弥生 甕	胴部	—	0.9	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/3) 外：にぶい黄橙(10YR 7/3) 断：にぶい黄橙(10YR 7/3)	緻密な胎土。2mm大の砂粒をわずかに含み、雲母が目立つ。搬入品の可能性有。
19	111	4層上層	弥生 甕	胴部	—	0.8	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/3) 外：橙(7.5YR 7/6) 断：黄灰(2.5Y 6/1)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を含む。チャート目立つ。
19	112	4層上層	弥生 壺	口縁部	29.6	1.0	良	内：にぶい黄橙(10YR 6/4) 外：にぶい黄橙(10YR 6/4) 断：にぶい黄橙(10YR 6/4)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。口頸部に段を有する。
19	113	4層上層	弥生 壺	頸部	—	0.7	良	内：にぶい橙(7.5YR 7/4) 外：にぶい黄橙(10YR 7/3) 断：にぶい黄橙(10YR 7/3)	緻密な胎土。1mm大の砂粒を多く含む。
19	114	4層上層	弥生 壺	胴部	—	0.9	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/3) 外：黄灰(2.5Y 6/1) 断：にぶい黄橙(10YR 7/3)	緻密な胎土。0.5～2mm大の砂粒を含む。外面に五条の凹線を有するが、ミガキ調整により不鮮明である。
19	115	4層上層	弥生 壺	胴部	—	0.7	良	内：浅黄(2.5Y 7/3) 外：橙(5YR 6/6) 断：浅黄(2.5Y 7/3)	やや粗な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。外面に多重凹線で紡錘状モチーフを描く。
19	116	4層上層	弥生 壺	胴部	43.2	1.9	良	内：灰黄(2.5Y 7/2) 外：にぶい黄橙(10Y R 7/3) 断：黄灰(2.5Y 5/1)	緻密な胎土。1～2mm大の砂粒を多く含む。極めて大きな遠賀川式壺の底部付近である。

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	法量（Max） 全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	重量(g)	石材	備考
19	117	4層上層	石 鏃	1.3	1.2	0.2	0.3	サヌカイト	金山産と考えられる。
19	118	4層上層	石 鏃	0.8	1.2	0.1	0.16	サヌカイト	金山産と考えられる。
19	119	4層上層	石 鏃	0.9	1.7	0.3	0.48	サヌカイト	金山産と考えられる。
19	120	4層上層	石 鏃	1.6	1.4	0.4	0.76	サヌカイト	金山産と考えられる。

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	部位	法量（cm/Max） 径	器厚	焼成	色調	備考
21	121	4層中	縄文系深鉢	口縁部	—	1.0	良	内：にぶい橙(7.5YR 7/4) 外：にぶい橙(7.5YR 7/4) 断：にぶい黄褐(10YR 5/4)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。外面に一条刻み目突帯を有する。口縁端部にキザミを有する。
21	122	4層中	縄文系深鉢	口縁部	—	0.8	良	内：黄灰(2.5Y 7/2) 外：灰黄(2.5Y 7/2) 断：灰(5Y 5/1)	緻密な胎土。1mm大の砂粒を多く含む。外面に不鮮明なキザミを有する刻み目突帯を有する。
21	123	4層中	縄文系深鉢	胴部	—	内面剥落により不明	良	内：黄灰(2.5Y 4/1) 外：にぶい黄橙(10YR 7/4) 断：不明(剥落により不明)	1～2mm大の砂粒を多く含む。外面に一条刻み目突帯を有する。
21	124	4層中	縄文系深鉢	胴部	—	0.7	良	内：赤褐(5YR 4/6) 外：にぶい赤褐(5YR 4/4) 断：にぶい赤褐(5YR 4/4)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。外面に一条刻み目突帯を有する。
21	125	4層中	縄文系深鉢	胴部	—	0.9	良	内：にぶい黄褐(10YR 5/3) 外：にぶい黄橙(10YR 7/4) 断：灰黄褐(10YR 4/2)	やや粗な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。
21	126	4層中	縄文系深鉢	胴部	—	0.8	良	内：浅黄(2.5Y 7/3) 外：灰黄(2.5Y 6/2) 断：灰(N 4/)	突帯文土器胴部の可能性が考えられる。
21	127	4層中	縄文系深鉢	胴部	—	0.6	良	内：にぶい黄橙(10YR 6/4) 外：にぶい褐(7.5YR 5/3) 断：橙(7.5YR 6/6)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。内外に二枚貝条痕調整を施す。
21	128	4層中	弥生 甕	口縁部	—	—	良	内：不明(剥落により不明) 外：オリーブ黒(5Y 3/1) 断：淡黄(2.5Y 8/3)	緻密な胎土。1mm大の砂粒をわずかに含む。外面にキザミを有する。
21	129	4層中	弥生 甕	口縁部	—	0.6	良	内：橙(7.5YR 7/6) 外：橙(7.5YR 7/6) 断：橙(7.5YR 7/6)	緻密な胎土。1mm大の砂粒を少量含む。外面にキザミを有する。
21	130	4層中	弥生 甕	口縁部	—	0.8	良	内：にぶい黄橙(10YR 6/4) 外：にぶい黄橙(10YR 6/4) 断：にぶい黄橙(10YR 6/4)	緻密な胎土。1mm大の砂粒をわずかに含む。外反し、外端にキザミを有する。
21	131	4層中	弥生 甕	口縁部	—	0.9	良	内：淡黄(2.5Y 8/3) 外：淡黄(2.5Y 8/3) 断：黄灰(2.5Y 6/1)	緻密な胎土。1～2mm大の砂粒を多く含む。外反し、外端にキザミを有する。端部に面取りが顕著である。

第8表ー出土遺物観察表⑥

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	部位	法量（cm/Max）		焼成	色調	備考
					径	器厚			
21	132	4層中	弥生 甕	口縁部	—	0.8	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/2) 外：にぶい黄橙(10YR 7/2) 断：灰(5Y 4/1)	緻密な胎土。1㎜大の砂粒をわずかに含む。外反し、外端にキザミを有する。
21	133	4層中	弥生 甕	胴部	—	0.7	良	内：灰黄褐(10YR 7/2) 外：黄橙(10YR 8/6) 断：黄灰(2.5Y 5/1)	緻密な胎土。1㎜大の砂粒を含む。
21	134	4層中	弥生 甕	胴部	—	0.7	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/4) 外：灰黄褐(10YR 5/2) 断：にぶい黄橙(10YR 6/3)	緻密な胎土。0.5～2㎜大の砂粒を含む。外面のハケ目が顕著である。
21	135	4層中	弥生 壺	胴部	—	1.2	良	内：黄灰(2.5Y 5/1) 外：にぶい黄橙(10YR 6/3) 断：黒褐(10YR 3/1)	緻密な胎土。0.5～3㎜大の砂粒を含む。
21	136	4層中	弥生 壺	胴部	—	0.8	良	内：浅黄(2.5Y 7/3) 外：浅黄(2.5Y 7/3) 断：黄灰(2.5Y 4/1)	緻密な胎土。0.5～3㎜大の砂粒をわずかに含む。
21	137	4層中	弥生 壺	胴部	—	0.7	良	内：浅黄橙(10YR 8/3) 外：浅黄橙(10YR 8/4) 断：褐灰(10YR 6/1)	緻密な胎土。0.5～1㎜大の砂粒をわずかに含む。外面に凹線文を有する。

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	法量（Max）				石材	備考
				全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	重量(g)		
21	138	4層中	石 鏃	2.2	1.3	0.2	0.5	サヌカイト	金山産サヌカイトと考えられる。
21	139	4層中	石 鏃	1.0	1.1	0.2	0.2	サヌカイト	金山産サヌカイトと考えられる。

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	部位	法量（cm/Max）		焼成	色調	備考
					径	器厚			
22	140	4層下層	縄文系深鉢	胴部	—	0.7	良	内：灰黄褐(10YR 5/2) 外：浅黄(2.5Y 7/3) 断：灰(5Y 4/1)	やや粗な胎土。1㎜大の砂粒を含む。内外に二枚貝条痕調整を施す。

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	部位	法量（cm/Max）		焼成	色調	備考
					径	器厚			
22	141	4層下層	縄文系鉢	胴部	—	0.7	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/4) 外：灰黄褐(10YR 5/2) 断：にぶい黄橙(10YR 7/4)	やや粗な胎土。0.5～1㎜大の砂粒を多く含む。浅鉢の可能性も考えられる。
22	142	4層下層	弥生 甕	口縁部	—	0.8	良	内：橙(7.5YR 7/6) 外：橙(7.5YR 7/6) 断：橙(7.5YR 7/6)	緻密な胎土。0.5～1㎜大の砂粒を多く含む。チャート目立つ。外反し、外端にキザミを有する。
22	143	4層下層	弥生 壺	口縁部	—	1.1	良	内：にぶい橙(7.5YR 6/4) 外：にぶい橙(7.5YR 6/4) 断：橙(7.5YR 7/6)	緻密な胎土。0.5～1㎜大の砂粒を含むが、わずかである。チャート目立つ。
22	144	4層下層	弥生 壺	胴部	—	内面剥落により不明	良	内：不明(剥落に起因) 外：にぶい黄橙(10YR 7/3) 断：にぶい黄橙(10YR 7/3)	粗な胎土。0.5㎜大の砂粒を多く含み、チャートが目立つ。外面に赤色顔料が残る。
22	145	4層下層	弥生 甕	口縁部	—	0.8	良	内：にぶい橙(7.5YR 7/4) 外：にぶい橙(7.5YR 7/4) 断：にぶい橙(7.5YR 7/4)	緻密な胎土。0.5～1㎜大の砂粒をまばらに含む。外反し、外端にキザミを有する。
22	146	TR出土	弥生 壺	胴部	—	1.0	良	内：灰黄褐(10YR 6/2) 外：黒褐(10YR 3/1) 断：褐灰(10YR 5/1)	緻密な胎土。1㎜大の砂粒を比較的多く含む。
22	147	表面採集	縄文系深鉢	胴部	—	0.6	良	内：灰黄褐(10YR 5/2) 外：明褐(7.5YR 5/6) 断：灰黄褐(10Y R 6/2)	緻密な胎土。～0.5㎜大の砂粒を多く含む。外面に一条刻み目突帯を有する。
22	148	表面採集	弥生 甕	口縁部	—	0.6	良	内：橙(7.5YR 7/6) 外：橙(7.5YR 7/6) 断：橙(7.5YR 7/6)	緻密な胎土。1㎜大の砂粒を多く含む。外反し、端部にキザミを有する。
22	149	表面採集	弥生 甕	口縁部	—	0.9	良	内：にぶい橙(7.5YR 7/4) 外：にぶい橙(7.5YR 7/4) 断：にぶい橙(7.5YR 7/4)	緻密な胎土。0.5～1㎜大の砂粒を多く含む。外反し、端部にキザミを有する。
22	150	表面採集	弥生 甕	口縁部	—	0.8	良	内：橙(7.5YR 7/6) 外：橙(7.5YR 7/6) 断：橙(7.5YR 7/6)	緻密な胎土。0.5～1㎜大の砂粒を多く含む。外反し、外端にキザミを有する。
22	151	表面採集	弥生 甕	口縁部	—	0.8	良	内：橙(7.5YR 7/6) 外：橙(7.5YR 7/6) 断：橙(7.5YR 7/6)	緻密な胎土。0.5～1㎜大の砂粒を含む。比較的強く外反し、外端にキザミを有する。
22	152	表面採集	弥生 甕	口縁部	—	0.8	良	内：にぶい橙(10YR 7/3) 外：にぶい橙(10YR 7/3) 断：にぶい橙(10YR 7/3)	緻密な胎土。0.5～1㎜大の砂粒を多く含む。外反し、外端にキザミを有する。
22	153	表面採集	弥生 甕	底部	9.2	2.0	良	内：橙(5YR 6/6) 外：橙(7.5YR 6/6) 断：明ｊ褐(7.5Y R 5/6)	緻密な胎土。1㎜大の砂粒を多く含む。外面のハケ目が顕著である。
22	154	表面採集	弥生 甕	頸部	14.8	0.7	良	内：黄橙(10YR 8/6) 外：にぶい黄褐(10YR 5/3) 断：にぶい黄褐(10YR 5/3)	粗な胎土。1㎜大の砂粒を多く含む。外面に凹線文を有する。
22	155	表面採集	弥生 壺	頸部	—	0.7	良	内：にぶい黄橙(10YR 6/3) 外：にぶい黄橙(10YR 6/3) 断：にぶい黄橙(10YR 6/3)	緻密な胎土。1㎜大の砂粒をまばらに含む。

第９表ー出土遺物観察表⑦

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	部位	法量（cm/Max）		焼成	色調	備考
					径	器厚			
22	156	表面採集	土師皿	底部	—	0.4	良	内：浅黄橙(7.5YR 8/3) 外：浅黄橙(7.5YR 8/3) 断：浅黄橙(7.5YR 8/3)	緻密な胎土。底部に糸切り痕を有する。中世遺物。
22	157	表面採集	陶器　甕？	口縁部	—	1.0	良	内：にぶい赤褐(5YR 4/3) 外：にぶい赤褐(5YR 4/3) 断：灰白(2.5Y 7/1)	中近世遺物。
24	158	試掘出土	弥生　甕	口縁部	18.4	0.7	良	内：にぶい橙(7.5YR 6/4) 外：にぶい橙(7.5YR 6/4) 断：にぶい橙(7.5YR 6/4)	緻密な胎土。0.5～3mm大の砂粒を有する。外反し、外端にキザミを有する。
24	159	試掘出土	弥生　甕	口縁～胴部	17.4	0.7	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/4) 外：にぶい黄橙(10YR 7/4) 断：褐灰(10YR 4/1)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を比較的多く含む。口縁を厚く作出している。中期初頭。
24	160	試掘出土	弥生　甕	胴部	—	0.8	良	内：にぶい黄橙(10YR 6/4) 外：灰白(10YR 7/1) 断：褐灰(10YR 4/1)	緻密な胎土。1～3mm大の砂粒を多く含む。
24	161	試掘出土	縄文系深鉢	胴部	—	1.0	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/4) 外：にぶい黄橙(10YR 7/4) 断：褐灰(10YR 5/1)	緻密な胎土。1～3mm大の砂粒を多く含む。内外に二枚貝条痕を有する。

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	法量（Max）				石材	備考
				全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	重量(g)		
24	162	試掘出土	石　錘	5.4	3.0	1.1	13.8	不明	時期不詳

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	部位	法量（cm/Max）		焼成	色調	備考
					径	器厚			
29	163	SK20	弥生　甕	底部	9.2	2.5	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/4) 外：浅黄橙(7.5YR 8/4) 断：にぶい黄橙(10YR 7/3)	粗な胎土。1～2mm大の砂粒を多く含む。

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	法量（Max）				石材	備考
				全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	重量(g)		
29	164	SK20	碁石状石器	4.0	3.7	1.2	29.0	砂岩	遺跡付近及び包含層には含まれない特徴を有する。搬入品の可能性が考えられる。

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	部位	法量（cm/Max）		焼成	色調	備考
					径	器厚			
32	165	SK10	縄文系深鉢	胴部	—	1.0	良	内：にぶい橙(7.5YR 6/4) 外：灰褐(7.5YR 5/2) 断：褐灰(10YR 5/1)	緻密な胎土。～0.5mm大の砂粒をわずかに含む。突帯文土器の胎土と類似する。
32	166	SK10	縄文系深鉢	胴部	—	0.8	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/4) 外：褐灰(10YR 5/1) 断：褐灰(10YR 5/1)	緻密な胎土。1mm大の砂粒を若干含む。突帯文土器の胎土と類似する。壺型を呈すると考えられる。

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	部位	法量（cm/Max）		焼成	色調	備考
					径	器厚			
33	167	SK10	弥生　甕	口縁部	—	0.7	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/4) 外：にぶい黄橙(10YR 7/4) 断：灰(7.5Y 5/1)	緻密な胎土。1mm大の砂粒をわずかに含む。
33	168	SK10	弥生　甕	口縁部	—	0.7	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/4) 外：にぶい黄橙(10YR 7/4) 断：にぶい黄橙(10YR 6/3)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒をわずかに含む。外反する口縁で、浅いキザミを有する。
33	169	SK10	弥生　甕	口縁部	—	0.7	良	内：浅黄(2.5Y 7/3) 外：浅黄(2.5Y 7/3) 断：浅黄(2.5Y 7/3)	緻密な胎土。～0.5mm大の砂粒を比較的多く含む。外反する口縁で、浅いキザミを有する。
33	170	SK10	弥生　甕	口縁部	25.6	0.9	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/4) 外：にぶい黄橙(10YR 7/4) 断：にぶい黄橙(10YR 7/4)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を含む。外反する口縁で、外端にキザミを有する。頚胴部間に凹線を有する。
33	171	SK10	弥生　甕	口縁部	—	0.7	良	内：浅黄(2.5Y 7/3) 外：黄灰(2.5Y 5/1) 断：浅黄(2.5Y 7/3)	やや粗。1～2mm大の砂粒を多く含む。外反する口縁で、外端に浅く不鮮明なキザミを有する。
33	172	SK10	弥生　甕	胴部	—	1.5	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/4) 外：橙(5YR 6/6) 断：にぶい黄橙(10YR 7/4)	やや粗。1mm大の砂粒を多く含む。
33	173	SK10	弥生　甕	底部	9.0	2.3	良	内：にぶい黄橙(10YR 6/4) 外：にぶい橙(7.5YR 6/6) 断：黄灰(2.5Y 4/1)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。
33	174	SK10	弥生　壺	口縁部	17.4	0.8	良	内：橙(7.5YR 6/6) 外：橙(7.5YR 6/6) 断：浅黄橙(10YR 8/3)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含み。チャートが目立つ。口頸間に段を有する。
33	175	SK10	弥生　壺	口縁部	—	0.8	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/4) 外：にぶい黄橙(10YR 7/4) 断：褐灰(10YR 5/1)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を含む。
33	176	SK10	弥生　壺	胴部	38.2	0.8	良	内：浅黄橙(10YR 8/4) 外：浅黄橙(10YR 8/4) 断：浅黄橙(10YR 8/4)	上胴部に凹線を有する。
33	177	SK10	弥生　壺	胴部	—	0.8	良	内：橙(5YR 6/6) 外：橙(5YR 6/6) 断：にぶい黄橙(10YR 7/4)	キザミを有する隆帯を作出し、上下を凹線で区画している。隆帯下には斜行凹線文を有する。

第10表ー出土遺物観察表⑧

挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	部位	法量（cm/Max）		焼成	色調	備考
					径	器厚			
33	178	SK10	弥生　壺	底部	9.1	2.3	良	内：にぶい黄橙(10YR 7/4) 外：にぶい橙(7.5YR 7/4) 断：にぶい黄橙(10YR 7/2)	粘土接合部で剥離しており、顕著な指頭圧痕が見られる。
33	179	SK10	弥生　壺	底部	7.5	1.6	良	内：にぶい黄橙(10YR 6/4) 外：にぶい黄橙(10YR 6/3) 断：明赤褐(10YR 6/6)	緻密な胎土。0.5～1mm大の砂粒を多く含む。
33	180	SK10	弥生　壺	底部	8.1	2.4	良	内：にぶい橙(7.5YR 6/4) 外：にぶい黄橙(10YR 7/3) 断：明赤褐(10YR 6/6)	やや粗。1～2mm大の砂粒を多く含む。

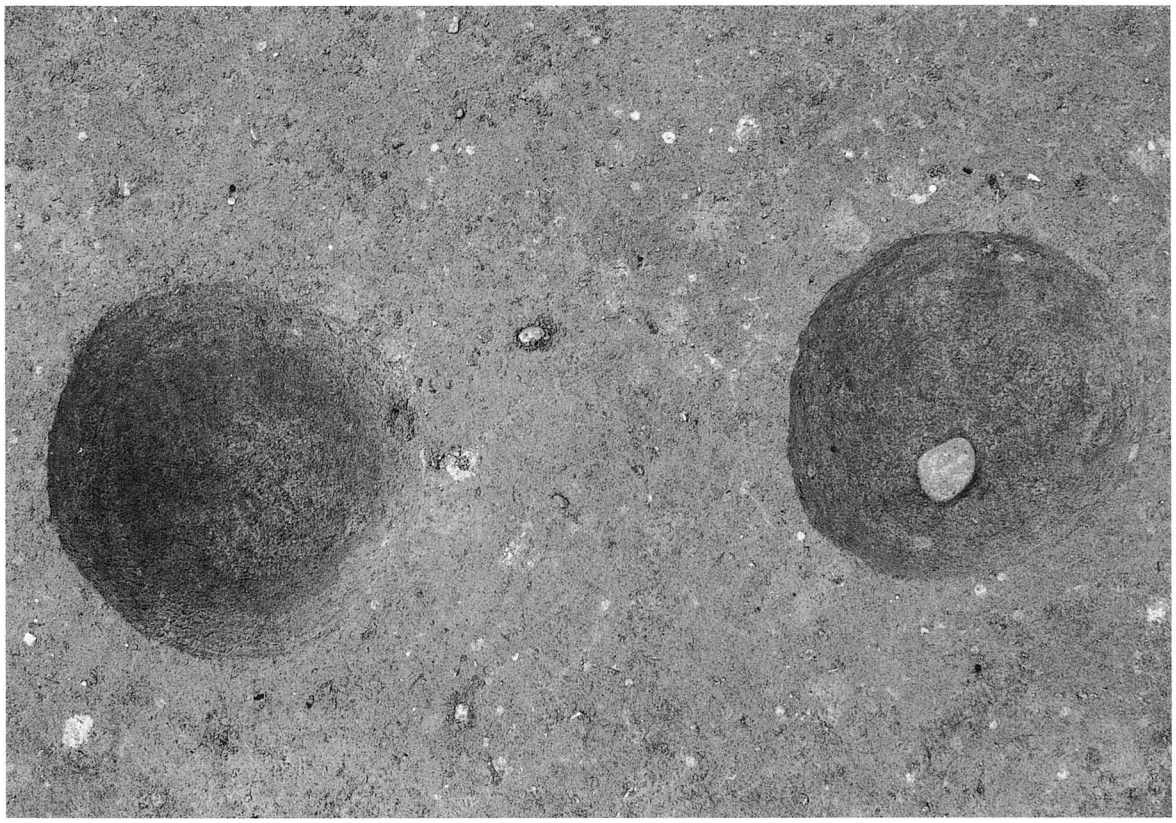
挿図番号	報告番号	出土経緯	器種	法量（Max）				石材	備考
				全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	重量(g)		
33	181	SK10	石鏃	2.0	1.4	0.3	0.6	サヌカイト	風化が著しい。混入と考えられる。

写真図版

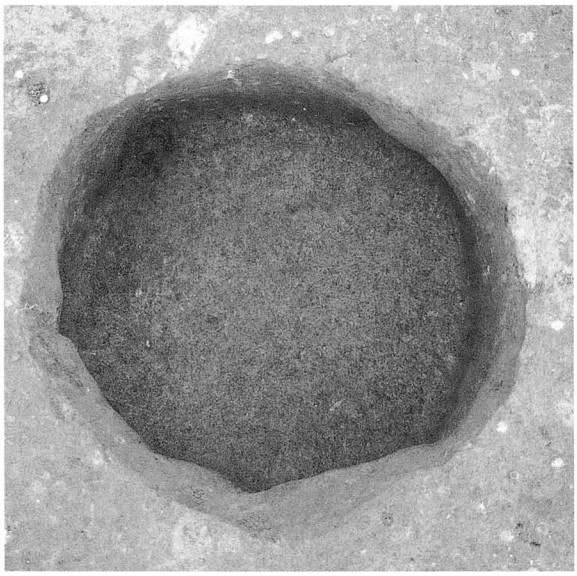
図版１－１　仁井田遺跡　調査区北壁土層

図版１－２　仁井田遺跡第４層上面検出状況

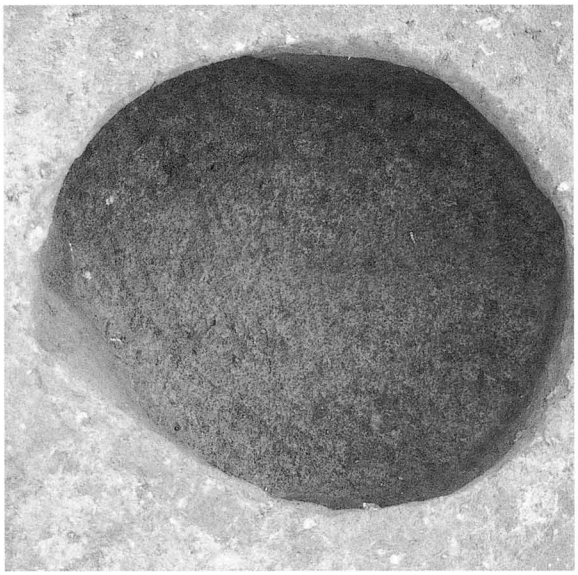
図版 2



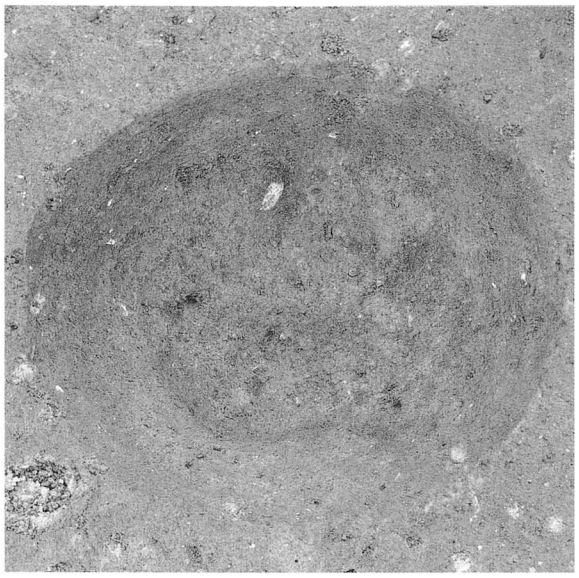
図版２－１　仁井田遺跡Pit１・２完掘状況



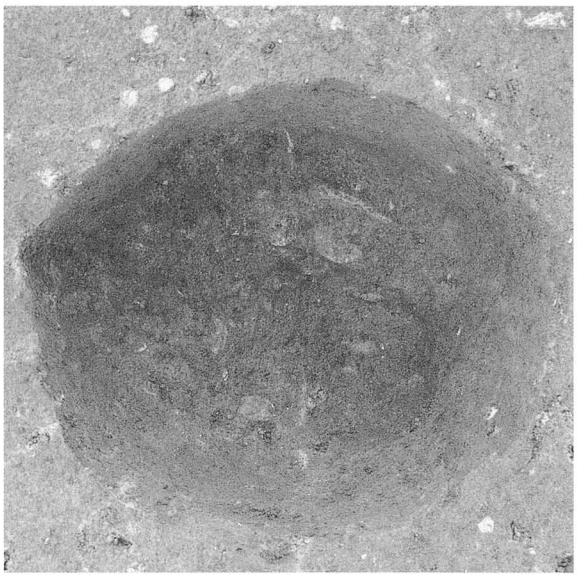
図版２－２　仁井田遺跡SK３完掘状況



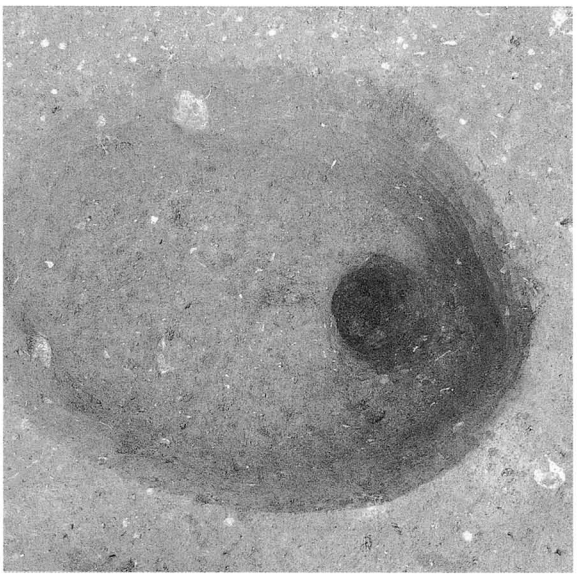
図版２－３　仁井田遺跡SK４完掘状況



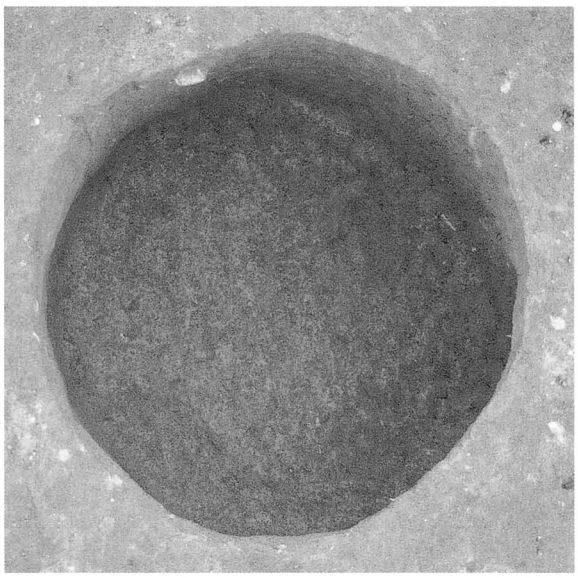
図版 3 － 1　仁井田遺跡Pit 7 完掘状況



図版 3 － 2　仁井田遺跡Pit 8 完掘状況



図版 3 － 3　仁井田遺跡SK11完掘状況

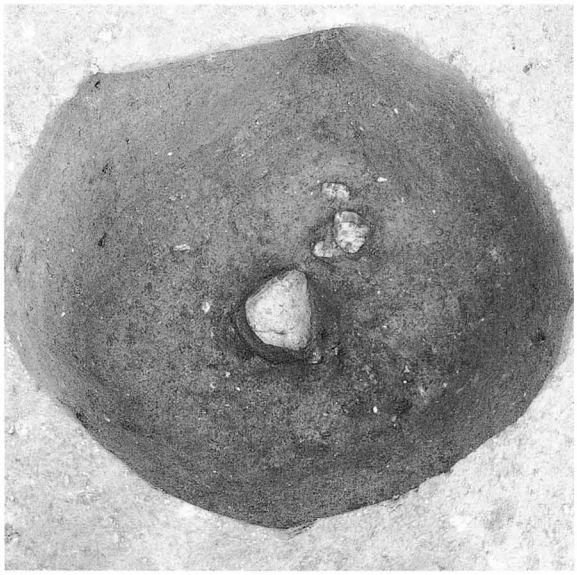


図版 3 － 4　仁井田遺跡SK12完掘状況

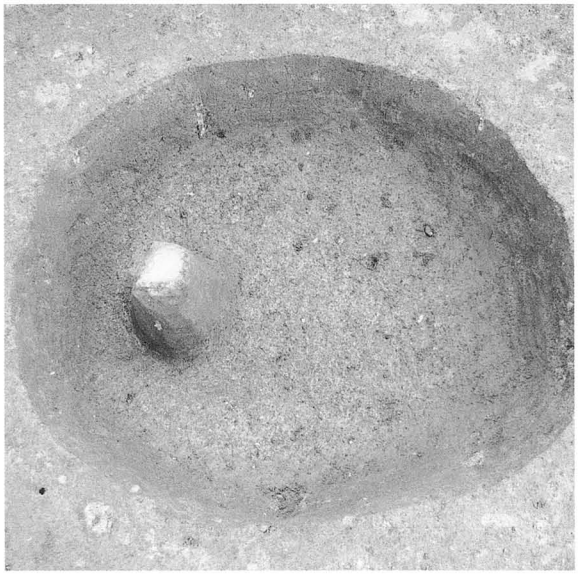
図版４

図版４－１　仁井田遺跡SK13完掘状況

図版４－２　仁井田遺跡SK15半截状況



図版４－３　仁井田遺跡SK16完掘状況

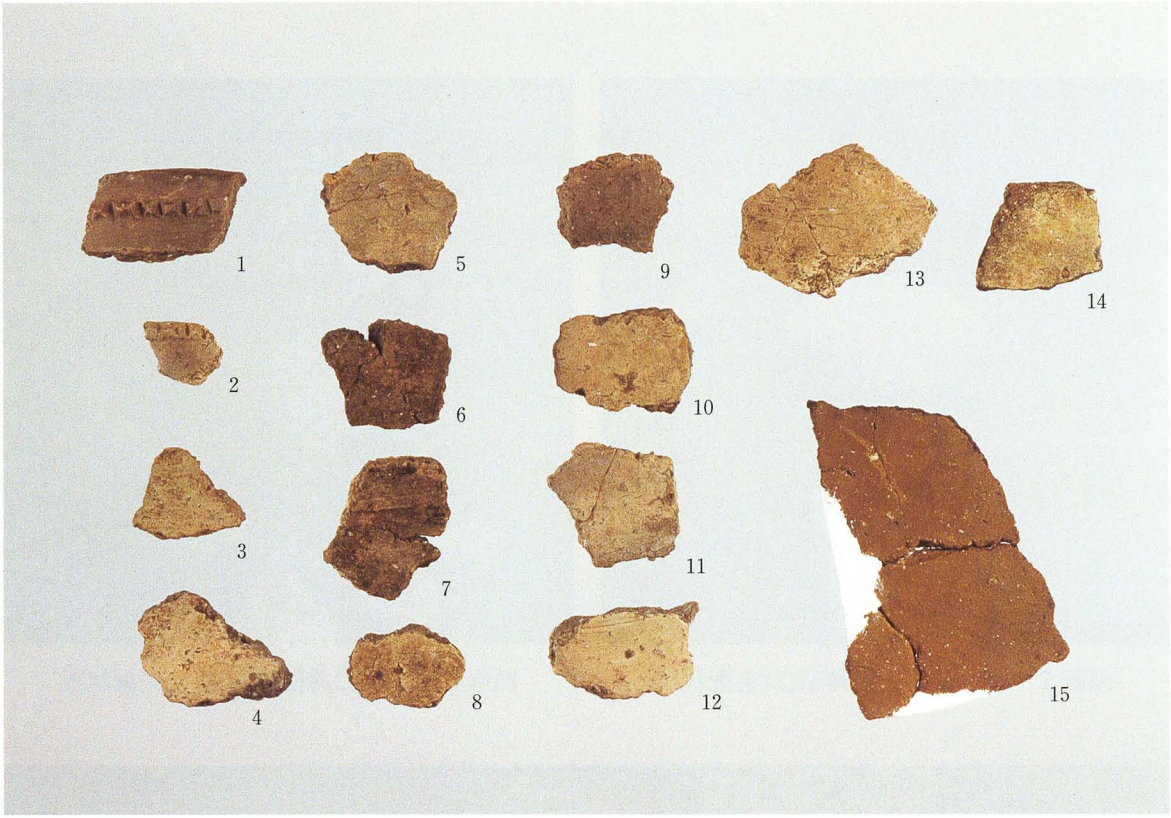


図版４－４　仁井田遺跡SK20完掘状況

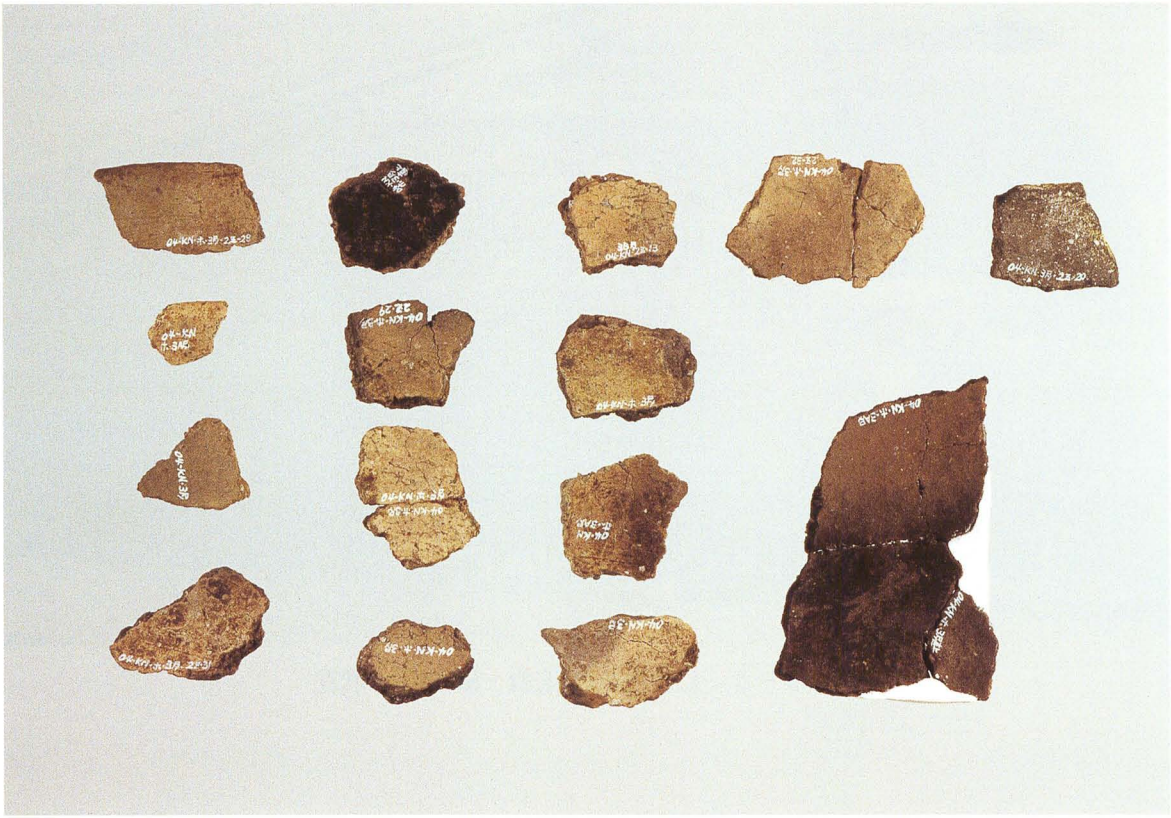
図版５－１　仁井田遺跡SK21完掘状況

図版５－２　仁井田遺跡SK10完掘状況

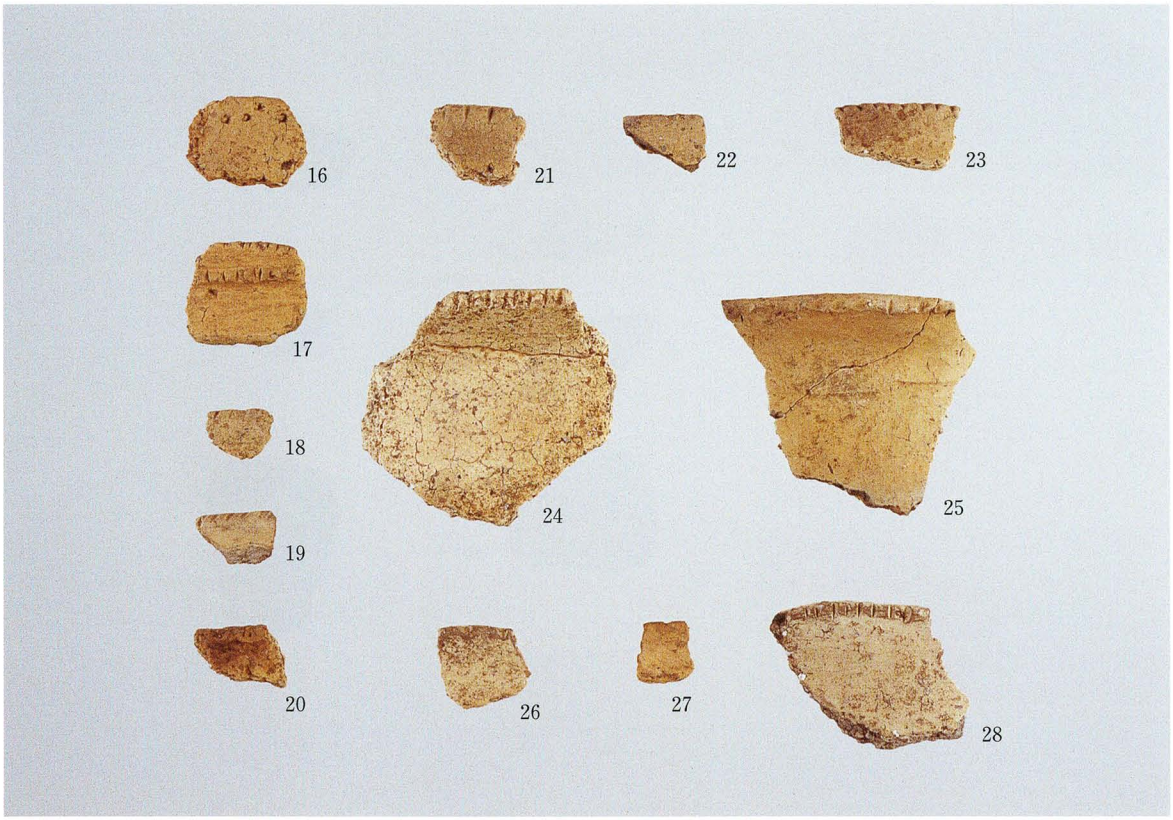
図版５－３　仁井田遺跡SK21・SK10検出状況



図版 6　仁井田遺跡第 3 層出土遺物（報告No.1～15）　表

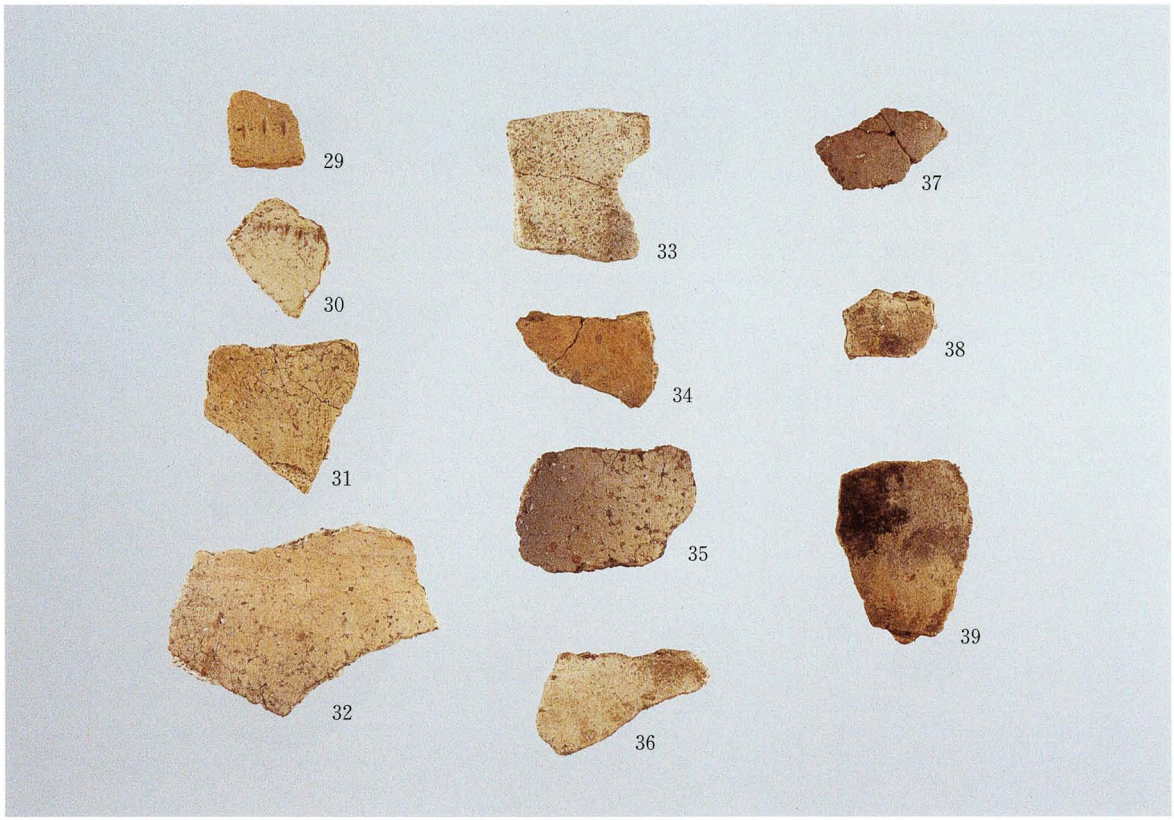


図版 6　仁井田遺跡第 3 層出土遺物（報告No.1～15）　裏



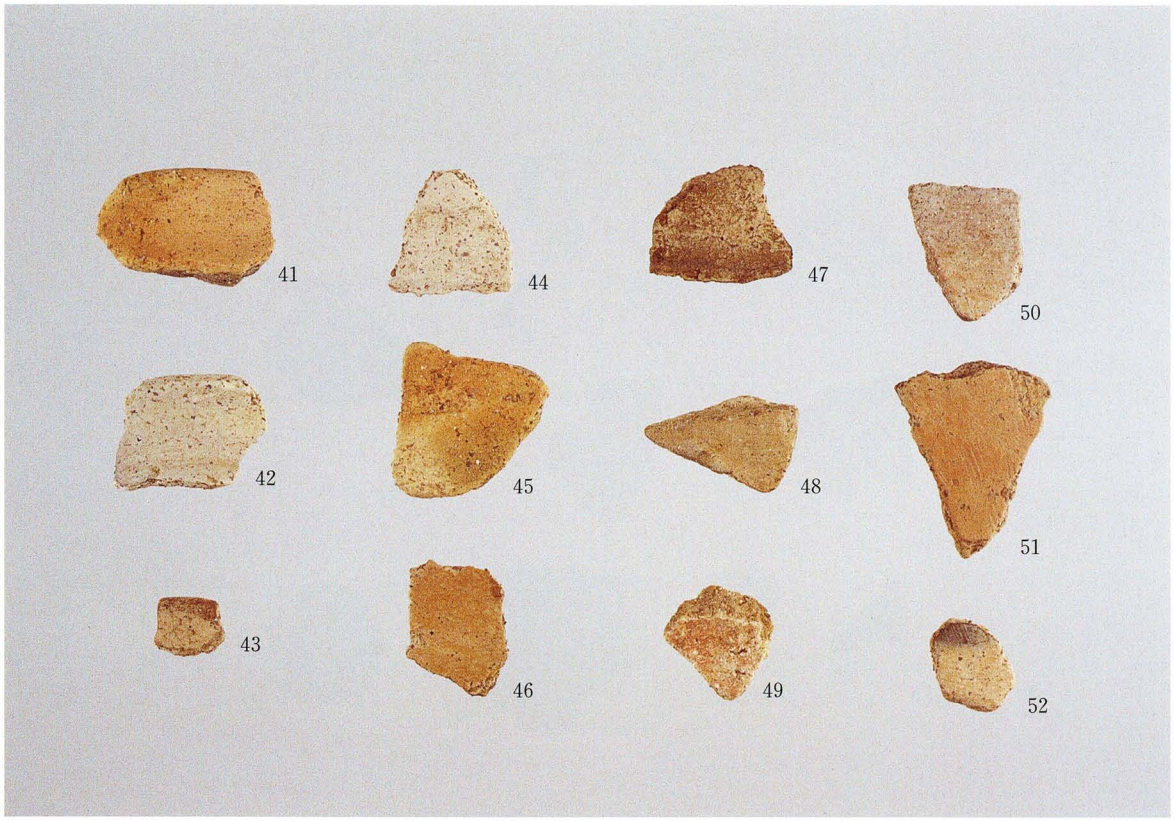
図版 7　仁井田遺跡第 3 層出土遺物（報告No.16～28）　表

図版 7　仁井田遺跡第 3 層出土遺物（報告No.16～28）　裏



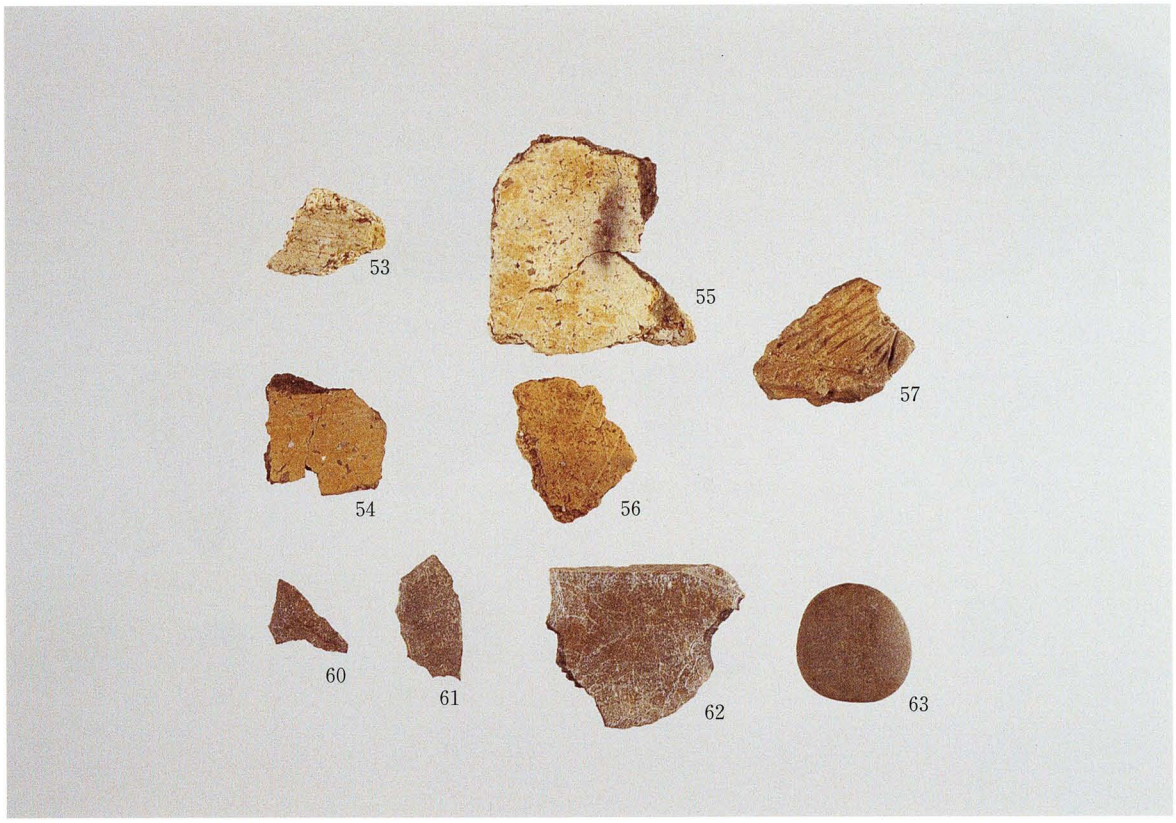
図版 8　仁井田遺跡第 3 層出土遺物（報告No.29～39）　表

図版 8　仁井田遺跡第 3 層出土遺物（報告No.29～39）　裏

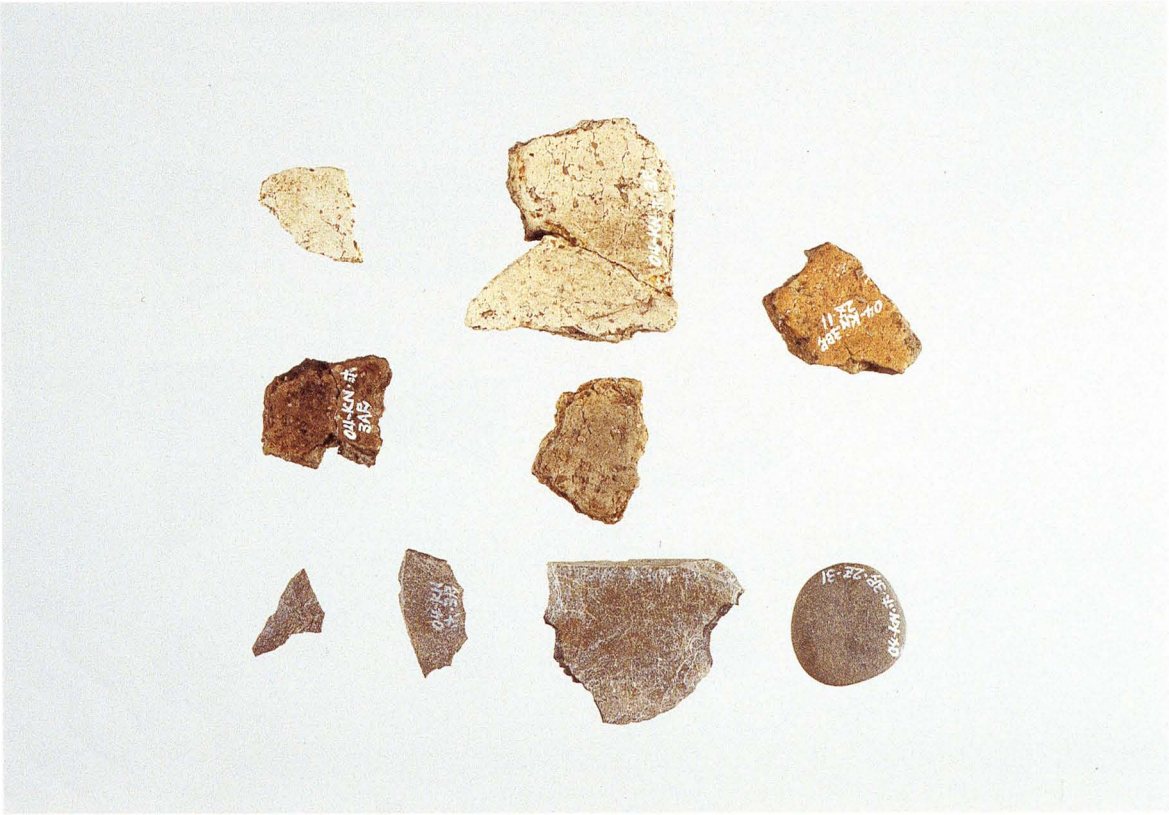


図版9　仁井田遺跡第3層出土遺物(報告No.41～52)　表

図版9　仁井田遺跡第3層出土遺物(報告No.41～52)　裏



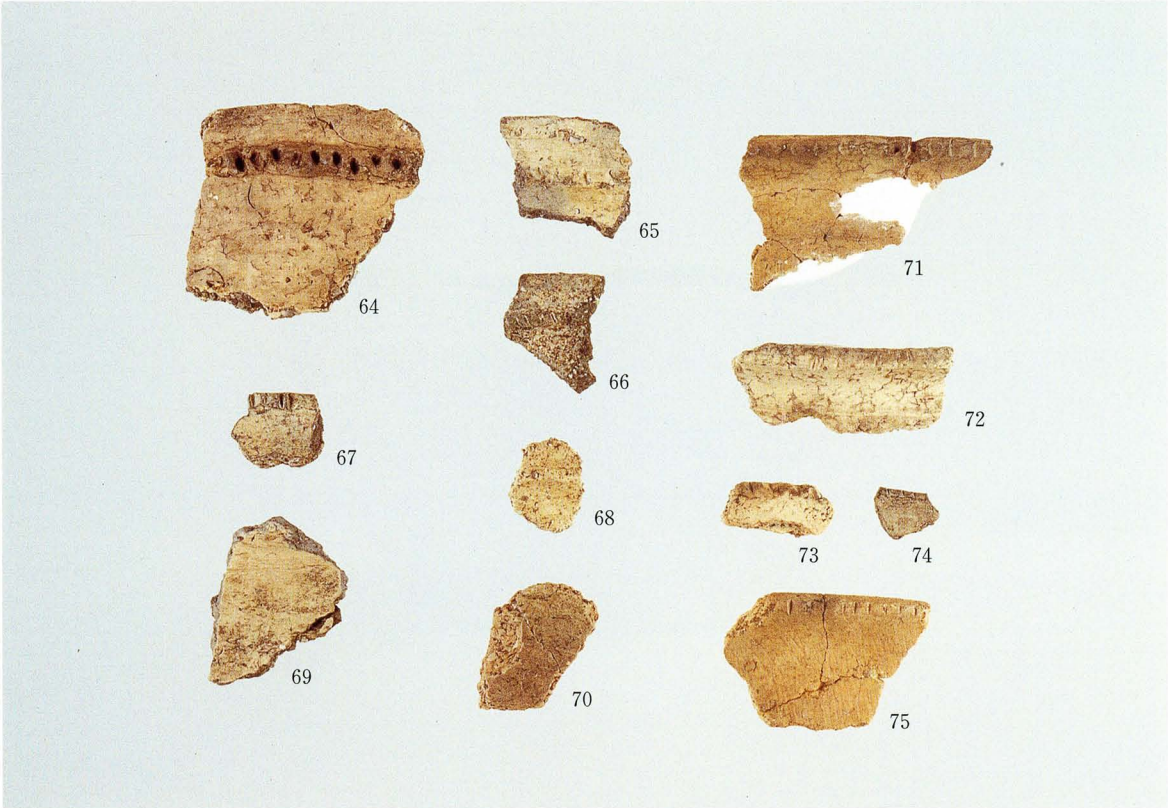
図版10　仁井田遺跡第３層出土遺物（報告№53～57、60～63）　表



図版10　仁井田遺跡第３層出土遺物（報告№53～57、60～63）　裏

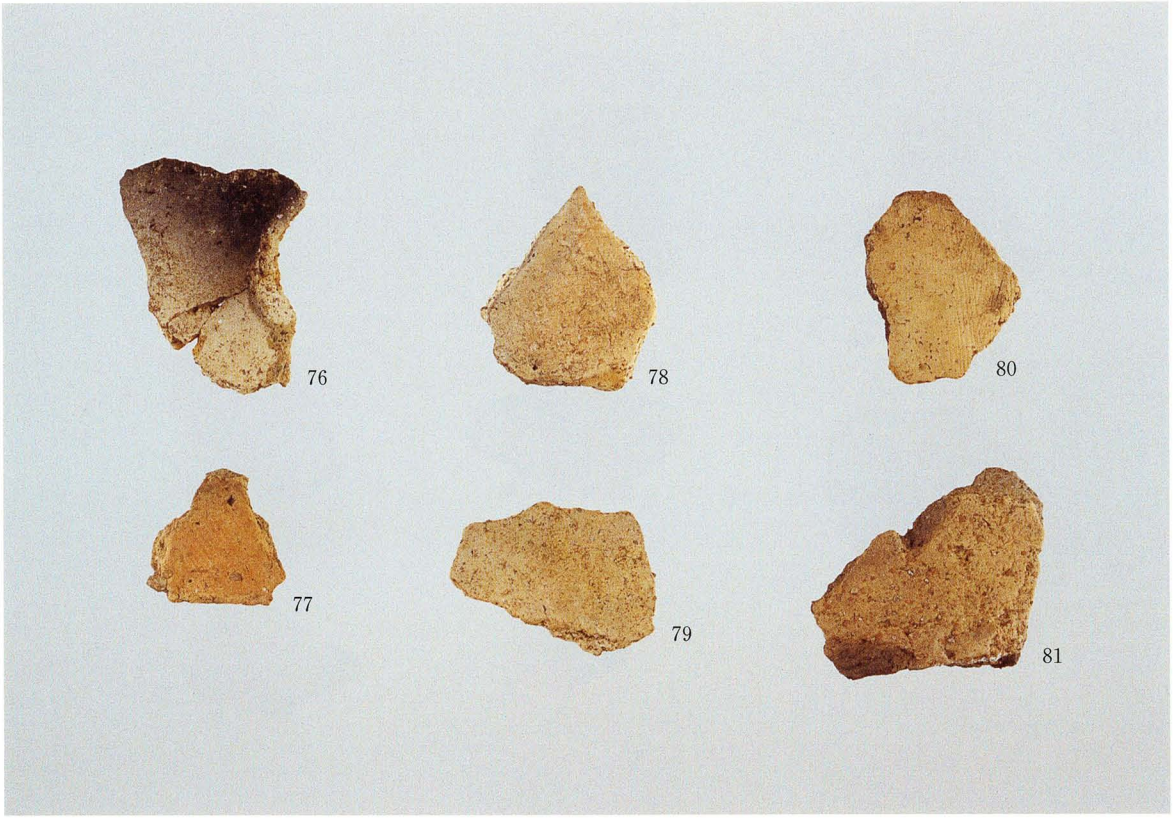
図版11－１　仁井田遺跡第３層出土遺物(40)

図版11－２　仁井田遺跡第３層出土遺物(58・59)　裏

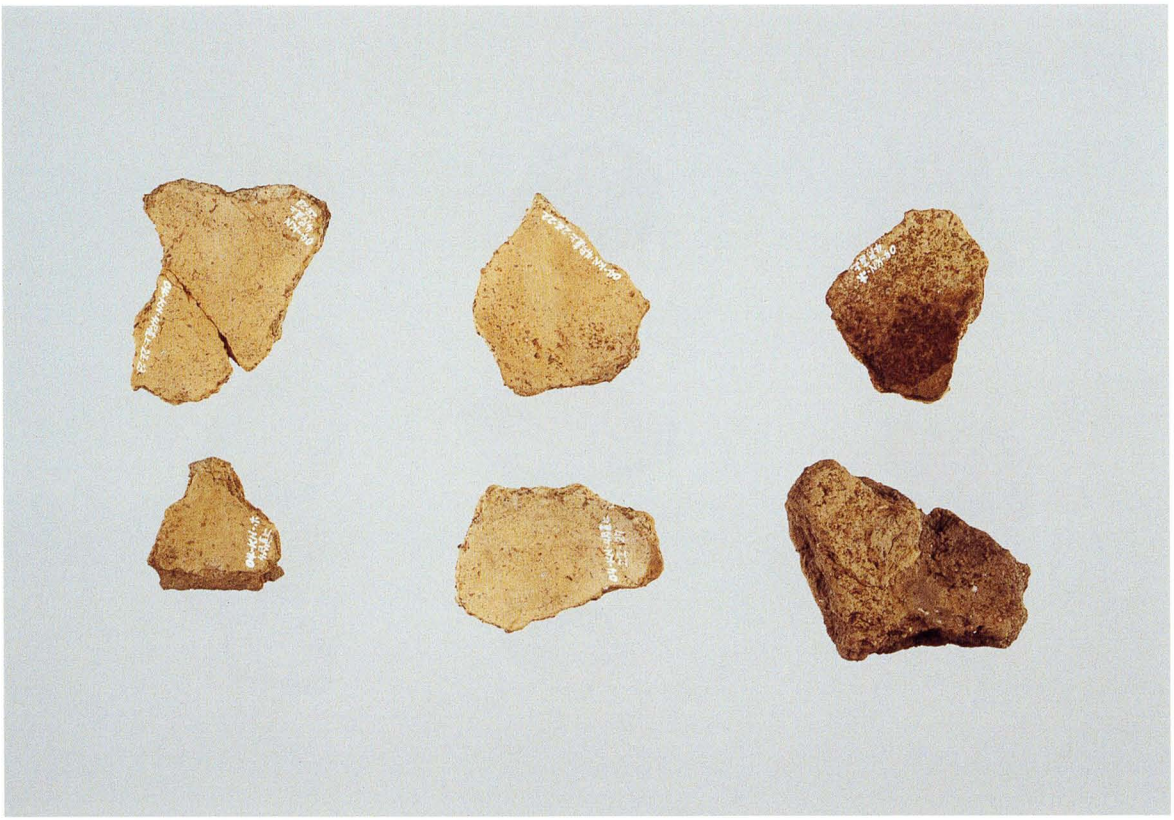


図版12　仁井田遺跡第４層直上出土遺物（報告No.64～75）　表

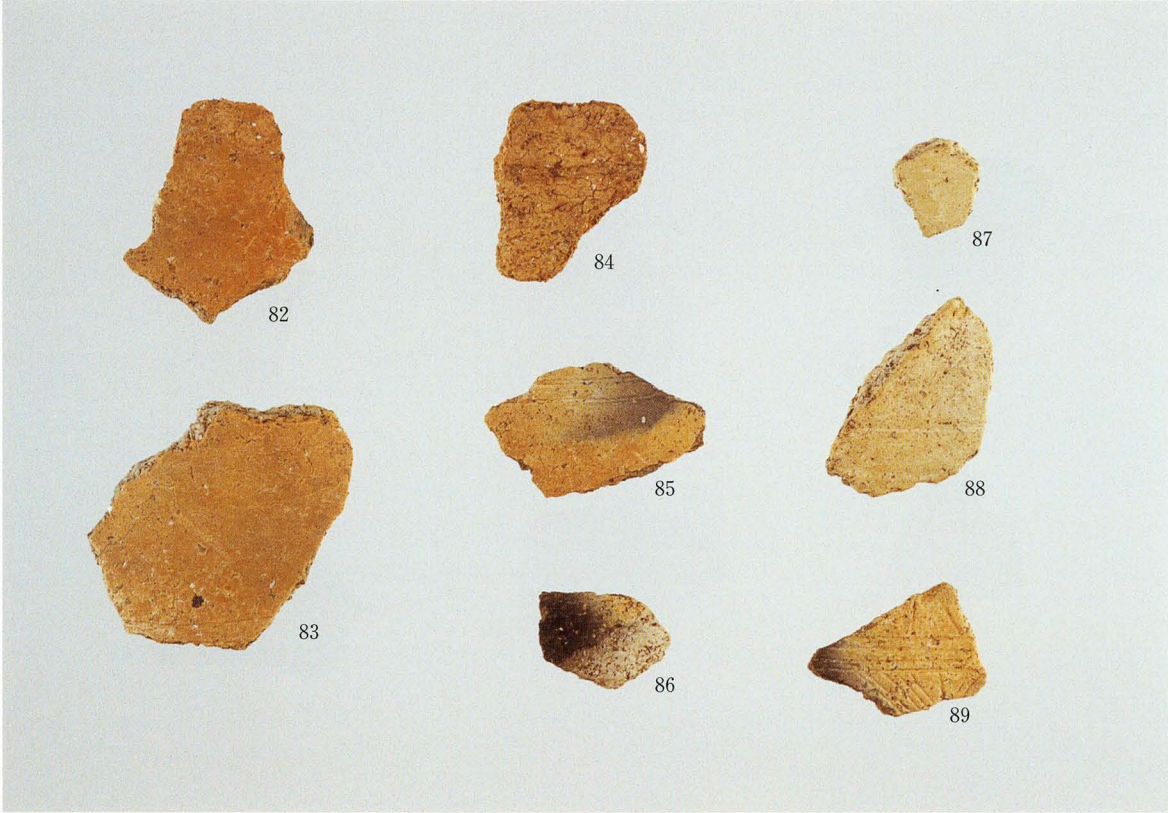
図版12　仁井田遺跡第４層直上出土遺物（報告No.64～75）　裏



図版13　仁井田遺跡第４層直上出土遺物（報告№76～81）　表

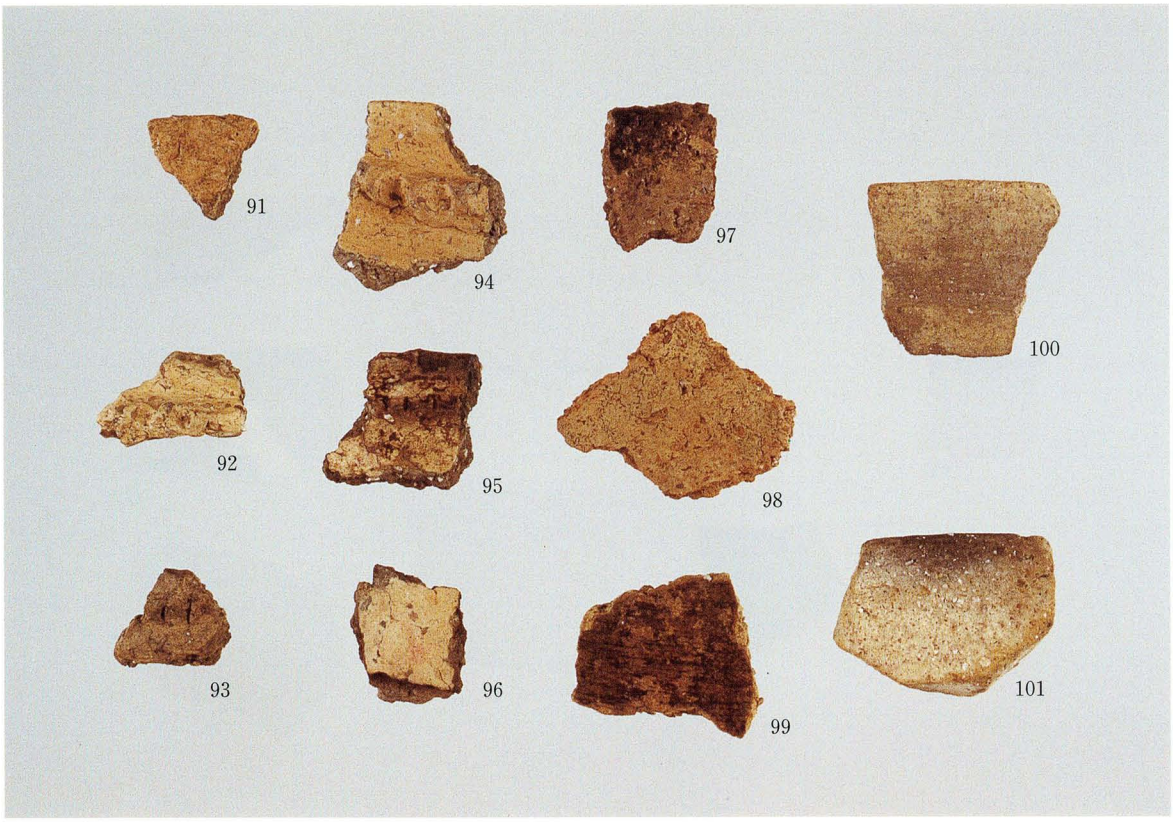


図版13　仁井田遺跡第４層直上出土遺物（報告№76～81）　裏



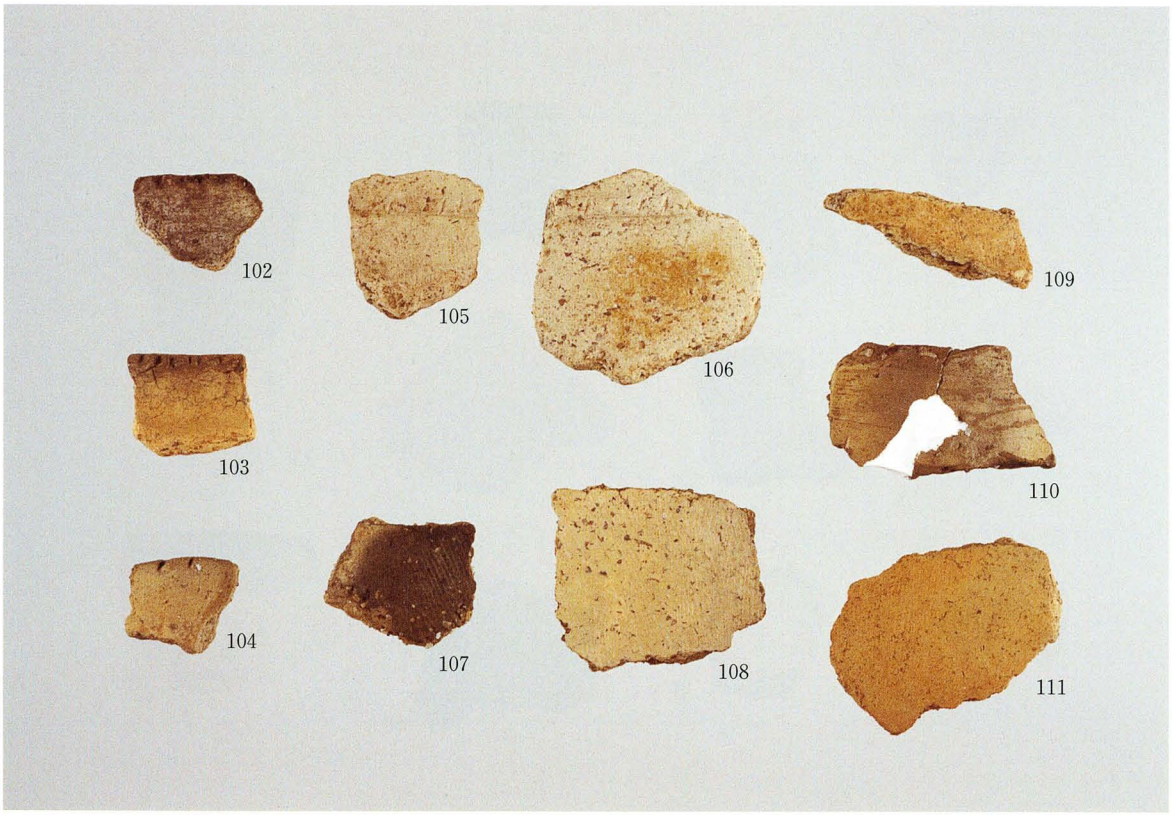
図版14　仁井田遺跡第４層直上出土遺物（報告№82～89）　表

図版14　仁井田遺跡第４層直上出土遺物（報告№82～89）　裏



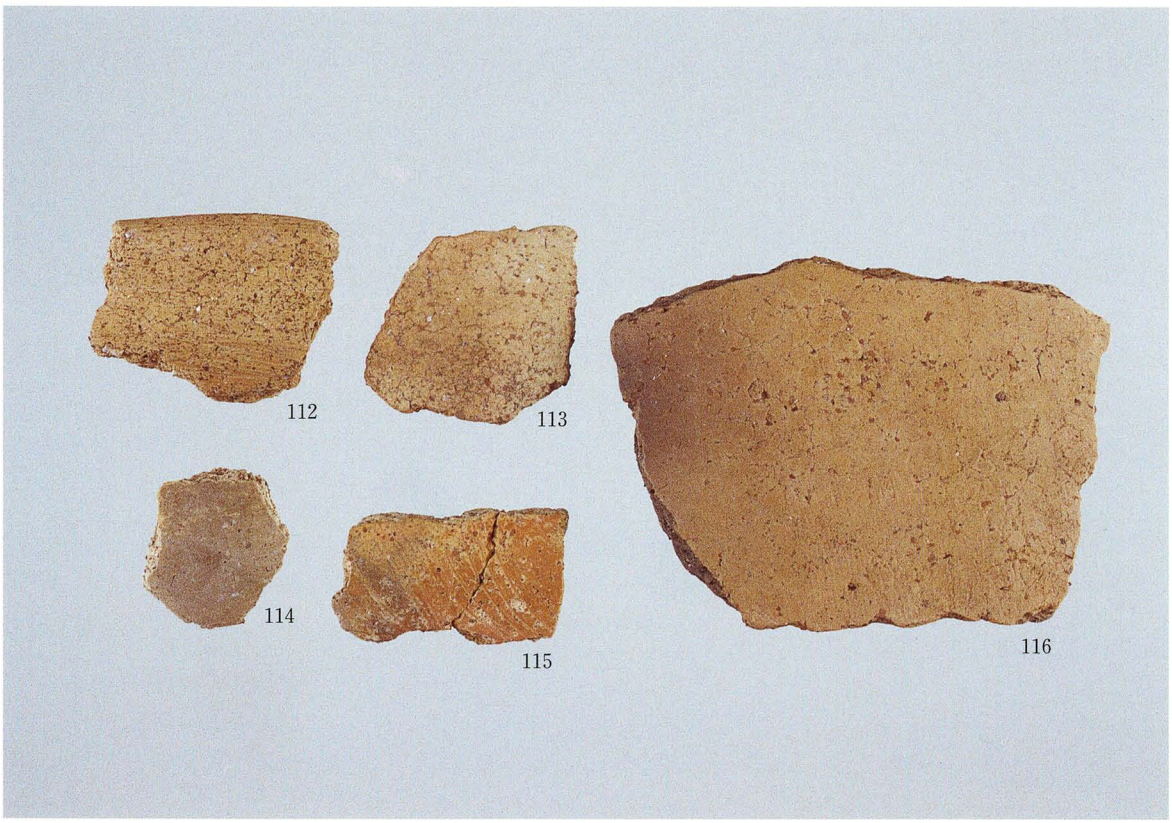
図版15　仁井田遺跡第４層上層出土遺物（報告№91～101）　表

図版15　仁井田遺跡第４層上層出土遺物（報告№91～101）　裏

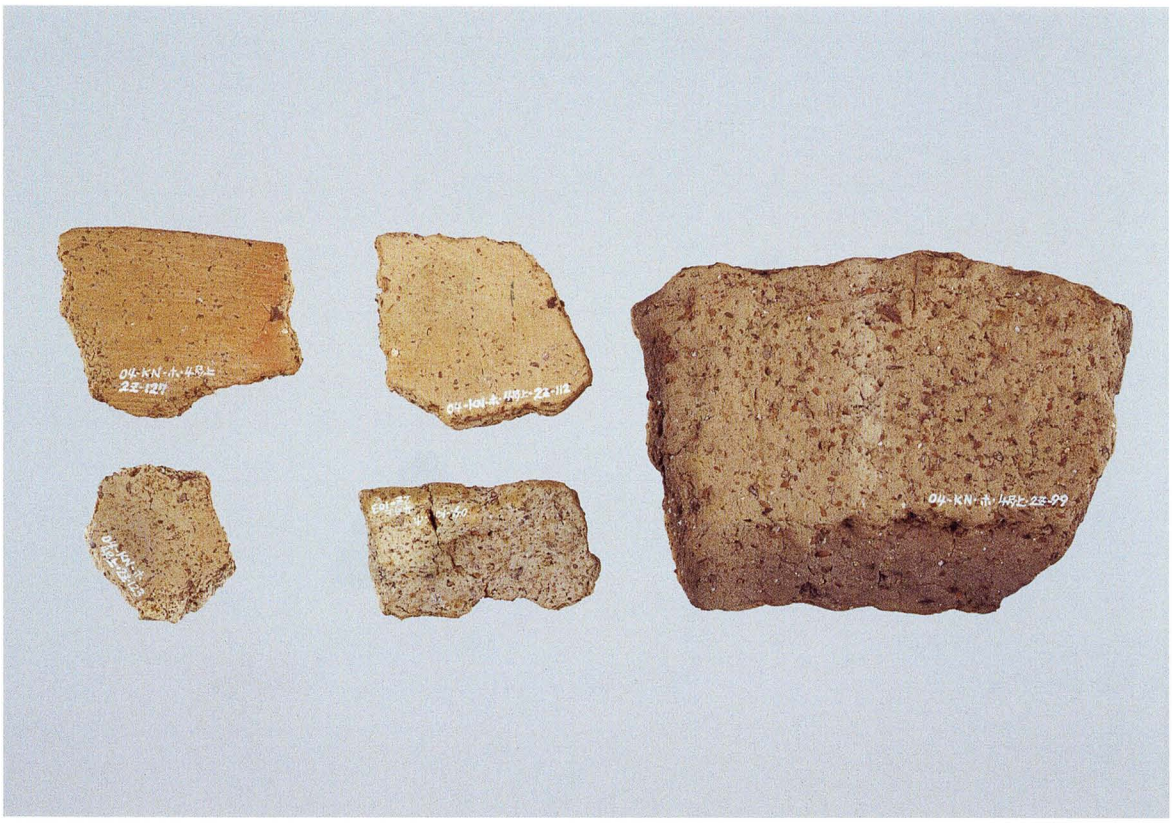


図版16　仁井田遺跡第４層上層出土遺物（報告№102～111）　表

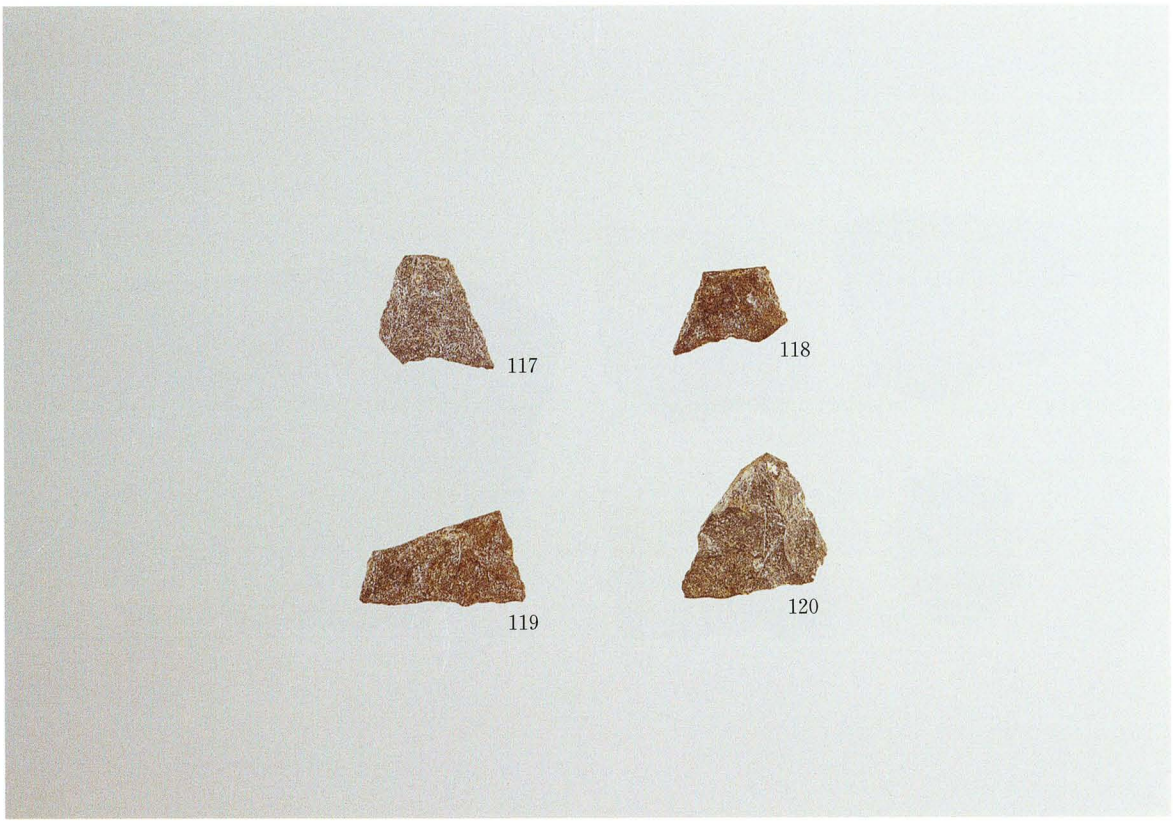
図版16　仁井田遺跡第４層上層出土遺物（報告№102～111）　裏



図版17　仁井田遺跡第４層上層出土遺物（報告No.112～116）　表

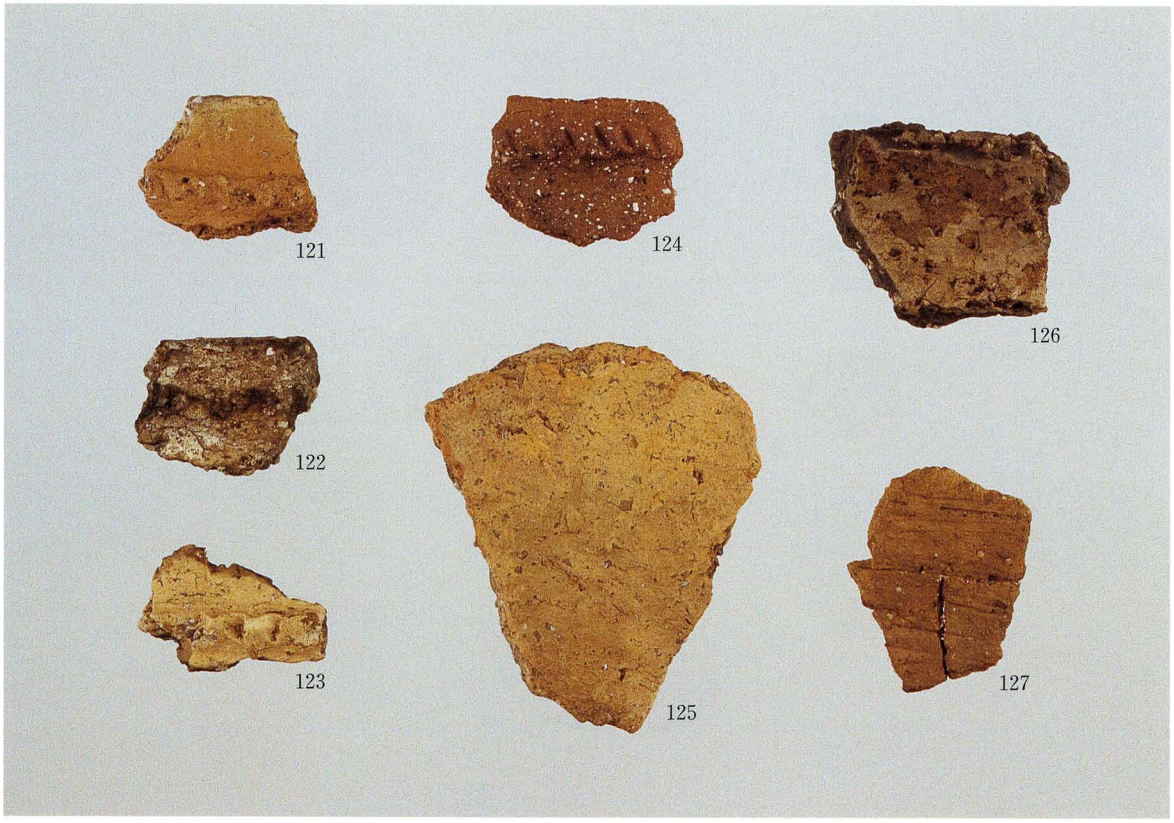


図版17　仁井田遺跡第４層上層出土遺物（報告No.112～116）　裏



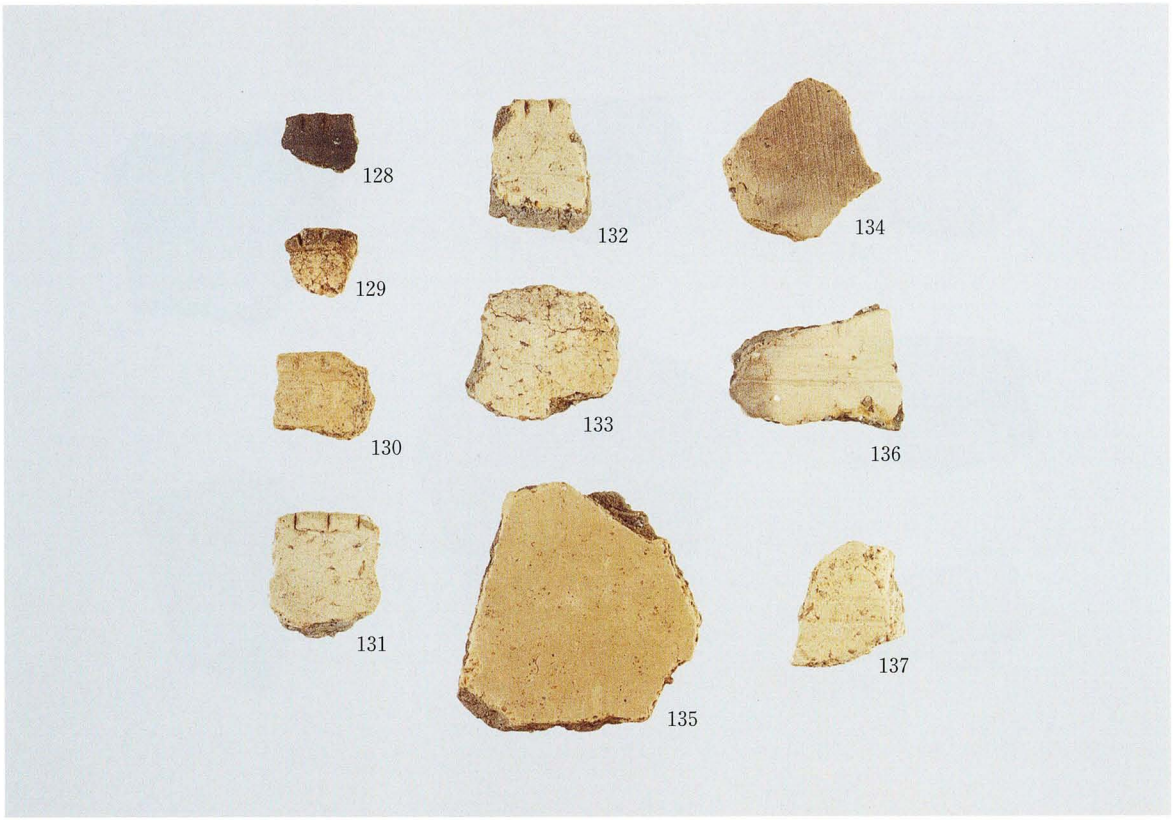
図版18　仁井田遺跡第４層上層出土遺物（報告№117～120）　表

図版18　仁井田遺跡第４層上層出土遺物（報告№117～120）　裏



図版19　仁井田遺跡第４層中層出土遺物（報告No.121～127）　表

図版19　仁井田遺跡第４層中層出土遺物（報告No.121～127）　裏

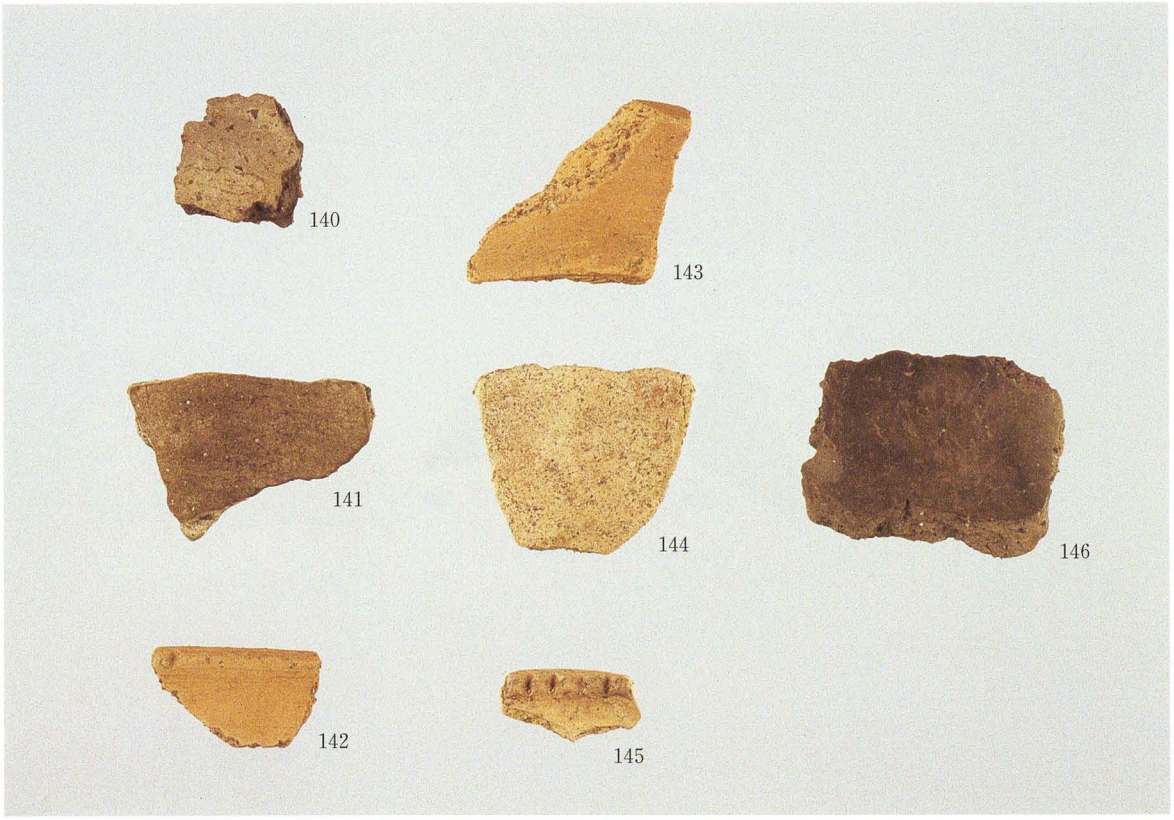


図版20　仁井田遺跡第４層中層出土遺物（報告№128～137）　表

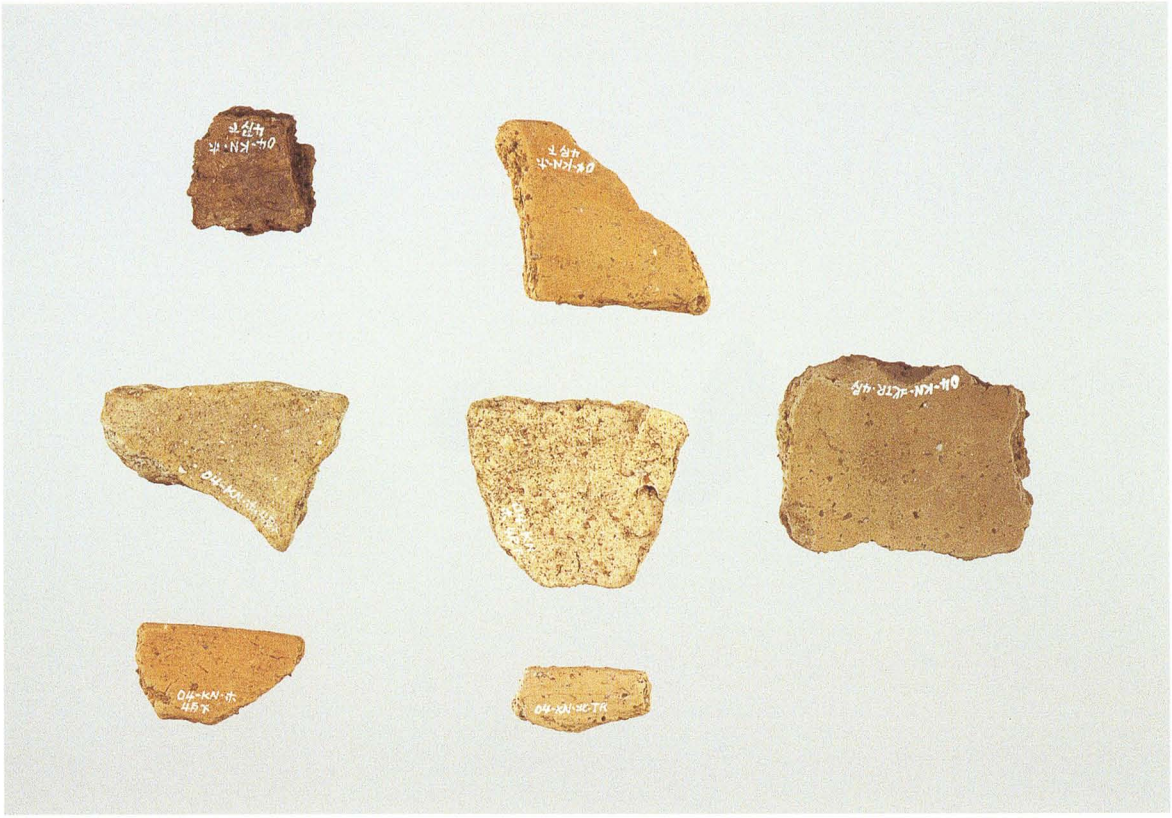
図版20　仁井田遺跡第４層中層出土遺物（報告№128～137）　裏

図版21　仁井田遺跡第４層中層出土遺物（報告№138・139）　表

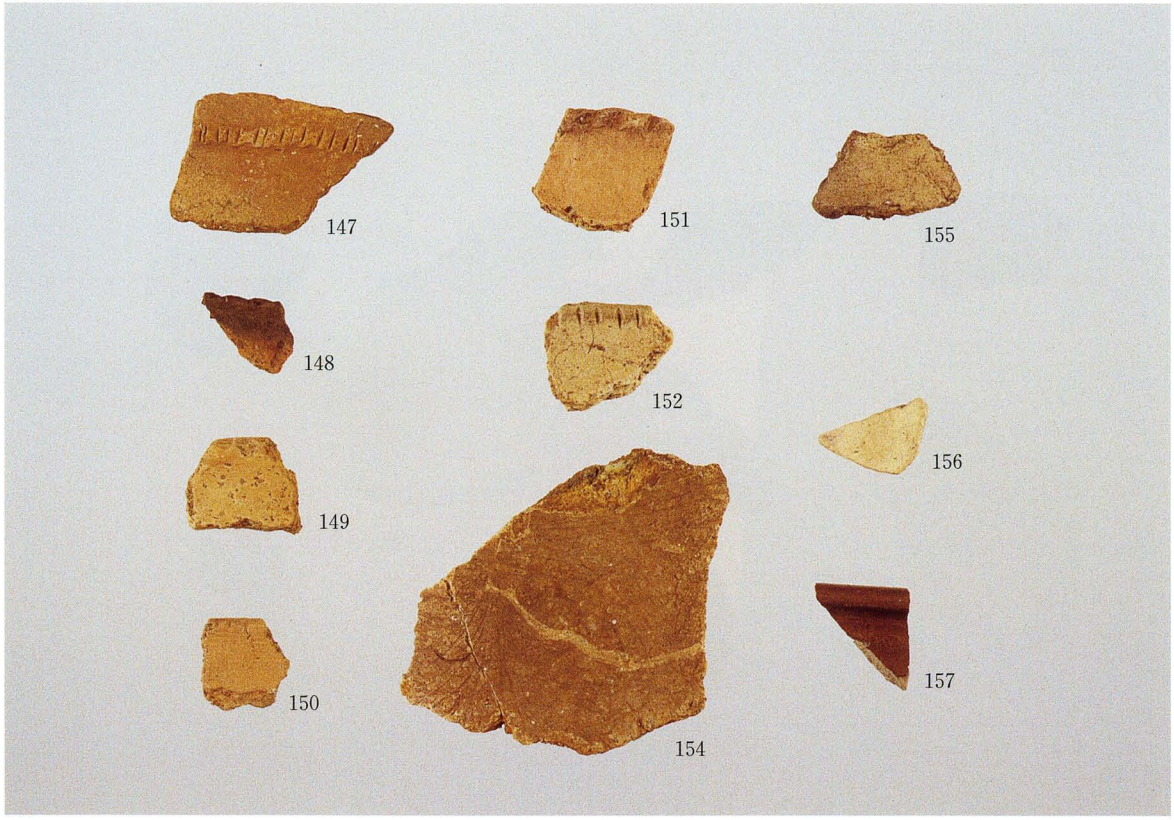
図版21　仁井田遺跡第４層中層出土遺物（報告№138・139）　裏



図版22　仁井田遺跡第４層下層出土遺物（報告№140～146）　表

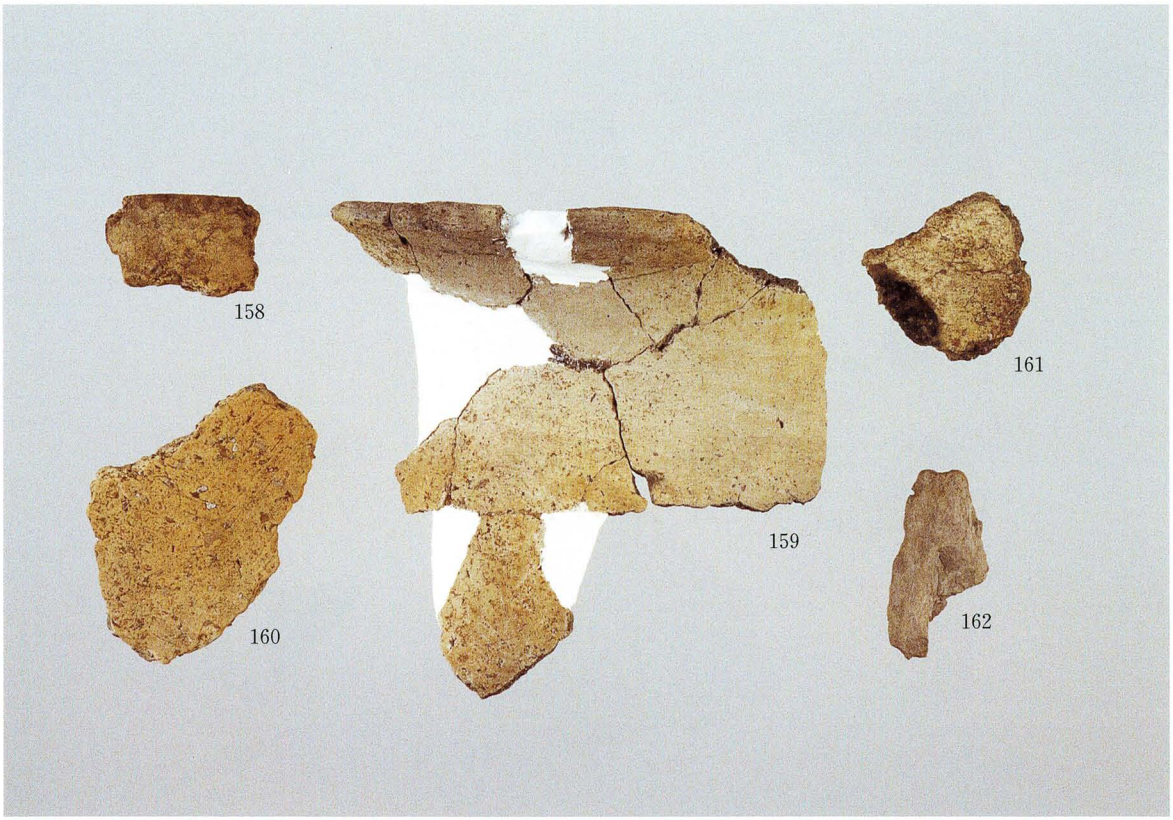


図版22　仁井田遺跡第４層下層出土遺物（報告№140～146）　裏



図版23　仁井田遺跡表面採集遺物（報告№147～157）　表

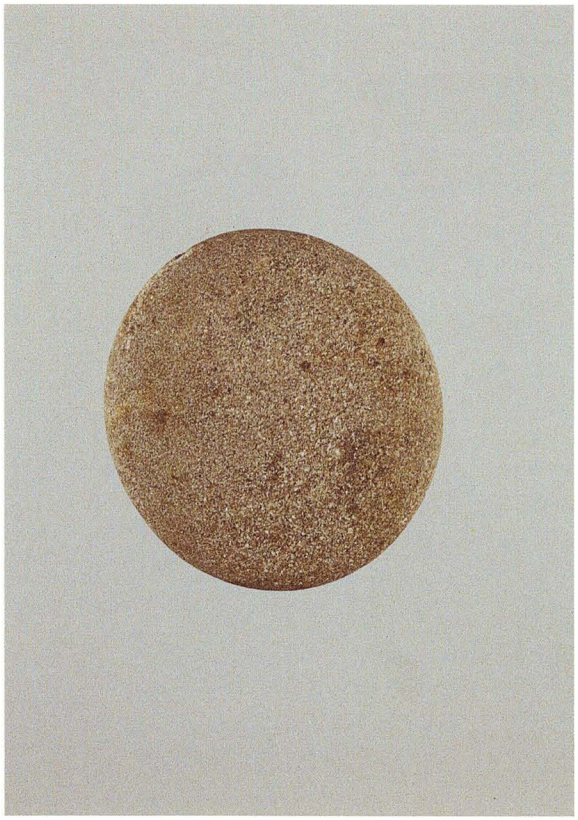
図版23　仁井田遺跡表面採集遺物（報告№153）



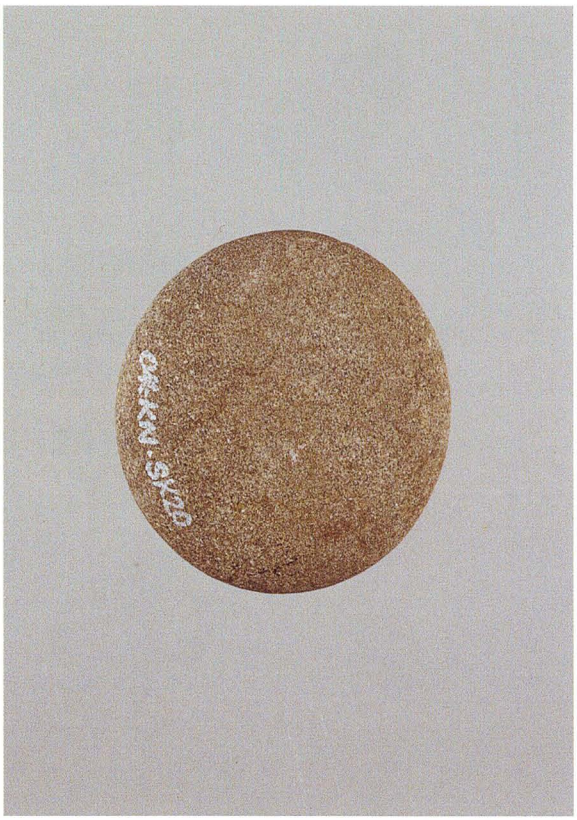
図版24　仁井田遺跡試掘調査出土遺物(報告№158～162)　表

図版24　仁井田遺跡試掘調査出土遺物(報告№158～162)　裏

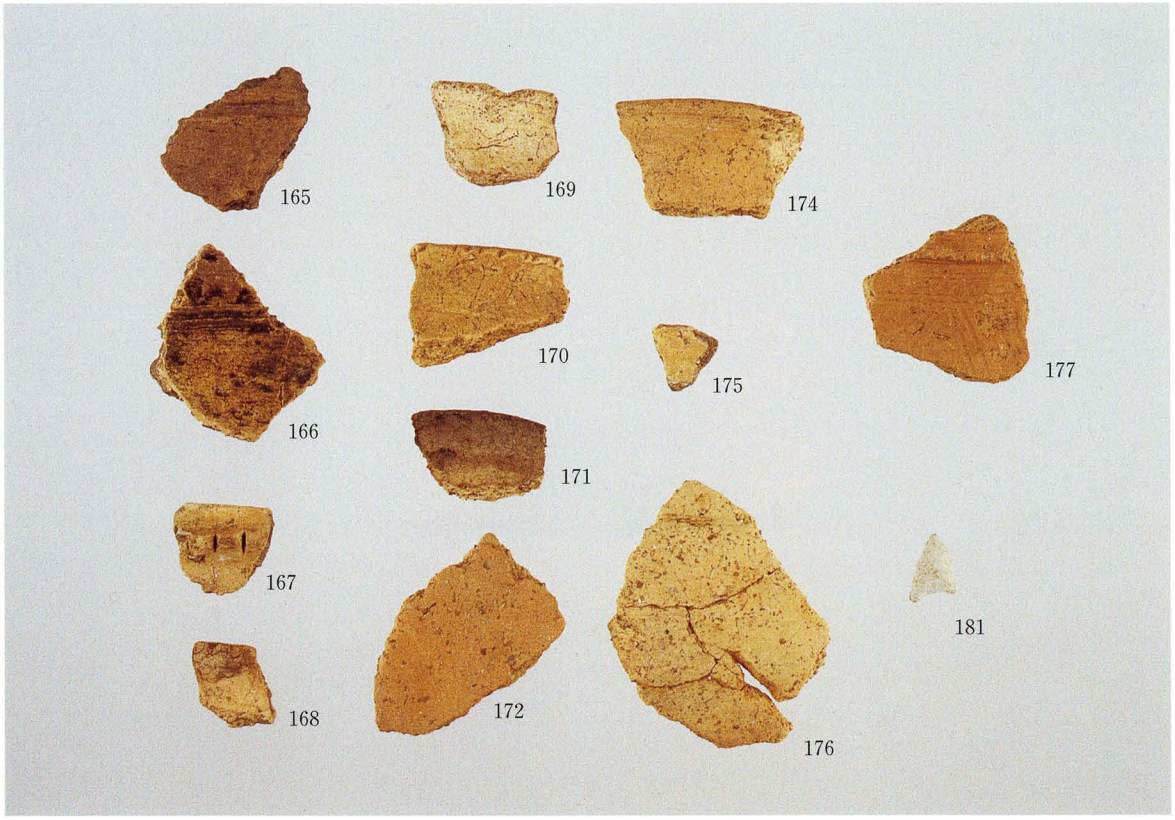
図版25　仁井田遺跡SK20出土遺物（報告№163）



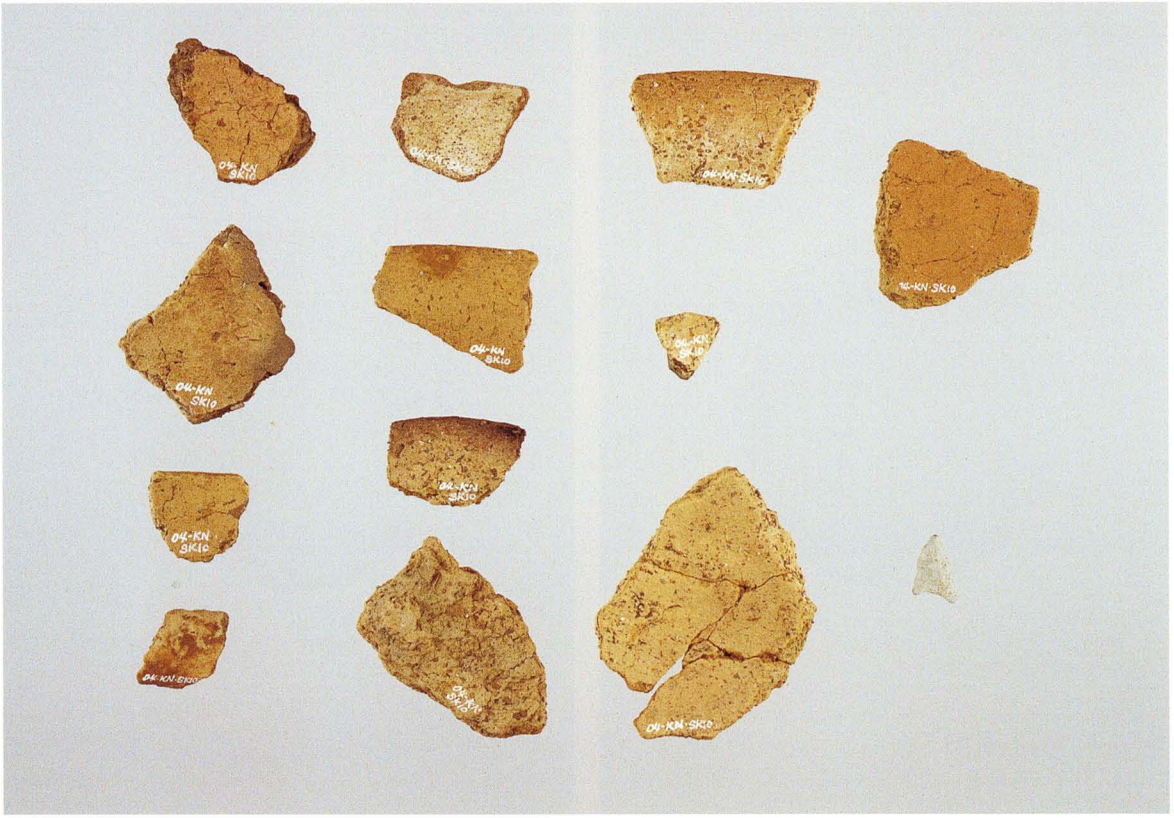
図版25　仁井田遺跡SK20出土遺物（報告№164）
表



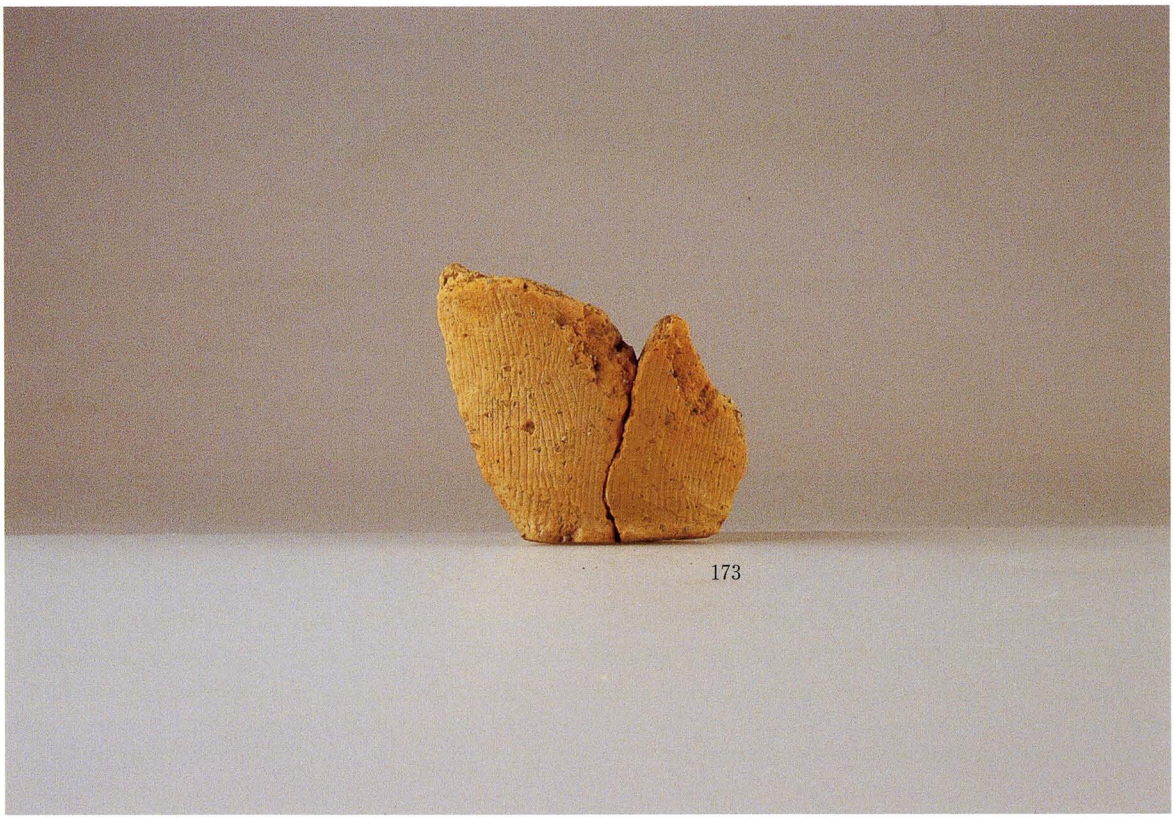
図版25　仁井田遺跡SK20出土遺物（報告№164）
裏



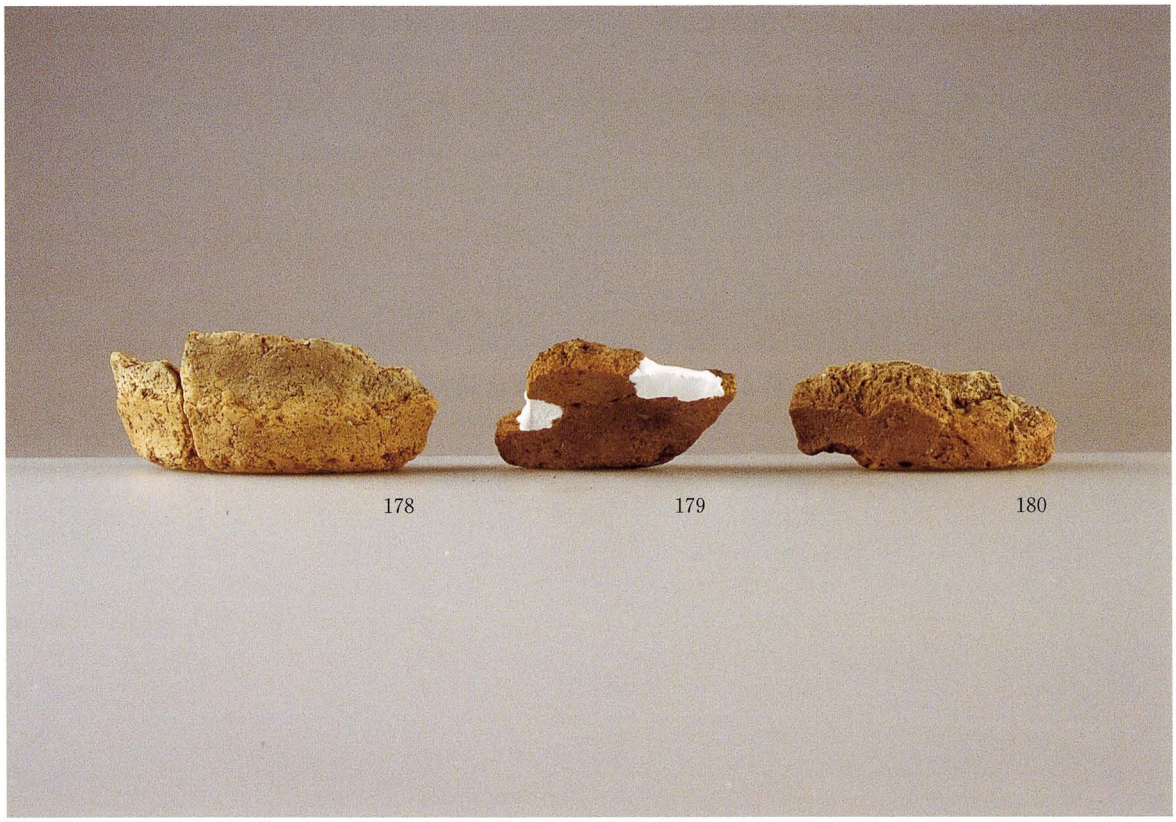
図版26　仁井田遺跡SK10出土遺物（報告No.165～172、174～178）　表



図版26　仁井田遺跡SK10出土遺物（報告No.165～172、174～178）　裏

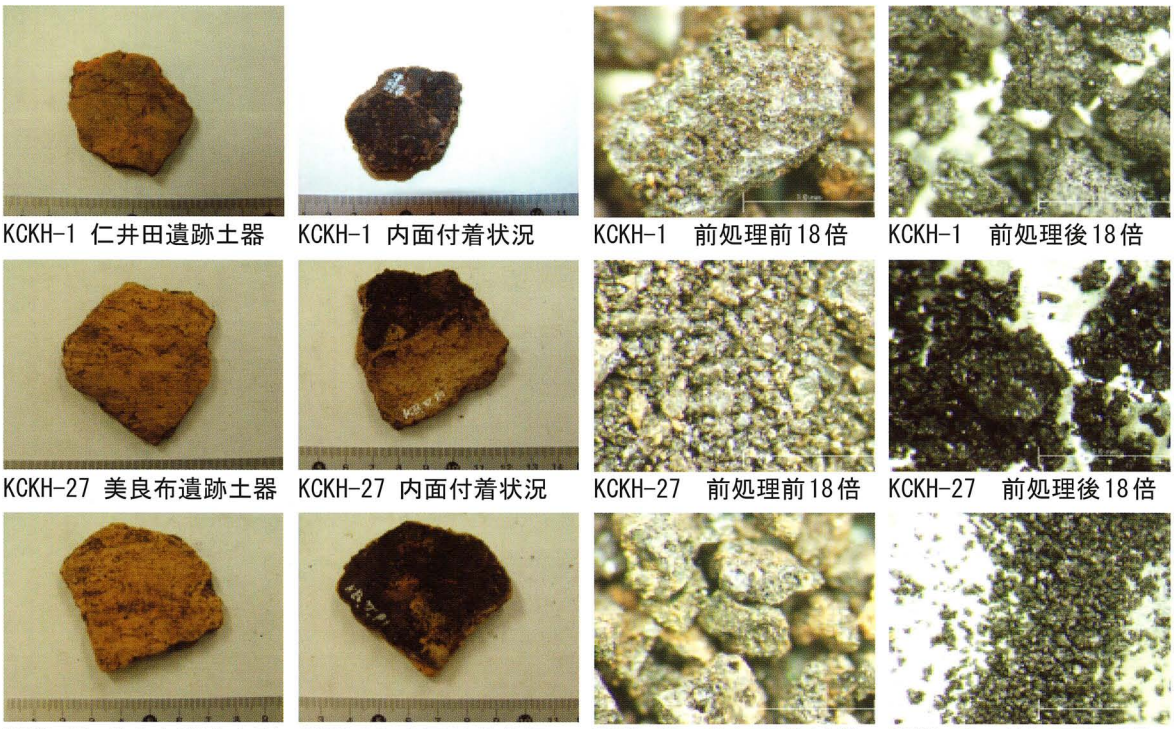


図版27　仁井田遺跡SK10出土遺物(173)



図版27　仁井田遺跡SK10出土遺物(178～180)

図版28　仁井田遺跡第４層直上出土遺物（報告№90※底面に籾圧痕２粒有）



KCKH-1 仁井田遺跡土器　KCKH-1 内面付着状況　KCKH-1　前処理前18倍　KCKH-1　前処理後18倍

KCKH-27 美良布遺跡土器　KCKH-27 内面付着状況　KCKH-27　前処理前18倍　KCKH-27　前処理後18倍

KCKH-28 美良布遺跡土器　KCKH-28 内面付着状況　KCKH-28　前処理前18倍　KCKH-28　前処理後18倍

図版29　仁井田遺跡^{14}C年代測定試料写真

報告書抄録

ふりがな	にいだいせき
書名	仁井田遺跡
副書名	個人営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	香北町埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第4集
編著者名	松本安紀彦（香北町教育委員会） 小林謙一・遠部慎・宮田佳樹・松崎浩之 （学術創成研究グループ・国立歴史民俗博物館）
編集機関	香北町教育委員会
所在地	〒782-4292　高知県香美郡香北町美良布1097　TEL0887-59-2312
発行年月日	西暦　2006年2月20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
にいだいせき 仁井田遺跡	〒781-5234 こうちけん 高知県 かみぐん 香美郡 かほくちょう 香北町 よしのあざ 吉野字 よこまくら 横枕380	326	220024	33° 39′ 34.23″	133° 48′ 36.08″	平成16年 11月4日 ～ 平成16年 12月20日	500㎡	個人営 ほ場整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
仁井田遺跡	集落遺跡	縄文時代 晩期末 ～ 弥生時代 前期中葉	貯蔵穴 土坑	縄文土器 弥生土器 石鏃 碁石状石製品	縄文文化と 弥生文化の 二重構造を 示す遺跡

香北町埋蔵文化財発掘調査報告書第４集

仁　井　田　遺　跡

個人営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2006年２月

発　行　　香北町教育委員会

〒782-4292　高知県香美郡香北町美良布1097

TEL0887-59-2312

印　刷　　川北印刷株式会社